

～ 目次 ～

○	ラボック市の概要・交流実績	2
○	テキサス州の歴史	3
○	派遣日程	4
○	事前研修のアルバム	6
○	派遣研修のアルバム	8
○	ホームステイの思い出	16
○	感想文・研究テーマ調査発表	31
○	団員アンケート集計結果	65
○	保護者アンケート集計結果	74

※ホームページでの公開にあたり、団員の個人情報に配慮し、氏名を伏せる等の加工を行っています。



ラボック市の概要・交流実績

～概要～

位置	アメリカ合衆国テキサス州の北西部
面積	350 k m ²
人口	約 270,000 人
気候	年間平均気温 16.4℃ 年間を通じて晴天が多く、乾燥して爽やかな気候
歴史	1870 年代後半 入植開始
	1909 年 鉄道開通、市制施行
	1923 年 テキサス・テック大学創設
	1940 年代 空軍基地が開設され、経済成長を遂げる
	1970 年代 激しい竜巻に襲われるが、スムーズに再建される
	1995 年 空軍基地撤退
	2005 年 全米で保守的な町・第 2 位にランクイン、ハリケーンによる避難者を受け入れる
	2009 年 ラボック市市制 100 周年を迎える
	2016 年 アメリカ地質調査所は、ラボックからミッドランドに広がるシェール油田が、アメリカ国内最大規模であると発表。
産業	綿花、小麦、トウモロコシ、石油産業、ハイテク産業
交通	米 3 大航空会社乗り入れ、鉄道 2 社運行、縦横に高速道路が走る

～交流実績～

*役職は当時のものです。

1986 (昭和 61) 年	7 月	第 1 回ジュニア大使親善使節団派遣 (2008 年まで毎年、以降隔年実施)
1988 (昭和 63) 年	4 月	土屋市長ラボック市他テキサス州各都市を訪問
	12 月	マクミン前ラボック市長、テキサス・テック大学関係者来訪
1990 (平成 2) 年	7 月	第 1 回ラボック市ジュニア大使一行来訪
	10 月	井口一男議長、坂本章子副議長ラボック市を訪問 武蔵野市開村 100 周年を記念してテキサス工科大学からバラ 10 品種 100 株の寄贈を受ける
1992 (平成 4) 年	7 月	第 2 回ラボック市ジュニア大使一行来訪
1995 (平成 7) 年	6 月	第 3 回ラボック市ジュニア大使一行来訪 (2008 年まで毎年、以降隔年実施)
1996 (平成 8) 年	10 月	常田幸次議長、寺山光一郎議員ラボック市を訪問
2001 (平成 13) 年	6 月	「武蔵野市・ラボック市ジュニア交流団協定書」締結
	8 月	井口良美議長、小川将二郎副議長等議員団 7 名ラボック市を訪問
2002 (平成 14) 年	6 月	ラボック市から第 10 回ラボック市ジュニア大使を記念して「武蔵野市・ラボック市友好の風車」の寄贈を受ける
2005 (平成 17) 年	6 月	ラボック市から交流 20 周年を記念して、モニュメントの寄贈を受ける
	8 月	ジュニア交流団 20 回記念パネル展開催
2006 (平成 18) 年	2 月	ジュニア交流団 20 回記念市民団派遣
2009 (平成 21) 年	3 月	ラボック市市制 100 周年を記念して記念品を寄贈
2010 (平成 22) 年	6 月	交流 25 周年を記念してモニュメントの寄贈を受ける
2011 (平成 23) 年	7 月	交流 25 周年を記念して記念品を寄贈
2016 (平成 28) 年	6 月	交流 30 周年を記念して記念品の交換と記念式典を行う
2020 (令和 2) 年		新型コロナウイルス感染症の影響により令和 4 年度まで対面交流中止
2023 (令和 5) 年	6 月	第 22 回 ラボック市ジュニア大使一行来訪 (交流再開)

★ テキサス州の歴史 ★

1492年、コロンブスによる歴史的に有名なアメリカ大陸の発見当時、既にテキサスにはいくつかのネイティブアメリカンの種族が住んでいたと言われています。ネイティブアメリカンのTayshas（友人）と仲間内を呼び合う言葉がTexasという現在の州名へと転じたと言われています。

1519年からスペイン（1685～1690年の間はフランス領）の支配下に入り、1821年、メキシコのスペインからの独立と同時にメキシコ領となりました。その後、Stephan F. Austinによる入植と共に白人人口が増加し（1836年：52,000人）、それに伴い言語や文化的な対立が、メキシコ側とテキサス入植者との間で顕著になりました。1836年、サンアントニオにおいて対立は激化し、有名な「アラモの砦」を舞台として戦闘が繰り広げられるに至りました。英雄デビー・クロケット率いるテキサス側自衛軍（入植者）187人は約5,000人もものサンタアナ大統領自ら率いるメキシコ軍に囲まれ、13日間続いた戦いの後、降伏することなく全員壮絶な死を迎えました。

アラモ陥落後、「Remember the Alamo」を合言葉にテキサスは共和国としての独立宣言のもとに結束し、サンジャシントにてメキシコ軍を大破し、テキサス共和国が誕生しました。初代大統領としてサム・ヒューストン大統領が就任しました。

1845年12月29日には28番目の州として、連邦に併合されました。1861年～65年には南軍として南北戦争に参戦しましたが、敗北を味わいました。1901年にはスピンドルトップで石油が大噴出し、その豊富な資源により潤いましたが、1980年代のオイルショックにより経済的打撃を受けました。現在は宇宙開発計画を軸とするハイテク産業の中心地としての活気を再び取り戻しています。

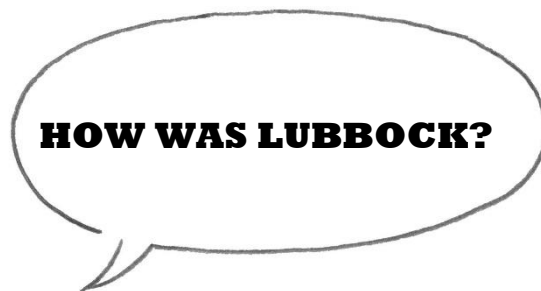
よく言われる州の独自性の強さは、上記のような歴史的背景に通じており、テキサス州の州旗「ローン・スター」は州の別称として人々に愛されています。



派遣日程

日付	時間	行程
日本時間 7月23日 (火)	11:20	市役所集合
	11:30	出発式
	12:00	市役所 バス出発
	14:00	成田空港着
	16:30	デンバー国際空港へ出発
現地時間 7月23日 (火)	12:10	デンバー国際空港到着、乗り継ぎ
	17:50	プレストン・スミス国際空港（ラボック）へ出発
	20:30	プレストン・スミス国際空港（ラボック）着
	21:30	ホテル着 チェックイン
	21:35	ホテルにて夕食
7月24日 (水)	6:30	起床・準備、ホテルにて朝食
	8:40	テキサス工科大学（TTU）へ移動
	9:00	テキサス工科大学見学～The Texas Tech Clubにて昼食
	15:20	West End Shopping Centerへ移動
	16:00	Hawaii Fluid Artにてアート体験、ショッピング
	19:00	Double Dave's Pizzaにて夕食
	21:00	ホテル着
7月25日 (木)	6:30	起床・準備、ホテルにて朝食
	8:10	バディ・ホリー・ホールへ出発
	8:20	バディ・ホリー・ホール 見学
	9:20	ラボック市民会館へ移動
	9:30	出し物練習
	10:30	風車博物館(American Windmill Museum)へ移動
	10:45	風車博物館 見学
	12:30	Chopped and Sliced BBQ（レストラン）へ移動
	12:45	Chopped and Sliced BBQにて昼食
	14:00	イーガート牧場へ移動
	14:30	イーガート牧場訪問～夕食
	20:00	ホテルへ移動
	20:30	ホテル到着
7月26日 (金)	6:30	起床・準備、ホテルにて朝食
	8:00	ホテルチェックアウト
	8:30	ラボック市役所へ移動
	9:00	市議会（議場）にて特別表彰式
	10:00	市役所11階見学、バルコニーよりラボック市を一望
	10:30	交通管理センター（市役所6階） 見学
7月26日 (金)	10:55	市役所2階で昼食
	12:10	ラボック警察署本部 デモンストレーション見学
	13:45	トイレ休憩・バス乗車
	14:10	ラボック消防レスキュー（LFR）第1分署見学
	16:45	ホテルへ移動
	17:00	ホームステイの荷物をピックアップ
	17:15	ホストファミリー対面式
	18:00	ホームステイ開始

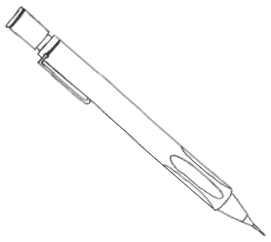
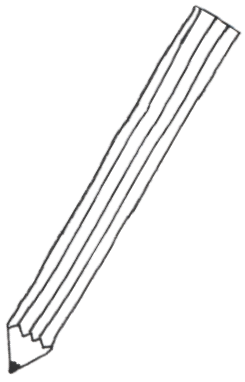
7月27日(土)		終日ホームステイ
7月28日(日)	16:30	ホームステイ終了・ホテルチェックイン
	17:00	さよならパーティー・出し物準備
	17:45	会場(ラボック市民会館の宴会場)到着
	18:00	さよならパーティー/出し物披露
	21:00	ホテル到着
	21:30	帰国準備・荷造り
7月29日(月)	6:30	起床・準備、ホテルにて朝食
	8:00	プレストン・スミス国際空港へ出発
	8:15	プレストン・スミス国際空港到着
	9:40	デンバー国際空港へ出発
	10:24	デンバー国際空港に到着
	12:10	成田空港へ出発
日本時間 7月30日(火)	14:55	成田空港 第一ターミナル到着
	16:00	バス出発
	19:00	市役所に到着
	19:15	帰国式
	19:30	解散



事前研修のアルバム

	日時・場所	内容
結団式	6月2日(日) 13:00~13:45 西棟 811 会議室	①市長あいさつ ②団員任命書交付 ③団長挨拶 ④記念撮影
第1回 事前研修	6月2日(日) 13:55~16:30 西棟 813 会議室	①旅行会社・保険会社説明 ②ジュニア交流団参加にあたって ③ホームステイシート、定時・緊急連絡先調査表について ④引率職員紹介・ジュニア交流団のみなさんへ(団長) ⑤ポロシャツサイズ確認 ⑥団員自己紹介・出し物決定 ⑦連絡事項
第2回 事前研修	6月11日(火) 18:00~20:00 西棟 411 会議室	①自己紹介アルバムについて ②研究テーマ調査票・報告書 ③ホストファミリーへのお土産について ④報告書用個人写真撮影 ⑤出し物リーダー等決定 ⑥出し物練習
第3回 事前研修	6月23日(日) 14:00~17:00 西棟 411 会議室	①持ち物について(チェックリスト) ②前回団員からのアドバイス ③英語研修1 ④ホームステイ・ホテル部屋割ペアの発表 ⑤団員の役割決定 ⑥出し物練習
第4回 事前研修	7月4日(木) 18:00~20:00 オンライン	①英語研修2 ②全般的な注意事項・国際マナー ③健康管理について ④武蔵野市ジュニア交流団 団員としての心構え ⑤ラボックの豆知識
第5回 事前研修	7月15日(月) 14:00~16:30 西棟 111 会議室	①自己紹介アルバム質疑応答 ②英語研修3 ③しおりについて(日程、緊急連絡先等) ④ポロシャツ配布 ⑤出し物練習





派遣研修のアルバム

※一日ごとに団員が分担して執筆

1日目 7月23日(火)

7月23日、出発式を前に団員が市役所に集合しました。皆少し緊張している様子で、忘れ物がないか、荷物はすべてスーツケースに入ったか、などと声を掛け合っていました。

出発式を終え、バスに乗り込みました。窓から外を見ると、たくさんの人が手を振って見送ってくれていました。とても応援されているなど感じ、気が引き締まりました。それと同時に家族と離れる寂しさもこみ上げてきました。バスの中では、昼食のお弁当を食べたり、団員と話をして過ごしました。皆の緊張も徐々にほぐれてきたようでした。

成田空港に到着後、搭乗手続きと出国手続きを済ませ、デンバー行き UA142 便に搭乗しました。機内の乗客や乗務員のほとんどが外国の方で、聞こえてくるのは英語。まだアメリカには着いていないけれど、もう外国に来た気分でした。



デンバー国際空港までは約 11 時間かかりました。1回目の機内食後、映画を観たりして過ごし、あとは睡眠をとりました。5時間ほど眠ったと思います。その後、2回目の機内食を食べました。同じ姿勢で座っていたり、脚をあまり伸ばせなかったため、皆やや疲れた様子でしたが、無事にデンバー国際空港に到着しました。

デンバー国際空港で入国手続きを済ませると、モノレールに乗りターミナル A からターミナル B へ移動し、通訳でお世話になるユカさんと合流しました。その後、いくつかのグループに分かれて空港内で昼食をとりました。ここでは初めて自分達だけで食事を注文することになりました。翻訳アプリを使いましたが、メニューを読むのも店員さんに注文を伝えるのにも時間がかかり大変でした。

昼食後、プレストン・スミス国際空港行きの UA5428 便に乗り、2時間ほどでラボックに着きました。到着した時には眠そうな団員が多くいました。スーツケースを受け取り、出口へ向かうと、なんとホストファミリーの方々が、日本語で「ようこそラボックへ」と書かれたボードを掲げて集まってくださっていました。急に皆が緊張してきました。自分がお世話になるホストファミリーが来てくれているかどうか気になって、ドキドキしながら探していました。

出迎えてくれたホストファミリーとの写真撮影をした後、バスに乗ってオーバートンホテルへ向かいました。ホテルで夕食をとり、ロビーで翌日の打ち合わせを行い、1日目は終わりました。



2日目 7月24日(水)

昨夜ラボックに到着、今日は早速大イベントが予定されています。テキサス工科大学の見学です。テキサス工科大学は「Texas Tech」とも呼ばれています。学生数は4万人もいてテキサス州で6番目に大きな大学です。構内は武蔵野市の10分の7くらいの大きさがあるそうです。私は楽しみに朝5時に起きてしまいました。

まず、大学に着いて、「これって本当に大学？緑が多くてとっても広くて公園みたい！！」とびっくりしました。建物自体も大きいのですが、さまざまなオブジェや、丘みたいなものもありました。大学のメインの建物のところでまず挨拶をし、ゲストステッカーをもらいました。その後に、小部屋で国際入学カウンセラーの方がテキサス工科大学について教えてくださいました。入学条件のほか、どんな科目があるか、キャンパスでの生活などを知ることができました。



次は、みんなが一番楽しみにしていたキャンパスツアーです。大学4年生の方が案内してくださいました。科目によって建物が分かれていて、学生さん達が慌ただしそうに歩いていました。他にも、図書館や学生会館にもいきました。芸術系の建物はアートがあって、建物自体もとても工夫されていて、見ていて楽しかったです。中心の建物の上には鐘があり、昔はスポーツの試合などで勝ったら一晩中鳴らしていたそうですが、「うるさい」という苦情が多くなったので今は30分だけ鳴らしているそうです。夏休みなのに建物の中ではたくさんの学生がパソコンに向かっていて驚きました。また、「eスポーツルーム」というのもあってびっくりしました。最後にキャンパス内の売店でお土産を買いました。帽子やキーホルダー、Tシャツやパーカーなど色々ありました。とっても悩んで、私は「Texas Tech」と書いてある水筒を買いました。



その後、とても大きい Texas Tech のアメリカンフットボール場のVIP観覧室でお昼ご飯を食べました。ビュッフェスタイルになっていて、自分でハンバーガーを作りました。

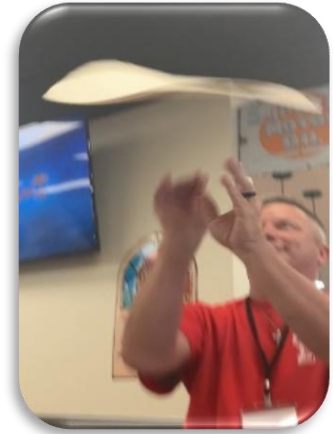
昼食の後は、「ユナイテッド・スーパーマーケット・アリーナ」と呼ばれる体育館でバスケをやりました。普段はバレーボールやバスケの試合、コンサートや卒業式等が行われるそうです。最後には野球場にもいきました。他にもプールなどがありました。

次に、「West End Shopping Center」というショッピング街の中の「Hawaii Fluid Art」というところまでバスで行きました。ここでは帽子かタンブラーをデザインできて、私はタンブラーにしました。まず、白か黒の下地みたいなものを塗って、あらかじめ選んでおいた3色の粉とレジンを混ぜながらコップに塗っていきます。

私は、青系の色にしましたが、ピンクや緑、オレンジや紫など、いろいろな色があって、みんなとても綺麗なタンブラーでした。そこにテキサスの形のシールを貼りました。コーティングして1日乾かすため、渡されるのは最終日だそうです。とても良いテキサス土産になって、出来上がりが楽しみです。

そのあとはショッピング街でお土産を買う時間でした。全品5ドル以下のお店に行って、友達に渡すお土産や自分用のお土産を買いました。2日目なのにもう「お金足りない〜」「荷物、トランクに入らないかも」と言っている人がいました。可愛いものがたくさんあって私も思わずたくさん買ってしまい、後で少し心配になりました。

そのままバスで夜ご飯のピザ屋さん、「Double Dave's Pizza」に行きました。何種類ものピザが用意されていて少しずつ取って食べました。日本語のメニューをつけてくれてあったので、わかりやすかったです。最後はおやつピザもありました。私が気に入ったのは、チーズピザとデザートのカナモンアップルピザです。最後の方でお店の方がピザの生地を丸く伸ばして、frisbeeのように投げ飛ばしてキャッチボールみたいにして遊んでくれました。とっても楽しかったです。ラボックについて2日目、大充実の1日でした。



3日目 7月25日(木)

3日目はバディ・ホリー・ホールの見学やさよならパーティーの出し物練習、風力博物館の見学、イーガート牧場への訪問など、とても盛りだくさんで賑やかな一日でした。

2日目と同じようにバスに乗り、団員とわいわい盛り上がりながら一日が始まりました。最初にしたことはバディ・ホリー・ホールの見学です。バディ・ホリー・ホールは舞台芸術会場でバレエや演劇はもちろん、歌手によるライブも行われている場所でたくさんのパフォーマンスが行われています。バディ・ホリー・ホールの由来は、ラボックの歌手であるバディ・ホリーからとったものです。ロカビリーとロックンロールの先駆者として有名です。



バディ・ホリー・ホールの広さは約2,800平方メートルで最大2,800人を収容できます。中に入った時、最初に目についたものは螺旋階段です。この螺旋階段は建設者がとてもこだわって作ったそうで、1階から上の方の階までをたったの2か所で支えているという、とても衝撃的なものでした。階段数は4階まで192段あります。その後、一番大きい舞台とラボックの市立の学校に貸し出しができる、もう少し小さいサイズの舞台を見学させていただきました。一番大きい舞台は想像以上に素敵な所で、中に入った途端その広さに圧倒されました。舞台から一番上の四階までぎっしりシートがあり、4階の一番上に行き大きな声で「アリーナ！」と叫びました。自分たちの発した声が会場中にこだまして、とても不思議な気分になりました。貴重な体験でした…。

風力博物館ではたくさんの大きな風車があり、その中の1つ外にあった風車を見学させていただきました。次は中で風車の歴史について実際に当時の風車を見ながら説明を聞きました。発電だけに使われていると思っていた風車が、実は生活に役立つようにも使われていたという、新たな一面を知れました。薪割りや洗濯などに使われていたそうです。お土産ショップではお店の可愛い犬に会えて、団員のテンションが上がっていました。受付の方からおやつをあげさせてもらって嬉しかったです。

イーガート牧場ではとにかく自由に楽しませてもらいました。乗馬をさせていただいたときにテキサスレンジャーに会えて興奮しました。また、牧場の方が「馬に乗るのがうまい」と言ってくださいました。嬉しかったです。馬はおとなしく、毛並みが綺麗でかっこよかったです。そこからは自由時間で私はプールで過ごす時間が一番長かったのですが、ほかにも釣りなどをしました。プールに入っていた時

にウォータースライダーがあって何回も何回も乗りました。一番スリルのある滑り方は何かなど刺激的な遊びもしました。夜はバーベキューをしました。ハンバーガーやホットドッグ、クッキー、カップケーキ、パイなど夢のような夜ご飯でおいしかったです。とても印象に残っています。



帰りのバスで年に1度見られるかどうかだと言われる自然現象を見ました。大きな真紅の太陽が神秘的でした。

3日目はとても忙しかったので全員疲れ切っていました。みんなホテルに戻って早々寝ていたと思います。多忙でしたが、特に体調不良者は出ず、素晴らしい一日でした。



4日目 7月26日(金)

この日は、今回の派遣の中で一番大切と言ってもいい、表敬訪問が朝一番にありました。さらに午後からはホームステイが始まるため、チェックアウトが必要で、いつもより早く集合。ホームステイの準備で寝るのが夜遅くなってしまう人も多くいましたが、全員無事にバスに乗れてよかったです。市役所の人たちは、バスから降りてきた私たちを囲むように出迎えてくれました。何人もの人とハグや握手で軽い挨拶をした後、ラボック市の市長からのお言葉、団員一人ずつ、事前に考えてきた短い自己紹介をし、最後に、ラボック市の人達のサインが書いてある名誉市民証を頂きました。それをもらった時はとても誇らしい気持ちでいっぱいでした。またお土産として、テキサスの形をした、大きなピンク色のお砂糖のようなものに、大量のピーナッツが入っているお菓子などをもらいました。日本では見ないこの大きさと色に、「えっ？これお菓子だよな？」と思わず二度見してしまいました。

次に市役所内の見学です。市役所はとても広く、勤めている人たちには、それぞれの個室があるように見えます。途中、ベランダに出て、市内を見渡す時間がありました。そこでは警察署の方々がわざわざ私たちのためにドローンを出してくださり、そのドローンで記念撮影をしました。市長とツーショットを撮る人、中には一緒に変顔をしている人もいて、とても賑わっていました。他には、公共事業部の人たちが普段行っていることをみんなに教えてくれました。そして一人一人、記念メダルをもらいました。そのあとは待ちに待ったお昼ご飯です。上陸してから初のメキシコ料理で、みんなワクワクしていました。トルティーヤにお肉や野菜を挟んだり、ソースをかけたり…みんな、オリジナルのタコスを食べ楽しんでいました。私は、市役所に勤めている人たちと少し話しながら食べて、英語を使ったせいか、アメリカに来た！と改めて実感しました。私のホームステイ先のお母さん（シルビアさん）は市役所で働いていて、たまたま帰る間に会い、一緒に写真を撮りました。時間はあっという間に過ぎ、市役所のみなさんとはお別れしました。





そして次は警察署に行き、色々なことを教えてもらいました。まず、警察犬の訓練の見学です。泥棒役の警察官は、とても分厚い布の防護服を着ていますが、すでに破れて糸がほつれているように見え、たくさん訓練していることを感じさせます。警察犬はとても頭がよく、言われたことをはっきりと聞き取って、噛みつくのをやめたり、泥棒が少しでも動いたら噛みにいったりと、ON・OFFの切り替えがとても速かったです。人間として見習いたいぐらいでした。その次は白バイ、ドローン、馬、パトロールカー、ベアキャットについて、それぞれの部隊の方に説明してもらい、そのあとは自由見学をしました。ちなみに

ベアキャットはSWATの装甲車のことです。ドローン进行操作したり、馬に触ったりしました。私は日本の警察のこともあまり知らないため、どの体験も新しく、とても新鮮な気持ちと同時にたくさんの疑問がうまれました。最後に、実際に警察官一人一人が腕のところに付けている、警察署のワッペンなどを頂き嬉しかったです。

私たちは警察署を後にし、次はバスで消防署へ向かいました。そこは市内で最も大きな消防署らしく、たくさんの消防車があります。まずは室内の見学で、トレーニングルームや実際の事故を予想して作られた訓練室、ご飯を作れるキッチンがありました。消防士さん達は、消防署で多くの時間を過ごすため、みんなが家族みたいだと言っていて、とても良い雰囲気でした。その他に、はしご車のはしごを実際に伸ばしてくれたり、ホースで水を出す体験をしたりしました。ホースのレバーは思ったよりも重いことを知り、とてもびっくりしました。また帰る時には、市役所でもらった時とは違う、「LUBBOCK FIRE RESCUE」と書いてあるメダルをもらいました。

もう旅の終盤。団員全員で行動するイベントは全て終わりです。でもゆっくり考える暇もありません。私たちはバスに乗ってホテルに戻り、急いでホストファミリー対面式の準備をしました。緊張しながらペアごとに並んで団長の言葉を聞き、すぐにそれぞれのホストファミリーのもとへ出発！さあ、みんなが待ちに待っていたホームステイの始まりです。

5日目 7月27日(土) 終日ホームステイ



6日目 7月28日(日)



6日目は主に午前中のホームステイと、その後のお別れパーティーがメインでした。

私たちは午前中、10時から卵料理が中心のレストランへ朝ご飯に連れて行ってもらいました。私が今まで見てきたアメリカの料理の中で量が一番多く手よりも大きいスクランブルエッグのような料理を目の当たりにしてびっくりしました。恐る恐る食べてみると…卵の味が濃厚でとっても美味しかったです。私はこの卵料理がアメリカで一番のお気に入りになりました。

その後プレーリドッグタウンへ行き、初めて生でプレーリドッグを見ることができました。可愛らしくて思ったよりも小さく、遠くからですがプレーリドッグと一緒に写真を撮れて嬉しかったです。

その後は、休憩がてらホストファミリーの方の働くオフィスに連れて行ってもらいました。部屋が一つ一つ違う形で活用されていて、たくさんの絵が飾られていて、とても素敵でした。聞くとその絵はホストファミリーご自身が描かれた絵とのことで、さらに感動しました。

そして次に、たくさんのブランドが置いてある大きな総合雑貨店のようなところに行きました。ここでホストファミリーの方がテキサスの文字が書かれたニットのトレーナーを私たちにプレゼントしてくださいました。私はとにかく買い物が好きなので、たくさんの洋服とバッグなどを買うことができました。かなりの時間を要しましたが、ホストファミリーのみなさんがショッピングを楽しんで欲しいと言ってくれたので大変申し訳ないのですが、長い時間待っていただきました。ここでも優しさを感じ、とても心が温かくなりました。

そのあとは一度家に戻り、部屋で映画を見ながらとても大きいアメリカンサイズのアイスを食べました。チョコレートミントとチョコクッキーとバニラを合わせたとても美味しいアイスでした。

そして、いよいよさよならパーティーです。パーティーのための荷物を取りにホテルに戻る時は、本当に憂鬱で仕方ありませんでした。第二の故郷ができた、と前回ラボックに行かれた方々が感想に書いていましたが、本当にその通りだと実感しました。会場に入ると机にはケーキとファミリーネームが書かれた札が置かれており、これで本当にお別れなのだと思えざるを得ませんでした。夕飯はビュッフェ



形式で用意された料理はどれもとても美味しかったです。私は当日に、感謝を伝える挨拶の担当だったのですが、緊張と共にお別れの寂しさと、この担当になったやりがいと同時に押し寄せ、とても複雑な気持ちでした。

出し物は努力の甲斐あって無事大成功を収めました。ホストファミリーのみなさんにたくさん喜んでいただき、3日間のお返しが少しでもできたと思うととても安心しました。出し物が終わると、ホストファミリーと団員が一人



ずつホームステイの感想を述べるような機会がありました。そこでは笑顔で楽しそうに3日間の思い出を語るホストファミリーの方がほとんどで、私もとても嬉しくなりました。また、団員は家庭ごとの思い出の深い出来事と感謝の気持ちを伝えました。団員全員、本当に「ありがとう」という心からの気持ちがとてもこもったメッセージでした。いよいよパーティーがお開きになると、本当に悲しくなりました。ホストファミリーの方がお別れの際に泣いてくださり、そこまで私たちを大切に思ってくれていたのだと思うと、胸が痛かったです。お別れは本当に辛かったけれど、最高に楽しい3日間を過ごせたことに感謝と喜びを感じました。

そして翌日はいよいよ帰国です。さよならパーティーからホテルへのバスでは、ほとんどの団員が「帰りたくない!」と言っていました。また、ホテルに戻るとすぐ荷造りをしなければなりません。買い物をしすぎて、スーツケースと手荷物に全て荷物が入るか怪しい人と、余裕がある人との差がありすぎて面白かったです。私は前者で買い過ぎてしまったのでスーツケースから手荷物に団員仲間の協力もありつつ必死で移し終えることができました。このように、6日目はこの研修の締めくくりとして、特に濃い1日だったと思います。私はこの1日をきっと生涯忘れることはないでしょう。



7・8日目 7月29日30日(月・火)

今日はラボック最終日です。4日前の朝に集合時間を勘違いして時間がぎりぎりになってしまったので、今日は余裕をもって早めに朝食をとりに行きました。けれど、余裕をもって向かったことが裏目に出てゆっくり朝食をとっていたらいつの間にか、周りには僕たちの卓以外に団員が一人もいなくなってしまい、急いで食べて部屋に戻りました。幸い僕もペアの団員も荷造りは終わっていたので歯磨きをして部屋を後にしようとしたのですが、僕はほんの数分前まで持っていた部屋のカードキーをなくしてしまい、結局遅刻ぎりぎり集合しました。遅刻した団員も何人かいましたが、大きな問題はなくホテルを出発することができました。空港に移動している間のバス内では「日本に帰りたくない〜」「まだここにいたい」「将来テキサステックいこう」などの出発を惜しむ声で溢れていました。

空港に着くと僕たちのホストファミリーであるデクランとリビーが待っていてくれました。空港では荷物を預けて、団員の代表者が Wood さん Magen さん April さんにお別れの挨拶をして、デクランと交流があった男子4人はデクランとリビーと会話をして、見送られながら出国をしました。僕はこれでホワイトファミリーと本当にお別れなのかと思うと悲しくなって涙を流していました。最初は涙を我慢していましたが、団員の何人かが「泣いちゃいなよ」などと声をかけてくれたおかげで存分に泣くことが

ことができました。みんな優しいなと思いました。そして搭乗しました。みんな慣れない生活に疲れていたようで、僕を含めほぼ全員がぐっすり眠っていました。1時間弱のフライトでデンバー空港に到着しました。

行きの飛行機で寄った時にはおよそ4時間の自由時間がありましたが、今回は自由時間約20分と短く、多くの人はトイレに行ったり、飲み物とスナックなどを買ったりしていました。今回の派遣事業で僕たちの通訳を務めていただいたユカ



さんともここでお別れです。ユカさんにお別れの挨拶をして、僕たちから見えなくなるまで見送りをしてくれました。通訳をしている人を見るのは初めてでしたが、何を話しているのか聞き取り、即座に翻訳して話をしている姿は見ているだけでもすごいなと思いました。将来的にはユカさんと同じくらいの英語力を身に着けたいとも思いました。

およそ 12 時間半のフライトで、行きと同じくらいのフライト時間でした。フライト中には2回の食事と軽食が出されました。僕は食事の時以外はほぼ寝ていて、食事の時も寝起きだったので味はあまり覚えていません。

飛行機から降り、入国して荷物を受け取って、時間がかかった人を待っているときに「YOUは何しに日本へ？」という有名な番組のスタッフを見つけて少し盛り上がりました。ターミナルを出ると、きれいな青空が広がっているのに雨が降っていて、とてもじめじめとした暑さでした。僕はターミナルを出てすぐに日本を感じることができました。

ターミナルを出て少し待つと武蔵野市に帰るためのバスがやってきました。バスに乗って約 30 分でサービスエリアに到着して少し休憩しました。ファミリーマートで軽食を買っている人が多くいました。僕たちはファミチキを買ってバスの中で食べました。僕は1つしか買いませんでしたが、2つ買っている団員もいました。バスの中では他愛もない話や宿題の話をしていました。武蔵野市から成田空港に向かうまでの道のりは長く感じましたが、帰りの道のりはとても短く感じました。高速道路を下りて、だんだんと知っている街並みになっていくと終わりが近づいていることを実感して寂しさを感じました。

武蔵野市役所につくと保護者の方々や職員の皆さんが迎えてくれました。市役所に到着する直前にラボックではみんなが毎日のように会っていたデクランが市役所で待っていそうだという話題になって、僕も本当にデクランにもう一度会えそうな感覚がしました。たった一週間という期間だったけれど、僕にとってデクランはとても身近な存在になっていたのだと思いました。迎え入れられながら市役所に入って荷物をおろして少しすると帰国式が始まりました。帰国式では保護者の方々に帰国の挨拶をしました。式中には涙ぐんでいる様子の人も見られました。無事帰ってこられた安心感とラボックでの思い出を思い出して感傷に浸っているのかなと思いました。市長や団長の挨拶もあり、最後には写真撮影をして帰国式が終わりました。式が終わり解散をして、これで本当に派遣事業が終わったのだと切なくもあり、「僕は派遣事業をやり遂げたのだ」という達成感も感じました。最高の8日間でした。



ホームステイの思い出

中3・男子 & 中1・男子

Cunningham Family

ホームステイ 1日目

対面式で団長の挨拶が終わり今回ホストしてくれるカニングファミリーのところに行くと、お母さんの **Averi** さん、お父さんの **Eric** さん、弟の **Caleb** 君がいました。もう一人 **Caleb** 君の兄の **Cade** 君がいますが、彼は高校のテニスクラブに行っていました。みんなとハグと握手をして挨拶をしました。

対面式が終わると、お父さんは仕事に戻ったので、残った4人で車に乗ってご飯を食べに行きました。この日の夕飯はイタリア料理。車に揺られること数分、お母さん行きつけの店に到着。店員さんに案内されて席に座ると同時にパンとクリームソースがだされ、僕たちが硬直していると **Caleb** 君がこれは日本でいうお通しのようなものだと言ってくれました。僕はスパゲッティとSpriteを頼みました。スパゲッティの量は日本の3倍はあって、半分くらいしか食べられませんでした。

ご飯を食べた後、お父さんがオーナーのビール醸造所に行きました。そこにはたくさんの人とテキサスステックのアメフトクラブのマスコットがいました。僕たちはビールを飲むことはできないのでレモネードを買いましたが、顔と同じくらい大きなのアメリカでは『とても小さい』そうです。僕たちは飲みきることができませんでした。

家に帰って荷物を置いて、兄の **Cade** 君も帰ってきたので日本のお土産をプレゼントしました。僕は侍Tシャツと扇子をプレゼントしました。みんな喜んでくれて、お返しにお父さんがオーナーのサッカーチームのユニフォームをプレゼントしてくれました。その後シャワーを浴びて眠りました。

ホームステイ 2日目



この日の朝ごはんはパンとベーコン。パンにはベーコンの油と牛乳を混ぜて作ったソースをつけて食べました。朝ごはんを食べた後、僕の要望でプレーリードッグを見に行きました。動物園に行くのかと思ったら、畑や草むらにいらしく移動中の車内からたくさん見ることができました。その後、**Cade** 君の高校のテニスコートでテニスをしてお昼はマクドナルド。ハンバーガーの大きさは日本と変わりませんがドリンクバー制でした。じゃあなんで **S M L** のサイズがあるのだろう、と疑問に思いましたがこれは聞いても分からないそうです。

お昼を食べた後 **United** というスーパーに行きました。ここでは飲み物を買う時、お金を払う前にキャップを開けて飲んでもいいそうで僕はスイートティーを飲みました。

買い物をして家に帰ると、家のプールのカバーが外されていて、飛び込みもできる大きなプールで遊びました。途中でお父さんがオーナーのサッカーチームから日本人の小林幸大選手が来て一緒に水上バレーをしてご飯を食べました。この日の夕飯は家のバーベキューセットでローストした肉とトルティーヤ、お肉が柔らかくて美味しかったです。ただ、ソースに『**HONEY**』と書いてあるのですが少し辛かったです。その後はみんなでマリオテニスをしてシャワーを浴びて眠りました。



ホームステイ 3日目

朝、ベッドで寝てたらミニチュアダックスフントの **Brewer** が飛びついてきて、僕が驚いて飛び起きるともう8時を過ぎていました。でもリビングに行っても誰もおらず、おかしいなと思っていると、ホストファミリーはまだ寝ていてアメリカの朝は遅いことを知りました。

みんなが起きて身支度をしたら出発。お昼ごはんをバーベキュー屋さんで食べました。チキンとハニーソースを頼みましたがハニーソースは辛かったです。お昼ごはんの後、**MAIN EVENT** というゲームセンターにいて、実際にステージ内で動きながらセンサー銃を撃つシューティングゲームをしました。こういったアクティビティは日本にはなく、うまくできなかったけどとても楽しかったです。家に帰って荷造りをして、ペアの子が日本から持ってきた米と海苔で塩おにぎりを作って食べました。久しぶりに食べたお米は美味しかったです。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、お別れパーティーも終わってしまいついに別れの時がやってきました。僕は悲しくて家族とハグをした時に泣いてしまいましたが、テキサステックに来ればまたホストしますと **Averi** さんが言ってくれたのでまた絶対にアメリカに行こうと思いました。

カニンガムファミリーと過ごした3日間は一生忘れません。本当にありがとうございました。



中2・男子 & 中3男子

White Family

私のホームステイ先は、ホワイトファミリーでした。

ラボックに到着したときに皆さんで出迎えてくれたため、ホームステイ1日目はそんなに緊張しませんでした。

ホームステイ1日目

一日目はホワイト家の一人息子、デクラン君の誕生日パーティーが開催されました。パーティーには、デクラン君の友達やジュニア交流団の団員など合わせて50人ほど来ました。非常にいろいろな人がいて、そのパーティーでいろいろな人と仲良くなり、アメリカ（主にテキサス）のことについて詳しく知ることができました。ここでアメリカの人は非常にフレンドリーな人が多いことも身をもって知ることができました。また、テキサスの食べ物もここで楽しみました。ホストマザーが作ってくれた手料理はどれもとてもおいしかったです。みんなと楽しく話したり、遊んだり、食事を楽しんだりしました。



ホームステイ2日目



二日目はカウボーイハットを買いに行ったり、ガンショップに行ったり、軍用グライダー博物館に行ったりといろいろなところに行ってラボックの文化を学びました。軍用グライダー博物館で昔のラボックの工業を、食品センターで食生活を学びました。しかし一番衝撃的だったのがガンショップで、スマホくらいの価格で銃を売っていたことです。さすが銃社会と思った瞬間でした。午後にはプレーリードッグタウンでプレーリードッグを見て、家に帰ったらデクラン君と一緒にPCでゲームをしました。言語が違いながらも意思疎通をしてプレイできて、とても感動しました。二日目は、日本との価値観の違いや、言語が異なっても意思疎通はちゃんとできることを学びました。アメリカを訪問する前、言語の違いで意思疎通が不可能かもしれないと怖がっていた自分があほらしくなりました。

価値観の違いや、言語が異なっても意思疎通はちゃんとできることを学びました。アメリカを訪問する前、言語の違いで意思疎通が不可能かもしれないと怖がっていた自分があほらしくなりました。

ホームステイ3日目

三日目はとうとうお別れの日。最後の日の午前中はデクラン君とホストファザーと一緒にゴルフをして、午後はデクラン君とテニスをしました。最後に楽しく運動できて、ホームステイを本当にいいものにできたなと強く感じることができました。さよならパーティーの時は、プレゼントを本当に喜んでくれて嬉しい気持ちになりました。

ラボック最終日には空港まで見送りに来てくれて、泣きそうになりながらラボックを去りました。この思い出は一生残るでしょう。

帰国後も、デクラン君とは近況報告をし合っています。とても良い友人ができました。

最後に、ホワイトファミリーの皆さん。本当にありがとうございました！

この思い出は一生忘れません。Let's meet again someday!



中3・女子 & 中3・女子

Brackeen Family

私たちは、母の Amy、父の Jeff、長女の Paige、長男の William(Will)、次男の Benjamin(Ben)、犬の Blue がいるブラッキーファミリーの家に泊めていただきました。

ホームステイ 1 日目



これまで一緒に行動してきた団員や引率者と離れることに少し不安がありましたが、対面式の時笑顔で迎えてくれて、すぐに馴染むことができました。その後は Paige と Amy と一緒に車に乗って買い物に行きました。日本の何倍も大きいスーパーが多くあり、衝撃を受けました。

家に帰ったら、Paige がルームツアーをしてくれました。Blue は大きいけれど人懐っこく、Amy にいつもついて行っていたのがとてもかわいかったです。その時、「cute は日本語でかわいい」と教えると、すぐに使ってくれて嬉しかったです。この日は、別の派遣団員がホームステイしている家のデ克蘭の誕生日だったので、一度家に帰った後はデ克蘭の家に行き、晩御飯を食べたりダンスを踊ったりしました。他にもパーティーに誘われている家族がいたため、ほかの団員とも会うことができ嬉しかったです。帰ってからは、お土産と自己紹介アルバムを渡しました。ブラッキーファミリーからも、たくさんのお菓子やタンブラーがもらえてびっくりしました。

ホームステイ 2 日目

朝食にはシナモンロール、ポテト、ベーコンの入ったスクランブルエッグ、フルーツを作ってくださいました。食べ終わった後はすぐに支度をし、プレーリードッグを見に行ったり、買い物に行ったりしました。昼ごはんにはファストフード店に行き、トルティーヤを食べました。サイズがとにかく大きく全部は食べることができませんでした。とてもおいしかったです。

午後はテキサス工科大学の博物館に行って、テキサス州の歴史について学びました。外にもたくさんの展示があったため、外を回りました。乾燥しているけれど、直射日光が当たってとても暑かったです。その後はそこでファミリーの親戚と合流し、一緒に恐竜の化石が展示されているフロアを回ったり、プラネタリウムをみたりしました。プラネタリウムと言っても、星を見るのではなく、音楽とともに映し出される立体的な動画をみるというものでした。途中から寝ている人、歌っている人など、それぞれが様々なかたちで楽しんでいました。博物館をでてからは、アイスを食べに行きました。次男の Ben が、店までお土産のけん玉を持ってきてくれていて、嬉しかったです。



この日は長男の Will の誕生日だったので、Jeff の父母の家で、親戚もみんな集まってパーティーをしました。料理などを準備している間、子どもたちは庭に集まってバレーボールをしました。運動をあまりしていなかったため、そこで沢山動くことができよかったです。

家の中に戻ってからは、オリンピックをみながら各々が好きなことをしていました。その時間に、ホストグランドファザーがカウボーイハットをかして下さり、写真をとってくれました。晩御飯は、好きなものを取っていくバイキングでした。パスタやサラダがメインで、とてもおいしかったです。食べ終わった後はみんなでドミノゲームをしました。ドミノ倒しを想像していましたが、戦略的なボードゲームでした。その後はみんなでホイップクリームゲームをしたり、カラオケをしたりして遊びました。帰る前に、ホストグランドファザーがテキサスのTシャツを下さり、とても嬉しかったです。帰ってくると、Willの誕生日プレゼントの開封をして、家の暖炉でマシュマロを焼いてスモアを作って食べました。

ホームステイ 3日目

朝食は、パンケーキ、目玉焼き、フルーツでした。食べた後はすぐに家を出て、亡くなられてしまった宇宙飛行士の銅像を見に行きました。足元には国旗や花が供えられていました。そのあとは昼ごはんも兼ねて映画館に行きミニオンズを見ました。私たちはポップコーンとピザを頼んだのですが、ポップコーンがボウルいっぱいに出てきたときは、顔を見合わせるほど驚きました。家に帰って折り紙をしたら、さよならパーティーに行く時間になってしまいました。出し物発表は不安でしたが、やりきることができたのでよかったです。余談ですがさよならパーティーで昨年度の派遣団員として武蔵野市に来ていて、ホームステイの前まで一緒に行動していた Briley から手紙とネックレスをもらって、とても嬉しかったです。



この2泊3日のホームステイは、とても短く感じたし、限りある時間の中で本当に多くの体験をさせていただいたホストファミリーには感謝しかありません。ホームステイは終わってしまったけれど、私たちの関係は変わらないので、これからもたくさんの連絡をしたいです。普通では絶対にすることのできない貴重な体験をさせて下さったブラッキーファミリーとの思い出は一生消えないものになりました。

中3・女子 & 中3・女子

Worley/Gibson Family

ホームステイ 1 日目

対面式で代表挨拶が終わった後、ウォーリーファミリーと初めて会いました。ホームステイシートにはチャスさんとカレンさんのみ名前が書いてあり夫婦だと思っていたので子供がいて驚きました。聞いてみるとその子供たちはお孫さんのペーズリーちゃんとヘージリーちゃん、年齢は私たちと近く 12 歳と 14 歳でした。挨拶を軽くした後、私たちはカレンさんの車に、ペーズリーちゃんとヘージリーちゃんはチャスさんの車に乗り込みました。最初ペアの子は助手席に座り、カレンさんと英語で話していました。私はなかなか英語を話すことができず、このまま話せないのではと心配になりました。車でスーパーに向かい、夕飯や次の日のメキシコ料理の食材を買いました。そのスーパーはとて広く果物も野菜もアイスもたくさんの種類がありました。家に帰り、夕食の手伝いをしました。

ホットドッグを食べた後アトリエに行きました。そこにはたくさんの絵の具と私たちのために用意されたキャンバスがありました。そして 2 時間から 3 時間くらいひたすら絵に向き合いました。初めてしっかりしたキャンバスに描いていて、せっかく絵を描かせてもらっているのでものを作ろうという気持ちで丁寧に頑張りました。満足のいく絵が描けて良かったです。その後シャワーに入って早く寝ました。



ホームステイ 2 日目

疲れているだろうからたくさん寝て起きるのは何時でもいいと言われていましたが、そうすると昼まで寝てしまうので 8 時にアラームをかけて起きました。ホストファミリーは起きていなかったの静かに着替え、朝の支度をしました。私たちが熱望したのでその日は 1 日ショッピングでした。まず、カウボーイがテーマのお店に行きました。そこでホストペアレントが私たちに 1 枚ずつ T シャツを買ってくれました。また私は父へのお土産の T シャツと自分にシルバーのネックレスを買いました。また、カウボーイブーツを試着して写真を撮りました。ペアの団員の提案でカウボーイハットも被り、カウボーイのようなカッコいい写真が撮れました。その後テキサスステックの服や雑貨が売られている



お店に行きました。そこではチャスさんとカレンさんの娘さんが私たちに 1 枚ずつ T シャツを買ってくれました。その後ファストフード店で昼食を食べました。お土産を買うためにとんでもなく広いスーパーへ行きました。そこで友達へのお土産にシャープペンとお菓子を買いました。そしてスタバへ行き母へのお土産にご当地マグカップを買いました。そんな物があると知らなかったようでデザインに感動していました。最後にドッグフード屋に行き、ドッグフードを買って展示されている犬と戯れました。家に帰り昨日買った具材でメキシコ料理を作りました。パプリカと玉ねぎを切り、鶏肉の身を骨から外したものを炒め、トルティーヤを敷いた皿にのせチーズをたくさんかけました。作っている途中で娘さん家族や妹さん家族が

やってきてパーティーになりました。娘さんの旦那さんとは英語で話すことができ、感動しました。メキシコ料理ですが不思議と辛くはなく、辛いものが苦手な私でも味わって食べることができました。

ご飯を食べた後、カレンさんに作り方を教えてほしいとお願いされた折り紙を、みんなで折りました。鶴や手裏剣を折りました。手裏剣はニンジャスターで通じました。確かに忍者の星だなあと思いました。とんでもなく広いスーパーに行ったときに買ったネイルをしました。可愛くなってさらにハイテンションになりました。

ホームステイ 3日目

朝食ではなくブランチを食べました。私は頼んだのがメキシコ料理だったのですが、辛くなく美味しく食べることができました。その後プレーリードッグパークへ行きました。思ったよりもちいさくて可愛かったです。舌打ちのような音を鳴らすと近づいてきて近距離で見ることができました。カレンさんの職場も見学しました。ほかの人が働いているわけでもなく個人の職場でした。そして大きな雑貨屋さんに行きました。小さいブースにそれぞれたくさんの方が出店していて、1ヶ所のレジで会計をする仕組みになっていました。そのためその雑貨屋のなかでたくさんのお店を回ることができました。巡るなかで気に入った服やせっけん、お守りを買いました。



そこでもホストペアレントが似合いそうな服を見つけたと派手な柄のトップスを買ってくれました。赤色の生地に黒でTEXASと書かれていました。派手ですが肌触りと厚みがちょうどよくとても気に入りました。一度家に帰り犬に最後の別れを告げ、お孫さんも家に残しチャスさんとカレンさんがホテルまで送ってくれました。その後さよならパーティーがあり、私たちからの出し物披露が終わるとお別れの時になってしまいました。最後のハグをするとどうしても離れたくなくて泣いてしまいました。何度もカレンさんとハグをし、見つめてもらいましたが涙は止まらず一人だけ大号泣でした。泣いている写真を撮られそうになり危なかったです。

風邪をひいてしまい、咳が残ったままでしたがホームステイを受け入れて下さって本当にありがとうございました。アメリカ本当にいい経験になりました。ずっとつたない英語でしたが、頑張って聞き取ろうとしてくれたり、分かりやすい表現に変えてくれたり工夫してくれてありがたかったです。近い将来絶対にまたラボックへ行きホストファミリーと会いたいです。

中2・女子 & 中2・女子

Elder Family

私たちを快く受け入れてくださったのは Elder ファミリーです。200 ポンドのダンベルを持ち上げるパワフルなお母さん **Rebekah**、サンタのようなひげを持つクールなお父さん **Jordan**、長男はバイオリンが得意なゲーマー **Jason**、フルートを吹きこなすおしとやかな長女 **Lucy**、おてんばお嬢の次女 **Juliette**、そして人が大好きな犬キケットからなる Elder ファミリーはとても温かく、素敵な家族でした。

ホームステイ 1 日目

対面式のあとは Elder 家に直行。サプライズ、とタンブラーとお菓子をプレゼントしてくれました。そのあとルームツアーがあり、落ち着いた時間を過ごすことができました。夕方6時頃からは、他の団員のホストファミリーの誕生日パーティーに連れていってもらいました。そこにはオシャレなキャンプ場にあるようなハンモックやビュッフェゾーン、そして極めつけは超ビッグサイズの庭にウォータースライダーがありました。私が一番心に残ったのはラインダンスです。いつもなら少し戸惑うような場面でしたがせっかくだから、と思いついて参加してみると先に踊っていた方たちがすんなり輪に入れてくれました。最初は緊張していたけどいつのまにかノリノリでみんなとなじめていました。ペアの子は無限に **Juliette** と **Lucy** とウォータースライダーを滑っていて、帰ってきたころには寒くて震えていました。



ホームステイ 2 日目

前日の疲れもあり活動のスタートがゆっくりだった 2 日目は最初に **Rebekah** の兄弟とコスコ、日本でいうコストコに行きました。アメリカでのコスコは私達にとっての業務スーパー的な感じのものらしく、サラッと買い物を終えていました。そんな中私たちだけはコレ日本にもある！こんな初めて見た！あの試食行こ！などと大興奮でした。はしゃぎまくる私達を Elder ファミリーはニコニコ見守ってくれていました。

次に乗馬と浮き輪に乗ってプールを楽しみました。服のままイカダ型の浮き輪に乗る体験はスリリングだったけど素敵な写真と動画をとれました。でもやっぱり少し濡れました。

飼っているという馬に乗せてもらった乗馬体験では最初 **Juliette** が一人に乗っていたのですが馬が暴走して落下してしまい泣いていました。大きなケガではなかったみたいでよかったです。私達も続けて乗せてもらい、爽やかな風を感じることができました。

お昼はパンについてきた大量のポテチにびっくりしながらおいしくいただき、デザートとして量り売りのジェラート屋さんにも連れて行ってもらいました。私達は量り売りシステムだと知らずに大量に盛り付けてしまい、**Rebekah** に全力で謝り、感謝しました。

午後は私達の希望で買い物タイムでした。UNITED というスーパーマーケットのようなところでお菓子を買いました。広すぎて見切れませんでしたがとてもワクワクしました。私はセルフレジで会計したのですが、スキャンできていない商品があったらしく、店員さんが飛んできて少し緊張しました。**Rebekah** が “No problem” とかっこよく言ってくれました。そのあとスポーツ店のような店にも寄り、大学では買いきれなかった TTU のグッズを購入しました。

夜は TTU の学生 2 人と日本語を勉強中の 2 m、100 kg の **Jeff** と日本食パーティーをしました。生姜のきいたうどんがとてもおいしかったです。ペアの子が、アメリカでは甘口扱いのカレーを食べたところ、思ったより辛かったらしくヒーヒー言っているのを見てみんな、「それ甘いよ!？」と笑っていました。

夜には手持ち花火をしました。日本のようなものもあればバズーカのように上に向けるものもありました。火薬を床に叩きつけるなど日本では絶対できないこともやらせてもらえました。



ホームステイ 3 日目

朝から正装をして教会へ行きました。Lucy が浴衣を着たいと言ったので、私たちが着付けしました。ついこの前あった着付けの授業に感謝しました。教会は思ったよりカジュアルで小さな子供も多くいました。歌で教えるようなものを聞くなど内容もカジュアルでした。昼ご飯はビュッフェ式の自由なスタイル。私たちは初対面の方に話しかけられ最初は戸惑いましたが、しだいに楽しくなってきたり答えるだけでなく質問もできるようになっていました。そして Jeff が、犬を飼っているペアの子には犬の置物を、アメリカの消火栓の写真を集めていた私にはミニチュア消防車をプレゼントしてくれました。他にも日本の絵巻物やお菓子をたくさんくれました。



ホテルに戻る前に庭にあるトランポリンを飛んでいたらハプニングが起きました。なんと Jeff がトランポリンを突き破ってしまったんです！ヒヤッとしましたが Rebekah が笑っていたのでホッとしました。

そして迎えてしまったお別れパーティー。出し物もうまくいき、習字のプレゼントも喜んでくれました。最後に教えた日本語で話せたことがとてもうれしかったです。快く笑顔で最後まで私達を受け入れてくれた Elder ファミリーに成長した姿でまた会いに行きたいです。

中2・女子 & 中2・女子

Marston Family

アメリカに来て4日目。私たちがお邪魔させていただいたのはマーストンさん一家です。

ホームステイ1日目

オーバートンホテルから10分ほど車に乗って着いた家は、まるで **Back to the Future** などのアメリカ映画に出てくるようなおしゃれなところでした。車は二つあり大きな庭にはトランポリンがあって自分の家との差にとっても驚きました。お父さんのジェレミーさんはテキサステック大学の教授、お母さんのイベットさんは高校で先生をしているそうです。14歳で私達と同年のシエラは大人っぽくて12歳のニコルは泣き虫と言われていました。ふたりともとても可愛くてエマ・ワトソンに似ていると個人的に思っています。そして二匹の猫ルーシーとベラがいます。家族仲がよく冗談で笑い合える関係性です。

初めて会ったのは空港に迎えに来てくれたときでした。私たち、それぞれの名前を書いた紙を掲げて待っていてくれたため、すぐマーストンさんだとわかりました。会った瞬間から笑顔で話しかけてくれて「怖い人じゃないかな。仲良くなれるかな。」という不安は一瞬で消し飛びホームステイをすることへの期待へと変わりました。全員とハグや握手で挨拶するとすぐに仲良くなれた気がします。その後メールを交換したり記念撮影をしたりしました。その途中で私が着ていたちいかわのTシャツを「とてもかわいい。私この服大好きだよ」とシエラがいつてくれました。なかなか見る目があるなと思ったのと同時に、趣味が合いとても嬉しかったです。

そしてホームステイが始まりました。最初に、日本からのお土産を渡しました。日本のぬいぐるみや文房具、おちょこやカップなどをとても喜んでくれました。ペアの子が持ってきた「テキサス風味」と書かれたポテトチップスには家族全員とても笑っていました。

次に自己紹介アルバムを渡し、私達のことをよく知ってもらいました。夕食ができるまで庭で家の周りを散歩したりバレーボールをしたりしました。マーストンさんの家にはプールがないですが、近所の家のプールをシェアしていると聞き驚きました。たくさん運動し、待ちに待った夕食！スパゲッティを作ってくれていました。食事前、私たちが、日本では「命に感謝。いただきます」と言うから食べるということを教えると、真似してみんなで言うてくれました。嬉しかったです！スパゲッティは日本よりも麺が細かった以外は同じ味付けでした。おかわりをするほど美味しかったです！夕食後はシエラ、ニコルとテニスコートへピクニックボールをしに行きました。テニスと同じようなルールですが難しかったです。その後はお母さんが作ってくれたバナナケーキを食べました。甘くて最高！

ホームステイ2日目

次の日は朝からプレーリードッグタウンへ行きました。動物園のような場所かと思いきや、小公園のような場所にたくさんプレーリードッグがいて、餌をあげられるようなスタイルでした。私達は行く途中で買ったパンを投げてあげました。私は最初、そのパンが人間用のものだと思っていたので渡された時、朝ご飯直後だったので「お腹いっぱいだよ」と言ってしまう「これはプレーリードッグ用のだよ」と笑われてしまいました。面白かったです。餌をあげるとプレーリードッグが近づいてきてくれます。しかし風の影響で上手く餌が飛ばず難しかったのですが、ホストファミリーのみんなはプレーリードッグのちょうど近くに飛ばせていてすごいなと思いました。見習いたいです。



その後近くのお店に行きました。カウボーイのお店ということで沢山のカウボーイハットやブーツがありました。するとなんと、ホストマザーがお店の方に言ってカウボーイハットとブーツを履いて記念撮影をしてくれました！本物のカウガールになったような気分でした。それだけでも凄いのに、カウボーイハットを一人一つずつ買ってくださりました！とてもかわいいです。私の宝物になりました。そのままカウボーイハットを被りスターバックスコーヒーへ！お店の内装は日本と似ていましたが飲み物が日本以上に甘かったです！シェラが水を頼んでいて「そんなこともできるのか」と驚きました。

その後なんとテキサステックのプールに連れて行ってもらいました。見学ツアーのときからペアの子と「行きたいね」と話していたのでものすごく嬉しかったです。プールはとても広く、浮き輪が沢山浮いていて自由に使えました。シェラとニコル、そして二人の友達と一緒に流れるプールを満喫しました。流されている間は、英語を日本語に訳すとどんな発音になるのか、ということ喋っていました。飛び込み台やスライダーもあり、怖かったのですが挑戦したところ思ったよりプールが深く面白かったです。2時間ほど泳ぎ、プールを満喫しました。



夜ご飯はステーキ！肉が柔らかく本当に美味しかったです。そして、映画館へ向かいました。日本にはない野外で見られるもので車のトランクにクッションを置きそこに寝転んでみました。ミニオンの最新作で、私たちは初見だったため英語がわかるか不安でしたがしっかり楽しめました。今回の映画は少し日本要素があり日本語が出てきたときは面白かったです。

ホームステイ 3 日目

三日目は朝からチャーチ（教会）に行きました。私には初めての経験で近所にある教会を思い浮かべていましたが、私達が行ったチャーチはとても大きいライブ会場のようなところでした。入るとカフェがあったり託児所のようなキッズスペースがあったりと何もかも想像と違いました。そしてチャーチの本部に入ると本当にライブ会場でミラーボールや大きなテレビがありステージの上にはギター、ベース、キーボード（真っ赤）、ドラム、そして3人のボーカルがいました。テレビには演奏している人たちの顔がLIVEで流れていてカメラワークはプロの演出です。演奏中はボーカルに合わせてみんなで歌い、私達もテレビの字幕に書いてある歌詞を読みながら見様見真似で歌いました。その後牧師の方のお話を聞き、お祈りをしました。この経験は交流団の一週間の中でも印象的だったものの一つです。

その後は、ショッピングをしました。銃のお店では銃をみたり触ったり、本屋では日本の漫画が英語で書かれていて驚いたり、テキサステックのパーカーを買ったりなどなどいろいろなものを見て回りました。最後にホストファミリーおすすめのかわいい石鹸などのお店に行きました。本当に可愛くて全部買い占めたかったのですが残金が多くはなかったので程々におきました。最後にホストファミリーがそこのお店で買ったものを家族へのおみやげとしてプレゼントしてくれました。本当に優しい人たちです。

さよならパーティーが終わりお別れの時間になりました。私は泣いてしまうのでは、と考えていましたがニコルの「来年はあなた達の家でホームステイしに行くね」という言葉やお父さんお母さんの「旅行で武蔵野市に絶対行くね」という言葉で永遠の別れではないことがわかり明るくお別れができました。このホームステイは短かったですが本当にいい経験、そして宝物になりました。マーストンさん達と過ごした3日間は一生忘れないです。今回は、英語がスラスラ話せず困ったときもありました。次に会うときまでには更に英会話力をつけておこうと思います。マーストン一家の皆さん本当にありがとうございました！

中1・女子 & 中1・女子

Wisniewski Family

ホームステイ先のウィズニュースキー・ファミリーに一番初めに会ったのは、プレストン・スミス国際空港だった。なんと空港まで出迎えに来てくれていたのだ。驚いたと同時にとても嬉しく思った。しかし、緊張してしまい、ほとんど話せなかった。私にできたのは、迎えに来てくれたホストファザーのキースさん、ホストマザーのイルマさん、次男のエイデンさん、長女のエイズリーさん、ホストファミリーと一緒に暮らしているというケイトさんの名前を覚えることくらいだった。

ホームステイ 1 日目

次に、ホストファミリーに会ったのは、対面式だった。この時には、少しでもアメリカにも慣れてきて、空港の時より、話をする事ができたと思う。対面式の後、車でフライドチキンの店に行って夕飯を食べ、その後、イルマさんの妹さんの家に向かった。妹さんの家は、大きく、外観がおしゃれで驚いた。エイデンさんが家の中を案内してくれた。まるでお城のようにきれいだった。一つの台所に何個もの水道がついていて驚いた。家には小型犬が1匹いた。かわいかったが、私たちはあまり好かれていないようだった。きれいな部屋やプールを見せてもらった後、体育館に行った。家の中に体育館があるとは信じられなかった。体育館では、イルマさんやケイトさんがテニスをしていて、私たちも一緒にやらせてもらった。その後、家の中のエレベーターで2階に行き、卓球やトランプをしたり、体育館に戻ってバスケをしたりした。



夜9時過ぎころ、ホストファミリーの家に行った。ウィズニュースキーさんの家もとても広かった。2匹の大型犬(バルリーとエナ)がいて、歓迎してくれた。私たちは、バルリーとエナをなでたり、ボールと一緒に遊んだりした。

日本から持っていったお土産を渡した後、家の中を案内してもらった。家の中には、ソファや椅子がたくさんあった。

その後、チェスをして遊んだ。料理のレシピ本を見せてほしいとキースさんに頼んだところ、キースさんが書いた料理の本をプレゼントしてくれた。映画を観るための部屋に行き、ハリー・ポッター3の日本語版を途中まで観た。深夜12時ころまで観て、シャワーも浴びずにそのまま寝てしまった。

ホームステイ 2 日目

翌日は、イルマさんに起こされるまで目が覚めなかった。午前9時半ころ、イルマさんが部屋に入ってきたとき、バルリーとエナと一緒に入ってきて驚いた。朝食は、おいしいブレッドと、バナナとチョコのマフィンだった。その後、恐竜博物館に行ったり、ショッピングセンター、本屋などに買い物に行ったりした。本が50セントと安くて驚いた。

お昼は、バーベキューのお店に行った。日本ではあまり食べる事のない七面鳥をピクルスと一緒にパンにのせて食べた。キースさんが頼んだ豚肉や牛肉も少し食べさせてもらった。

その後、家に戻って、プールに入った。ウィズニュースキーさんの家のプールは、浅いところが1メートルなのに、深いところは2メートルもあった。ペアの子はとても泳ぎが上手かったけれど、私はあまり泳げないので、何度も溺れかけ、その度にペアの子と浮き輪に助けてもらった。

夕食は、親戚がたくさん集まって一緒に食べた。テキス・メクス料理をはじめとした料理が何種類もあり、自分で好きなものをもって食べた。スープは少しだけ辛かったが、肉団子やアボガドディップなどどれもおいしかった。デザートはチョコケーキとアップルパイとアイスの盛り合わせにキャラメルソースがかかっている、とても豪華だった。その後、火を焚いて、S'moreを食べた。S'moreは、マシュマロを焼いて、チョコレートとともにクラッカーに挟んで食べるものだ。以前から食べてみたいと思っていたから、うれしかった。その後、昨日のハリー・ポッター3の続きを観て寝た。



ホームステイ 3日目

起きると午前11時で、慌てて朝食を食べに行った。イルマさんがパンケーキとベーコンを焼いてくれた。パンケーキに、シロップや黒蜜、アップルバターをかけて食べた。

その後、お菓子を売っている店に行って、変わった動物の乳で作ったお菓子を買ってもらったりした。また、MAIN EVENT というアミューズメント施設に行き、ボウリングをした。



午後4時ごろに昼食を食べにハンバーガー屋さんに行き、ハンバーガーとポテトを食べた。店にたくさんピクルスがおいてあって、自分で好きなピクルスを選んで食べた。食べきれなかったベーコンとポテトの料理がおいしかったので、ペアの子がテイクアウトし、夜、ホテルで一緒に食べた。

ホームステイはとても楽しく一瞬で終わってしまった。ウィズニュースキーさんたちは、帰るときも空港まで見送りに来てくれた。とても嬉しく感謝でいっぱいだ。いつかもっと英語を上達させ、またラボックに行きたいと思う。

中1・女子 & 中1・女子

Reyes Family

私たちはホームステイでレイズファミリーにお世話になりました。

ホームステイは一番楽しみにしていたイベントでした。

レイズファミリーは、料理上手で優しいお父さんのサニー、明るく笑顔が素敵なお母さんのシルビア、長男のマウリシオ（会えませんでした）、次男は沢山話しかけてくれてフレンドリーなジュアン、気遣い上手なジュリア（18）、ゲーム好きで面白いキャロライナ（16）、ピアノと動物が好きなイザベラ（13）、末っ子はおしゃべりでキュートなウィリアム（9）。それに犬三匹と猫二匹の賑やかで楽しいファミリーです。

ホームステイ1日目

4列シートの大きな車に乗り家に向かいました。緊張していたけど、ジュリアやキャロライナと趣味や好きなことを話していると打ち解けて楽しくなってきた、あつと言う間に家につきました。サニーさんの家は、二重扉で玄関がなく、洗面所、お風呂、トイレが一つの部屋にまとまっていたり、家の中も靴で歩いていることに文化の違いを感じました。私達の寝室のそれぞれのベッドにプレゼントが用意しており、歓迎してくれているんだなあと感じ、とても嬉しくなりました。日本のお土産と自己紹介アルバムを渡すと、喜んでもらえました（子供にはグミが好評でした）。

夕方になると、お母さんにパーティーに行こうと誘われました。デクラン（別の団員のホストファミリー）の16歳のバースデーパーティーで初めての海外のパーティーでした。山盛りのご馳走や、大きな庭にウォータースライダー。全ての規模の大きさにアメリカンサイズ!!と興奮しました。ウォータースライダーを滑りまくり、爆音で流れるミュージックの中、沢山の人とダンスを踊りエキサイティングな体験ができました。

デクランの家は美術館のような長い階段と廊下、大きな水槽、壁に沢山の家族の肖像画が飾ってあり、映画に出てくるお城のような家でした。盛りだくさんで充実した一日目となりました。

ホームステイ2日目

良い匂いがするなと思ってキッチンに行くと、お父さんがトルティーヤやスクランブルエッグなどを作ってくれていました。トルティーヤはスパイシーでとても美味しかったです。

車でJoy Land（遊園地）に連れていってもらいました。なんとシートベルト無しで買い物カートのように乗り心地は悪いジェットコースターがありました。クレイジーでスリル満点でしたが、私はドハマりしてキャロライナと何回も乗りました。ショッピングモールにも連れていってもらいました。

夜はマックでみんなで食べていると、ジュアンが来てくれました。テイラスウィフトが好きらしく、私も好きなので話が盛り上がりました！アイス屋さんでは「日本から来たのよ」とお母さんが紹介してくれました。店員さんが「ようこそ！」とはじけるような笑顔で、アイスの特大にしてくれました。またまたアメリカンサイズ!!と興奮しました。美味しかったのでペロリと平らげました。その後ツイスター（竜巻の映画）に連れて行



ってもらいました。アメリカならではのドライブシアターでこれまた初めての経験でした。ラボックの建物の多くが1階建てなのは竜巻の被害を受けないようにしているんだなと思いました。

英語が難しくあまり理解できなかったけど、子供たちで集まって変顔の写真を撮ったり、好きな音楽や映画について話したり楽しい時間を過ごせました。国、人種、言葉が異なっても通じ合い一緒に楽しむことができ、コミュニケーションを沢山とれたことに感動しました。

ホームステイ3日目

リビングに行くとお父さんとお母さんが豪華なパンケーキやワッフル、コーヒーを作ってくれました。アメリカらしい朝食で私達はすごくテンションが上がりました！お土産屋に行きジュリアが可愛いエコバックをお勧めしてくれ、たくさん買いました。他にもコーヒーやお菓子などを買えて大満足でした。

お昼は日本食屋さんに連れて行ってってもらいました。アメリカの食べ物は美味しいけど、胃もたれしていたのでとても美味しく感じました。お父さんの考えてくれたプランで、その気遣いに心が温かくなりました。

家に帰ってきてピアノを好きに弾いていいよと言われたので、タイタニックのマイハートウィルゴーオンを弾きました。お母さんは途中から熱唱し始めました。それが面白くて皆大爆笑でした。お母さんの歌はセリーヌ

ヌディオンのように透き通った高音を響かせていて本当に上手でした。その後もイザベラと連弾したりゲームをしたり大盛り上がりでした。

レイズファミリーは親切で明るくて素敵な家族です。私たちが困らないように気を使ってくれ、手を差し伸べてくれる優しさには何度も助けられました。さよならパーティーでは、お別れということが悲しすぎて私たちは大号泣でした。ファミリーの一員になれてすごく幸せで、アメリカンサイズな思い出になりました。また必ず会いに行きます。本当にありがとうございました！



感想文・研究テーマ調査発表

氏名	感想文	研究テーマ
中3・女子	貴重で濃い8日間	アメリカで愛読されている本について
中1・男子	8日間の思い出	日本とアメリカの中学校生活の比較
中3・女子	未体験の一週間	盛んなスポーツ
中1・女子	ラボックでの驚きの毎日	日本とテキサスの食事について
中1・女子	Memorable Experience	スポーツとの関わり
中3・女子	座学以上の学び	日本とアメリカの食文化の違い
中1・女子	Everything is Big	カウボーイとテキサス
中3・男子	あっという間の8日間	アメリカと日本の衣食住の違い
中2・女子	「挑戦の雰囲気」 そして「サラダ」	What Do You Like?
中3・女子	一生の思い出	アメリカと日本の家の構造の違い
中3・男子	ラボックで 僕の印象に残っている2つのこと	ラボックの風車と日本の水車
中2・女子	ラボックで出会えた宝物	日本とアメリカの 人々&街並みの違い
中2・女子	The Best Memories of Life	日本との食文化の違い
中2・男子	人生初の海外	アメリカの人の文化
中1・女子	Lubbock Road この道を行けば…	日本とアメリカとの 生活の違いについて
中2・女子	言語の壁を越えて	多民族国家と多様性

この8日間をいつか訪れてみたいと夢見たアメリカという地で、ついこの間知り合ったばかりの16人の仲間と和気藹々と楽しく過ごせました。またほとんどが今まで未経験のもので一生忘れられない、濃く貴重な日々を過ごせました。

ラボックへ出発日の7月23日は、保護者や市役所の方々に見送られて始まりました。最初の方は親無しでの海外旅行に少しだけ緊張しながらバスでの時間を過ごしていましたが、昼食が出てから、16人とたくさんお話ができたので緊張が解れました。この仲間となら最高の8日間を過ごせそうだなと期待に胸を膨らませていたのを覚えています。11時間という長時間のフライトがかなりキツかったのですが、映画を見たり酔い止めを飲んだりしてなんとか乗り越えることができました。CAさんとのやり取りも特に問題はなかったのですが、入国審査の時にうまくコミュニケーションが取れなくて、ドキドキしながらアメリカに入国しました。そして日本の空港の倍ありそうなデンバー空港の広さが印象的でした。しかしこの日、一番驚いたのは空港にホストファミリーが来てくれたことです。「ラボックへようこそ」と日本語で書いてあったパネルを見て、長時間のフライトで気分があまりよくなかったのですが、ほっこりとして少しずつ元気になっていきました。またラボックへ行く前日本で「言葉の壁を感じてしまったらどうしよう」と思っていたのですがこの時点で、気にせず楽しめそうだと思います。それくらい、ホストファミリーの方々は日本人の私たちを快く歓迎してくれました。とっても嬉しかったです。



そこからは本当に多忙な日々を過ごしました。寝る時間以外、休む時間がほとんどないようなスケジュールで体調を崩してしまわないように「病は気から」と強く自分に言い聞かせながら生活していました。二日目のテキサステックでは「こんなに満喫してしまっているのですか」と聞きたくなくらいたくさんの事をさせていただきました。因みに、ホームシックは意外とすぐに感じます。私だけかもしれませんがこの二日目の時点で、家族に会いたいなとふと思ったり、学校の友達とふざけて遊びたいなとふと思ったりしてしまいました。ですがこれも醍醐味だと思って乗り越えました。三日目の風力博物館は予想をいい意味で裏切られました。



風車以外にも興味深いものがたくさんあって面白かったからです。四日目のラボック警察署本部では毅然たる態度の警察官の方々に会えて興奮しました。五日目のホームステイは私の経験値が一気に上がった一日でした。連絡先を交換したのでこれからもたくさんお話ししたいと思います。六日目のさよならパーティーは大盛り上がりでした。また、自分たちのホストファミリー以外のホストファミリーと交流ができてよかったです。七日目と八日目はまだまだラボックに居たいとずっと思っていました。他の団員のみんな同じ気持ちだったと思います。その気持ちは日本に帰国した時にもまだ残っていました。



私はこの8日間でラボックと、ラボックの皆さん、ホストファミリー、16人の仲間、そして武蔵野市役所の皆さんが大好きになりました。またとても感謝しています。刺激的で貴重な8日間を過ごすことができ、忘れられない8日間となりました。いつかまたラボックに行き、今よりももっとたくさんの事を経験してみたいです。

アメリカで愛読されている本について

皆さんは、アメリカで愛読されている本が何か知っていますか？

今回私は、自分の趣味の一つである「読書」を研究テーマにしました。ホームステイ先のファミリーなどラボックで出会った方々から、アメリカで愛読されている本を教えていただきその情報から、私なりにまとめて調査発表をしたいと思います。

事前調査でインターネットを活用したときの考察ではジャンルとしてミステリーが人気なのかと思いましたが、実際に聞いてみるとファンタジーとサイエンスフィクションが人気のようでした。一番人気なのは「ハリー・ポッター」(Harry Potter)、次に「指輪物語」(The Lord of the Rings)、その次に同率で「高慢と偏見」(Pride and Prejudice) と「アラバマ物語」(To Kill a Mockingbird) が挙がりました。

☐ ハリー・ポッター (Harry Potter)

ハリーポッターシリーズは全7巻から成り立っていて、J. K. ローリングによって書かれたファンタジー小説です。魔法使いであるハリー・ポッターの Hogwarts 魔法魔術学校での生活や、ハリーの両親を殺した闇の魔法使いヴォルデモートとの対決の中で、ハリーとその仲間たちの成長や友情、勇気をテーマにした作品です。

☐ 指輪物語 (The Lord of the Rings)

J・R・R・トールキンの小説で、ひっこみ思案で気のいいホビット小人が、思いがけない旅に出る雄大な冒険物語。魔法使いガンダルフの誘いにのせられ、13人のドワーフとともに旅立ったビルボは、けわしい山や闇の森を越え竜に奪われた宝を取り返しにゆく。古代北欧の伝承の影響を色濃く残すファンタジーです。

☐ 高慢と偏見 (Pride and Prejudice)

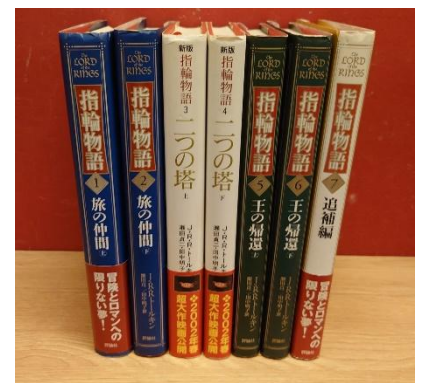
イギリスの作家ジェーン・オースティンの小説です。1813年に公刊され、作者が若いころに書いた小説『第一印象』を大幅に手直ししたものだとされているそうです。ダーシーの高慢さとエリザベスの偏見からこじれた二人の関係がいかにな成就していくかが描かれています。

☐ アラバマ物語 (To Kill a Mockingbird)

アメリカの作家、ハーパー・リーが1960年に出版したゴシック小説で、アラバマ州で起きた黒人の白人女性への暴行容疑に対する裁判で、まわりの白人陪審員の偏見と人種差別について書かれた作品です。その内容から米国の高校では教材としてしばしば用いられているそうです。

皆さんは、何か知っている本や読んだことがある本がありましたか。これらの本は、アメリカで多くの人に愛されています。どの本も、それぞれの時代や社会背景を反映しながら普遍的なメッセージを伝えており、多くの人々に影響を与え続けています。

興味のある本が見つかりましたら、ぜひ手に取って読んでみてください。



この報告書を書くために、今回の研修の8日間を思い出していると「ラボックにまた行きたい、ホストファミリーに会いたい」という気持ちがこみ上げてきます。ラボックで撮った写真をついつい眺めてしまいます。

8日間では失敗したことや苦戦したこともありました。デンバー空港で昼食をとった時、僕は23ドルのフレンチトーストを注文して10ドル札3枚で支払いました。店員さんから何か言われましたが、よく理解しないままNoと答えてしまいました。他の団員から、あの店員さんは「おつりは要りますか？」と聞いていたみたいだよと教えてもらい、僕はおつりをもらい損ねたと後で気づいたということがありました。他にもエアコンのリモコンの温度表示が華氏だったので少し戸惑ったり、ホテルのルームキーを失くしてしまうという失敗もありました。引率の方や団員達に助けってもらって無事に帰ってこられた今では、すべてよい思い出です。



特に心に残っていることを二つあげたいと思います。一つ目はホームステイです。僕がお世話になったカニンガムファミリーは、獣医師のエリックさん、主婦のアベリさん、高校生のケイド君、中学生のケイレブ君の4人家族でした。2匹の犬と1匹の猫を飼っていて、とても可愛かったです。裏庭のプールで遊んだことが一番楽しかったです。エリックさんはクラフトビール醸造所とサッカーのクラブチームの所有者でもあり、そのパーティーに参加させてもらいました。パーティーでは、ものすごく大きなサイズのレモネードを飲みました。僕が獣医師に興味があると伝えていたので、エリックさんの動物病院も特別に見学させてもらいました。診察室や薬が保管されている部屋を見ることができました。他にもプレーリードッグタウンやテニス場、ボーリング場、スーパーマーケット、マクドナルド、洗車場にも連れて行ってくれました。アメリカ人の普段の過ごし方を体験できて嬉しかったです。お礼として、僕は日本から持ってきたバックご飯とお気に入りの塩と海苔でおにぎりの作り方を紹介し、皆で一緒に食べました。本当の家族のように接してくれて、とても居心地が良かったです。



二つ目は、イーガート牧場です。イーガート牧場はとても広く、プールや釣りができる大きな池もありました。ウォータースライダーも用意されていて、夢中になって10回以上も滑ってしまいました。広い草原でフリスビーをしたり、馬に乗って記念撮影をしたりしました。バーベキューで焼いたお肉をハンバーガーにして食べたり、日本では見かけない珍しい味が並ぶかき氷の中からライム味を選んで食べたりしました。僕は体を動かすことが大好きなので、泳いで走ってたくさん遊ぶことができて楽しかったです。



僕は、学校や習い事で学んだ英語を使って外国の人と交流してみたい、自分の英語がどれだけ通じるのか試してみたいという思いで今回の派遣事業に応募しました。5月の末に選考結果が届いて、ジュニア交流団の団員と決まった時は、アメリカに行けるなんて夢のようだと思いました。実際にアメリカへ行ってみて、自分の目で見て、耳で聞いて、アメリカのことを「知る」ということができました。「知る」ということができれば、相手のことを理解できて、相手からも理解してもらえるとと思っています。英語で自分の言いたいことを伝えるというのは、とても難しかったです。アプリに頼る自分が情けなく感じ、もっと勉強しなければならないと思いました。最後に、武蔵野市とラボック市の職員の方々、通訳のユカさん、団員のみんな、そして家族、支えてくださったすべての方に感謝したいです。貴重な経験を本当にありがとうございました。

と勉強しなければならないと思いました。最後に、武蔵野市とラボック市の職員の方々、通訳のユカさん、団員のみんな、そして家族、支えてくださったすべての方に感謝したいです。貴重な経験を本当にありがとうございました。

日本とアメリカの中学校生活の比較

〈研究動機〉

ホストファミリーに中学生がいるということを知ったので、アメリカの中学校生活はどのようなものか調べてみたいと思ったから。

〈調べ方〉

カニンガム家の次男ケイレブ君（中学2年生）にインタビューする。

〈結果〉

質問内容	武蔵野市立第一中学校	ローラ・ブッシュ中学校
全校生徒は何人？	約 330 人	約 1500 人
先生は何人？	約 30 人	約 60 人
1クラスの生徒数は？	約 30 人	約 60 人
通学方法は？	徒歩	自家用車で送迎
昼食は給食 or お弁当？	給食	個人の自由で選択可
土曜日は授業がある？	たまにある	ない
教科書はもらえる？	配布される	学校から貸し出される
定期試験は年に何回？	4回	7回
昼休みは何をしている？	外で遊ぶ、図書室で読書等	友達と軽食を食べたり、おしゃべりしている
教室の掃除は誰がする？	生徒	用務員さん（生徒はしない）
放課後は何をしている？	部活動等	部活動等
夏休みは何日くらい？	約 40 日	約 90 日

〈まとめと感想〉

- ・ 1クラスの人数が多いこと、全校生徒の数も多いことに驚きました。
- ・ 中学校まで車で 30 分ほどかかるそうで、学区がとても広いことがわかりました。
- ・ 夏休みが約 90 日もあって宿題もないと聞き、羨ましく思いました。
- ・ 教科書は学校から貸し出され、1年間使った後は学校に返却するそうです。一人一冊ずつ配られる日本のシステムはありがたいなと感じました。

〈その他インタビューで知ったこと〉

- ・ ペットを飼っている家庭が多いと話してくれました。クラスの 8 割がペットあり。
- ・ 運転免許は 16 歳から取得できるそうです。



私がこの交流派遣に参加して特に印象に残っていることは大きく分けて三つあります。一つ目は人々の温かさです。ホームステイにて、生まれた土地や育ってきた環境が全く違う私たちを快く迎え入れてくれました。私がホームステイさせていただいたご家庭では祖父母とのお孫さん二人で、私たちがどうやったらよりアメリカ、テキサスを楽しむことができるのか、どのようなものを食べたらより私たちに文化を伝えられるのかを懸命に考えてくれました。具体的には、テキサスならではのアメリカ西部の洋服屋では洋服を一枚、大きな雑貨屋ではルームメイトとのお揃いの洋服を買っていただきました。また、ホストファミリーの親戚の方々も私たちに会いに来てくれて、沢山のお土産をプレゼントしていただきました。ホストファミリーの方が作ってくださった料理にはテキサス料理もあり、テキサスではメキシコが近いので少しメキシカンにも近い料理であることも教えてもらい、さらに、テキサスにて栽培されるグレープフルーツもいただきました。そのグレープフルーツはとっても甘くて今まで食べた中で一番美味しかったです。ロサンゼルスなどで栽培される酸味のあるものとは違って、テキサスでは甘味の強い味になることを教えてくれました。食べるのが好きな私にとってとても興味深い話でしたし、実際に現地の食事を体感することで、より文化を知れて良い経験になりました。そして、見ず知らずの私たちをこんなにもてなそうとしてくれるのは私にとってとても感動的なものでした。



二つ目は、私が思ったよりも沢山のスポーツが盛んなことです。日本ではあまり近所の大学に特化したお店を見かけることがないですが、特に訪れたテキサスでは非常に地元愛が強いと感じました。訪問した地域では、「テキサス工科大学」という大きな大学のスポーツチームを支持している人が多く、ショッピングセンターに行けば必ずテキサステックのグッズが売っているというような感じでした。実際、大学を訪問した際にも大きくて新しく、綺麗なアメリカンフットボール場と、立派な野球場、そして、ライブも行われたという大迫力のバスケットボールかつバレーボールの体育館を見学させていただきました。私はこのスポーツ施設がこんなにも充実していることにとても驚きました。

三つ目は文化です。アメリカの食事では当然のことながらお箸は使わず、ナイフとフォーク、スプーンが使われるので、慣れないカトラリーを使い続けて少し大変でした。また、日本とは違い、お皿を持ち上げて使わないので、食事マナーの場面で気を使うことが多かったです。また、自動販売機が少ないように思いました。もちろん施設の中には少しはありますが、道中や施設に日本ほどたくさん設置されていなかったように感じました。さらに、私が特に感じたのはタンブラーの種類の多さです。日本では大きめのスーパーなどに行ってもタンブラーがたくさん置いてあるわけではなく、どちらかといえば置いてないところの方が多いと思いますが、アメリカではタンブラーの使用が日常的なのか、いろんな種類のタンブラーがたくさん置いてありました。また、これに派生して驚いたのが、アメリカの方々は、ドリンクを飲んだ後にそのカップに飲み物を入れそのまま持ち歩くことが多いことです。日本ではお店で出た手持ちの飲み物は飲み切ってその場でカップを捨てるのがほとんどだと思いますが、アメリカでは飲んだ後のカップにまた飲み物を入れ、車内に持ち込み、急いで飲み干すこともなく無くなるまでその飲み物を持っているということに気付かされました。

また、他にも環境面で、ゴミの分別がないことや、日本と違いセミがいなかったこと、大学内に野生のリスがいたことも新鮮でした。

このように、初めてアメリカに渡った私にとっては、この派遣事業での一週間は非常に価値がありとても充実したものでした。他にもたくさんの生活の違いや規模感に驚かされただけでなく、アメリカの人々の優しさを身に沁みて感じる事ができました。この事業のおかげで私は国際人としての第一歩を踏み出しました！今後の私の人生にこの経験がどのように影響するのか、私自身、とても楽しみです。最後に、関わってくださった全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



盛んなスポーツ

子供の頃から体を動かすことが好きだった私は中学でソフトボール部に入部しました。ソフトボールに夢中になるにつれて野球もまた大好きになり、野球発祥の地、アメリカでは野球の他にどのようなスポーツが盛んなのか興味を持ちました。

私が予想していた人気スポーツはやはり野球です。なぜなら、テキサスにも有名なメジャーリーグチームの『テキサスレンジャーズ』があるからです。

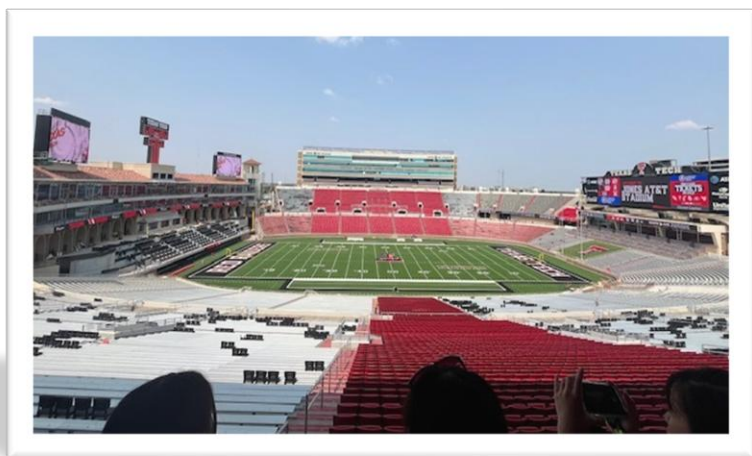
しかし、ラボックに行って考えが変わりました。テキサスではベースボールよりもアメリカンフットボールの方が盛んであるという結論に至りました。主に理由は二つです。

一つ目は、テキサス工科大学のアメリカンフットボールへの力の入れ具合と、大学のグッズの豊富さです。もちろん、ベースボールやバスケットボールにも力を入れており、テキサステック大学の施設見学をした際には非常に充実していると思いましたが、その中でもアメリカンフットボールへの関心が一段違うように感じられました。大きなスクリーンに整えられた観戦席、スイートルームまで用意されていて私はつい声を出してしまいました。訪問したアメリカンフットボール場は改築中で正式な完成前でまだ少し工事中でしたが、8月1日の試合には間に合わせるようにしているそうです。また、大学のグッズが売っているストアには、他のスポーツ関連のものも売っていましたが、アメリカンフットボールの商品の多さは驚かされました。

二つ目は、ホームステイ先でのインタビューです。どのスポーツが周辺地域で人気かを聞いてみると、圧倒的にアメリカンフットボールという意見が多かったです。テキサステック大学のレッドレイダースというアメリカンフットボールチームでは、「ガンズアップ」というハンドサインがあります。指を銃のような形にして対戦相手を撃ち落とすという意味を持つようです。また他のチームでもそれぞれのハンドサインがあるようです。ホームステイ先での夕食の際にたくさんの親戚の方々が集まった時に、私達に教えてくださいました。私達のホストファミリーはレッドレイダースを応援しているようで、他のチームを応援している親戚の方々に笑いながら「NO! Don't teach to girls!」と言っていたことを鮮明に覚えています。応援しているチームが違うだけあって、お互いにライバル意識を持っていながら、お互いを認め合うというスポーツの良さを改めて感じましたし、ベースボールよりもアメリカンフットボールの方が人気であることに驚きを感じました。

なぜアメリカンフットボールが人気なのかというと、ベースボールに比べて試合数が少なく、気候の良い秋に試合が行われている点です。また、他の国ではそれほど盛んなスポーツではなく、アメリカならではのスポーツと考えられているからです。

私もホームステイ先の方々からアメリカンフットボールの話聞いて、そんなにアメリカ人を魅了するアメリカンフットボールにとっても興味を持ちました。いつか、機会があれば是非観戦したいです。



“Thank you” これは、今回アメリカに滞在して、一番印象に残った言葉だ。日本人は、人に何かをしてもらったり、頼んだりするとき、「すみません」「申し訳ありません」などの謝りの言葉をよく使うが、同じような場面でアメリカ人が“Sorry”というのとは聞かなかったような気がする。その代わり、アメリカ人は“Thank you”をよく使っていたように思う。この他にも、ラボックでは、日本と違って驚いたことがたくさんあった。

一つ目は、「スウィートティー」だ。日本で、紅茶を注文すれば、何も入っていない紅茶が出てきて、自分で好きなだけ砂糖やミルクを入れるイメージである。しかし、アメリカでは、注文の際に、「スウィートティーかノンズウィートティーか」と聞かれる。ミルクについては聞かれない。そして、「スウィートティー」を注文するとその甘さに驚く。入れる砂糖の量を調整することはできない。コップの中の紅茶のどこもかしこも甘かった。相当な量の砂糖が入っていたのだと思う。店によっては、「ティー」を頼んだら、「スウィートティーかノンズウィートティーか」と聞かれることもなく、スウィートティーが運ばれてきたこともあって驚いた。



二つ目は、「料理の辛さ」だ。かつてメキシコ領であったテキサスの料理は、メキシコ風で辛いと事前に聞いていた。しかし、本物は思っていた以上に辛くて驚いた。とくに、ホームステイ先で食べたスープは、食べるのが大変だった。スープはそれほど辛くないものと思いこみ、たくさんよそってしまったからだ。一口目で火を噴くような辛さだったが、おいしかったので、頑張って食べきった。

三つ目は、「水」だ。ラボックでは、事前に聞いていたとおり、水道水を直接飲むことは少ないようだった。ホームステイ先には冷蔵庫が二つあり、ひとつの冷蔵庫には、ペットボトルの水がたくさん冷やしてあり、もう一つの冷蔵庫に食材が入っていた。また、日本ではあまり見ないが、缶入りの水があった。初めてみたときは、水が缶に入っているとは思わず、炭酸飲料かと思ってしまった。また、ペットボトルの水も、ふたの形が日本とは違っていた。ふたがとても薄いのである。現地の人は慣れているため、簡単に開けていたが、慣れていない私には、開けるのがとても難しく感じられた。滞在数日目には、開けるときにいつも当たる部分が痛くなってしまった。

四つ目は、「冷房」だ。ラボックでは、冷房が驚くほど効いていた。ホテルの中は、夏なのにとても寒かった。冬物の長袖パジャマを着たうえ、毛布にくるまってベッドに入っただけでちょうどよく眠れた。ラボックに到着した最初の夕食の席で毛布が配られたときには、「夏なのに何で？」と思ってしまったが、毛布があっただけでよかったと思った。夜だけでなく、昼間も冷房が効いていて、冷房対策に持っていった薄手のコートが手放せなかった。

五つ目は、「プール」だ。訪問前からアメリカの家にはプールがあることが多いと聞いていた。しかし、ここまで立派なプールがあるとは思っていなかった。ホームステイ先のウィズニュースキーさんの家のプールは、深いところが2メートルもあった。アメリカは、日本とはくらべものにならないほど、家の一軒一軒が大きく、家に立派なプールまであり、アメリカの豊かさに驚いた。

六つ目は、「かき氷」だ。イーガート牧場では、かき氷屋さんを呼んでくれており、私たちに無料でかき氷を提供してくれた。かき氷には、シロップの種類がとてもたくさんあった。半分ぐらいしか読めなかったが、イチゴ味、バナナ味、ココナッツ味など全部で20種類ぐらいあったのではないかと思う。しかも、ひとつのかき氷に何種類ものシロップをかけ、カラフルなかき氷にして食べることに驚いた。色が異なるだけでどれも同じ味がする日本のかき氷のシロップと異なり、アメリカのシロップは、それぞれの味がするので驚いた。他にも、日本とラボックの違いはたくさんあったと思う。

今回の派遣では、アメリカ人がとてもおおらかだと感じた。私たちのつたない英語も嫌な顔をせず聞いてくれ、フレンドリーで優しくかった。いつも、“Thank you”と言えるのも素敵だと思った。「申し訳ありません」などの謝りの言葉よりも、「ありがとう」の感謝の言葉のほうが、聞いて嬉しい人も多いのではないかと思う。

最後に、両市の職員の皆様、ウィズニュースキーファミリー、その他今回の派遣に携わった皆さま、このような素敵な機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。



日本とテキサスの食事について

食文化はその土地の様子をよく表すと思うので、食事について調べてみることにした。

【テキサスでよく食べられている料理】

① テクス・メクス料理

・代表的なものはタコス

タコスは、トルティーヤ（トウモロコシの粉からできている生地を薄く丸く焼いたもの）やハードシェルタコス（トルティーヤをU字に曲げて揚げたもの）に野菜や肉、チーズなどを挟んだもの。

・トルティーヤが手に入りにくいアメリカでは、小麦粉でできたフラワートルティーヤや小麦粉ととうもろこしの粉を混ぜたトルティーヤを食べることも多い。

・テキス・メクス料理は全体的に辛い。

・タコスをはじめとしたテキス・メクス料理は肉や野菜がたくさん入っているため、栄養バランスが整っているように感じた。



タコスの栄養について

炭水化物	タンパク質	脂質	ビタミン	ミネラル
トルティーヤの とうもろこし	肉	ハードシェルタ コスの場合には 油で揚げている	トマト レタス	チーズ

② バーベキュー（BBQ）

・テキサスでバーベキュー（BBQ）というのは、牛や豚などの燻製料理を指す。日本でバーベキュー（BBQ）と言えば、屋外で、野菜や肉を焼いて食べる“行為”をイメージするが、それとは異なる。

・牛や豚だけでなく、七面鳥のバーベキュー（BBQ）もある。日本では七面鳥はあまり食べないが、しっとりしていておいしい。

・ホストファミリーたちは、パンの上に、バーベキューの肉やピクルスをのせ、スパイシーなトマトソースをかけて食べていた。

③ ハンバーガー

・アメリカのハンバーガーはとて大きいに違いないと思っていたが、日本のハンバーガーとあまり変わらない大きさのものもあった。

・たくさんの種類のピクルスがあり、好きなピクルスを選べる店もあった。

・フライドポテトとベーコンを混ぜてチーズをのせて焼いた料理などがあり、おいしかった。

④ その他印象的な料理

・s'more

クラッカーにチョコレートと焼いたマシュマロを挟んで食べるもの。マシュマロと一緒にチョコレートが溶けていき、とてもおいしい。

【日本とテキサスの食事のまとめ】

・日本の主食は米であるが、テキサスの主食はトルティーヤとパンが多い。米は、極まれに、テキス・メクス料理の中などに見かけた程度であった。

・海に囲まれている日本と違い、ラボックでは、魚料理は少ないように感じた。

・日本のスーパーでアメリカ産の肉を買って焼いて食べるととてもかたいが、テキサスで食べた肉はどれもやわらかかった。

・日本では七面鳥はあまり食べられないが、アメリカでは七面鳥が食べられていて、おいしかった。

・テキサスでは野菜はあまり食べられないのかと思っていたが、テキサスの料理は、肉も野菜も入っていて、栄養バランスが整っているように感じられた。

・日本の料理は大好きだが、テキサスの料理もとてもおいしかったので、また食べたい。



今回、このラボックの派遣事業に応募するかどうかは直前まで迷っていました。でも、前回の団員たちの報告書を見て、「これは今行くしかない！」と思い、挑戦することにしました。面接の時はとても緊張して、質問に対して上手に答えられなかったので、発表までの数日間、絶対に受からなかったと思いながら過ごしていました。だからこそ、合格と知った時は言葉に表せないほどの嬉しさが胸から溢れてきました。そして事前研修が始まると、すぐみんなと打ち解けることができ、この5日間の研修もサイコーな思い出になりました。



「ヨウコソ」

ではここから、私の一番を紹介します。私が一番、アメリカに行き感動したのは、フレンドリーな人間関係です。それを一番大きく感じたのは、表敬訪問の時だと思います。市役所の人達、また市長さんはもちろん、私たちより目上の方々です。もし日本だったら、ほとんどの人がお辞儀をしたり、いつもより気を遣った態度をとったりするでしょう。でも私たちがそのようなことを考える前には、市役所の人達は、ハグや握手をかわしてくれたり、ニコニコの笑顔で「Nice to meet you」や

と言ってくれたりしました。最初は少し慣れない気がしていましたが、気づけば私はこのとても温かい雰囲気ですっかり馴染んでいました。環境が変わるといことは、食べ物や気候だけではなく自分の体で知りました。

また私が一番、アメリカに来た！！と感じた瞬間は、市役所で食べたお昼ご飯の時間です。何人かの友達と一緒に食べていると、前の席に、市役所で働いている方が「この席に座ってもいいですか」と聞いてきたので、もちろん「Yes」と返しました。そのあとは、その人と英語でたくさん話しました。本当に、話した話題は簡単なことで、「好きな料理は？」や「ペットは飼っている？」、「日本に行ったことはある？」などです。でも、どんどん深く聞かれるにつれ、質問していることは分かるのに英語で答えられないという、もどかしい気持ちになることが多くなりました。そして最終的には悔しいけれどグーグル翻訳を使うことになりました。でも伝わって「Oh, yeah.」と言ってくれた時は、とても嬉しかったです。このように言われたことを聞き取れる、翻訳機能を使ったけれども会話ができるという、この感覚が、私の中でとても印象に残りました。この感覚は、そのあとのホームステイでも感じる事ができました。



最後に、私が一番心に残ったことは、ホームステイです。最初は意識して笑顔で接しているというものが多かったです。でもファミリー全員心がとても広くて、意識しなくても自然な笑顔が作れるようになりました。また、ホストマザーとホストファーザーは、私たちをいつも最優先に考えてくれて、色々な場所に連れて行ってくれたり、家族のことや、アメリカについて多くのことを教えてくれました。特に、車の中から屋外の大きいスクリーンで映画を見たのが思い出です。2日目の夜に見たのですが、映画はもちろん英語なので、全く内容が理解できませんでした。そのこともあり途中からは、私たちとホストファミリーの子供3人で変顔大会をしました。自分でもびっくりしたのですが、ここで一番仲を深めることができました。さよならパーティーでは悲しさをこらえきれず泣きました。過ごした期間が短いのに涙が出る理由は、自分でもなぜかよく分かりませんでした。でも、とても楽しい思い出となったということは言い切ることができます。



を与えたいです。最

後にこの事業を支えてくださった、武蔵野市役所の方々、ラボック市役所の方々、ホストファミリーのみなさん、そして団員のみんな、本当にありがとうございました。この派遣事業で経験したこと決して無駄にしないよう、これからも同じような機会があれば迷わず、必ず挑戦したいと思います！

スポーツとの関わり

～きっかけ～

- ・スポーツが好きだから
- ・今年、オリンピックが開催されたから
- ・自分の夢がスポーツに関わることだから

～研究方法～

1. スポーツについてのアンケートを事前に考え、質問事項を書き、紙にする
2. アメリカのホームステイ時に、ほかの人達にも協力してもらい、スポーツについてのアンケートをとる
3. 日本の人達にも全く同じアンケートをとる

～アンケート～

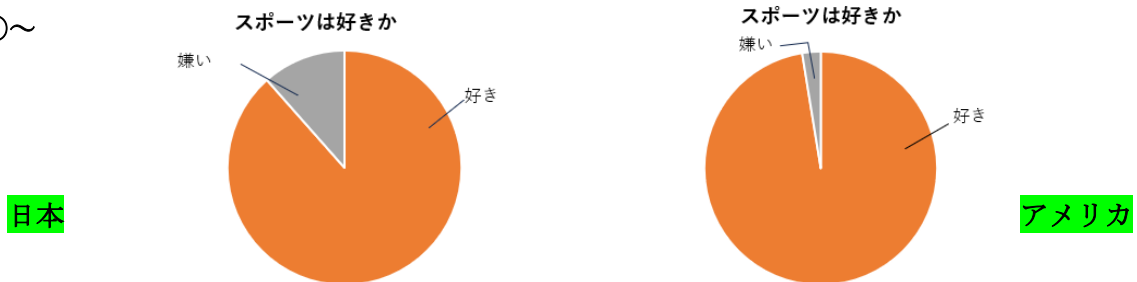
- ① スポーツは好きですか？
- ② 好きなスポーツは何ですか？
- ③ 家族とするスポーツは何ですか？
- ④ どこでスポーツをしますか？例えば、学校やジム、公共施設など。
- ⑤ オリンピックで注目しているスポーツは何ですか？

*子供から大人までアンケートをとりました

～グラフを見る上での注意点～

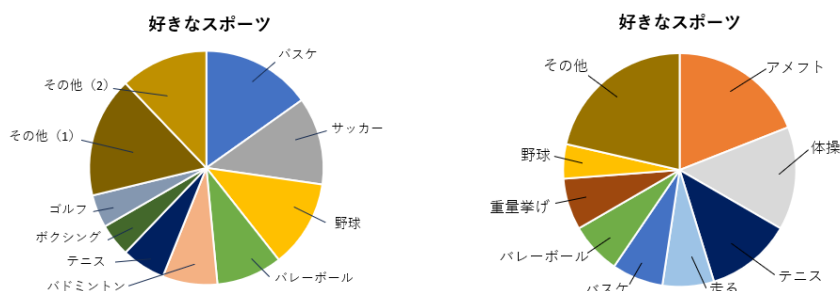
- ・左のグラフが**日本**で、右のグラフが**アメリカ**になっている
- ・その他以外、円グラフの右上から時計回りに沿って、人数が多い順になっている
- ・同じスポーツは同じ色で表されている
- ・選択肢が多く、回答者が1人のものは、その他に入る
- ・結果②の日本のグラフだけ、その他(1)とその他(2)の2種類が書いてある。これは、(1)の方は、回答者が1人。(2)は回答者が2人というのを表している。

～結果①～



日本のほうがアメリカと比べると「好きではない」と答える人が多い。でも、どちらも「好き」と答える人のほうが多い。

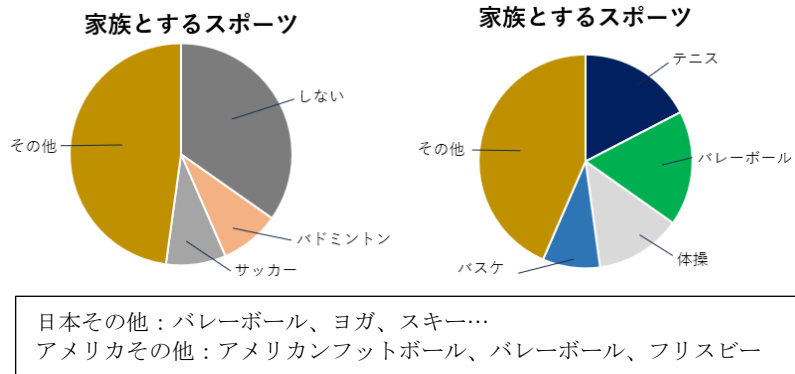
～結果②～



日本その他(1) : 体操、スノーボード、フェンシング、剣道…
 日本その他(2) : 弓道、水泳、柔道、ダンス…
 アメリカその他 : ピックルボール、クレール射撃、ダンス、ボクシング…

アメリカはアメリカンフットボールが一番人気。また、日本の好きなスポーツとして一票も入っていなかった重量挙げが入っている。唯一、バレーボールがどちらの国も同じぐらいの割合で入っている。日本はバスケが一番人気。日本で人気のあるサッカーは、アメリカは一票も入っていなかった。その他ではダンスと答えている人がどちらの国にもいた。アメリカのその他を見ると、ピックルボールとクレイ射撃という特徴的な競技があった。

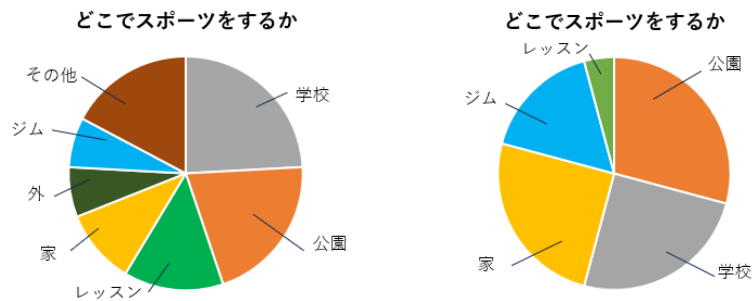
～結果③～



日本は家族とスポーツをしないと答えた人が多かったが、アメリカはいなかった。アメリカは、テニスとバレーボールが人気。それに対して日本は、同数でバドミントンとサッカーが人気。どちらの国も、その他にバレーボールが入っていた。

～結果④～

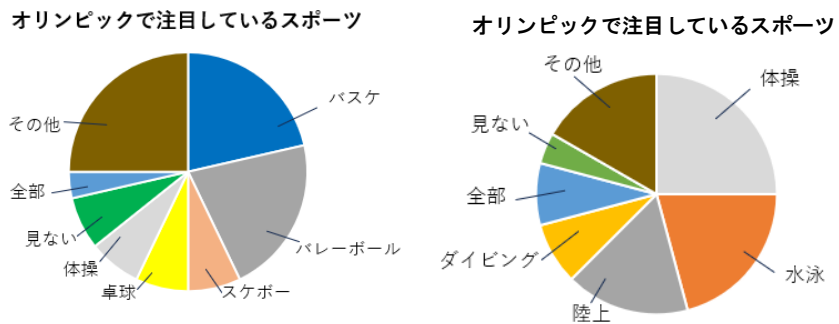
日本その他：プール、ゴルフ場、スキー場…
アメリカその他：なし



どちらの国も、公園と学校でよくスポーツをしている。日本はレッスン（習い事）でスポーツをしていることが多い。アメリカは公園、学校、家がほぼ同じ割合。アメリカの方がジムを利用している人が多い。

～結果⑤～

日本その他：乗馬、陸上、柔道…
アメリカその他：カーリング、クレイ射撃、バレーボール…



日本は、同数でバスケとバレーボールが人気。でも、その日本で人気のあるバレーボールは、アメリカではその他に入っている。アメリカは体操と水泳がほぼ同じ割合で人気。日本は見ないと答える人のほうが、全てと答える人より多いが、アメリカはその反対で、全てと答える人のほうが多い。

～全体の結果を見て感じたこと・気づいたこと～

- ・アメリカはバスケが強いが、あまり、今回のアンケートではその傾向が出てこなかった。
- ・③からアメリカの方が家族とスポーツで関わる時間が長いのかなと予想した。
- ・アメリカは、日本より家でスポーツができる環境が多いというのを、ホームステイ時にも感じた。そして、④のグラフにこの結果が表れている。
- ・全体的に、アメリカでは、体操が、一番人気があった。
- ・④からアメリカではスポーツの習い事は、あまりないのかなと思った。



私は、受験の肝と呼ばれるこの夏休みに、勉強に専念するべきか派遣事業に参加するべきかで悩みました。しかし、長い目で見た時に、糧になるものはなにかと考えた時、海外に行って自分の目で見て触れた方がいいと思ったし、苦手意識のある英語にも取り組むきっかけにもなるのではないかと思い、参加することにしました。

その中で私は、ジュニア交流団に参加し、体験したことで、特に4つのことが思い出に残っています。



1つ目は、2日目に行ったテキサス工科大学の見学です。そこには、日本の大学とは比べ物にならないスケールの建物が並び、バスを降りた瞬間に大きな衝撃を受けました。最初に、国際入学カウンセラーの方から入学に必要な条件などの留学生のための機会について伺いました。テキサス工科大学では、7.4km²の広大な土地で、約32,600人の学生が農学や工学、ビジネスなど、30個以上の学部に分かれて学んでいるそうです。その後はキャンパスツアーをこの大学の学生さんがしてくださいました。庭には様々なオブジェがあり、中でも一見、木でできているように見えて、本当は金属で作られているというものに驚きました。そして私は、

この大学見学を通し日本との、生活や規模、学校の制度の違いを肌で感じ、言語の壁を超えて多くのことを学びました。すべて見て回るのには5、6時間かかりましたが、私にとって濃密で有意義な時間になりました。

2つ目はイーガート牧場訪問です。私は、牧場訪問と聞いて、牛や馬などの動物が柵の中で暮らしている様子を見たり、お話を聞いたりすると思っていました。しかし、実際に訪れてみると、イーガート牧場にはウォータースライダーやプール、釣りができる場所、無料で好きなだけ食べることができるかき氷の店があったり、牧場主さんの飼い犬が自由に牧場内で遊んでいたりと、本当に牧場なのか疑うほど充実していました。牧場にいる方々がとても歓迎して下さり、アットホームな空間だったため、牧場を満喫することができました。

3つ目はホストファミリーとの生活です。私の学校には昨年、ラボック市から来た派遣団員との交流授業が設けられていました。たまたま、その時私の班と一緒に折り紙をした子の家に泊めてもらうことになりました。英語が大の苦手な私が、初めての海外で現地の方たちと生活することに少し不安はありましたが、そんな心配は全く感じないくらいファミリーは優しく、常に私たちのことを考えて様々な体験をさせていただいたため、思っていた何倍も楽しむことができました。2日目にはホストファミリーの長男の誕生日だったため、祖父母の家でパーティーをしました。親戚が集結していて、みんなで一緒にバレーボールをしたり、ボードゲームをしたり、手の甲にホイップクリームを乗せ、投げ上げて口でキャッチするという、アメリカならではの遊びをしたりして遊んだことが特に思い出に残っています。このような充実した2泊3日を過ごし、国際交流の素晴らしさを実感したと同時に、貴重な時間を与えてくれたホストファミリーにとっても感謝しています。



4つ目はこの派遣事業に協力して下さった皆様の優しさです。この8日間、行く先々でスーツケースに入らないくらい大量のお土産をもらったり、少しでも困ったことがあったら現地のコーディネーターの方や同行してくれた市役所の方、同じ交流団の友達が助けてくれたり、ホストファミリーの方が私たちに体験させてあげたいものリストを作ってくれていたり、全力でサポートしていただきました。



このようなことから私は、唯一無二の体験をしたと思うし、アメリカでも日本でも、派遣事業が終わっても連絡をとったり一緒に遊んだりする友達ができたり、初めての体験を沢山したりと、今後の生活にも大きな変化があったと感じ、本当に行くことができよかったです。また、機会があればラボックを訪れたいです。本当にみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な8日間をありがとうございました。

日本とアメリカの食文化の違い

アメリカは、日本のように米を主食としているわけではないので、それに伴って食事の仕方や食べるものが日本とは大きく異なっていると思ったため、調べたいと思いました。

1 飛行機での食事

約 13 時間のフライトの中で、軽食 2 回と食事 2 回ができました。軽食には主にキットカットやせんべいなどのお菓子と小さなハンバーガーのセットでした。夕食はパスタかチキンかの選択式で、朝食はパスタか卵かの選択でした。私はどちらもパスタを頼みましたが、味付けは全く違ってどちらもおいしく食べることができました。



2 ホテルでの食事

私たちは Overton ホテルで 4 回の朝食をとりました。形式はホテルでよくみるバイキングでした。自分で焼くテキサス型のワッフルや好きなものを入れてその場で作ってくれるオムレツ、日本のものより一回り大きいオイコスなど、特徴的なものもありました。

飲み物を直接、店員さんに注文するシステムで、朝食はオレンジジュースかアップルジュースから選択するものでした。

3 レストラン、ファーストフードでの食事

トルティーヤなどのメキシコ料理やハンバーガー、ピザなど、様々な国の食事が取り入れられていました。また、日本食である寿司のお店も見かけました。

4 ホストファミリーの家庭料理

基本的には外食だったため、ホストファミリーの家で食べたのは朝食だけでした。

初めての朝食はシナモンロールと ranch style eggs (ポテトやベーコンが入ったスクランブルドエッグ)、前日を買っていただいたフルーツでした。大皿に入ったそれぞれの料理を、一人ずつに回して、適量を取っていく形でした。

2 日目の朝食は、パンケーキと目玉焼き、1 日目と同様、フルーツでした。食べる前に長女の女の子が一人だけお祈りしていたので、家庭内でも宗教の考え方や信じている度合いに違いがあるのかと感じました。また、ホストファミリーのお宅では鶏を 20 匹以上飼っていて、そこで産んだ卵を使っているため、目玉焼きは半熟で食べることができました。

5 全体を通して

アメリカでは、全体的に色鮮やかな食べ物が多く、蛍光色のカップケーキや様々な色が混ざったドリンクなど、日本にはよくある緑黄色はあまりありませんでした。さらに、スイーツは本当に甘くて、サイズも大きいいため、少し食べただけですぐにおなかがいっぱいになってしまいました。そのことを、1 日目にデンバー空港のグミを食べて感じたと同時にとても衝撃を受けました。皆さんも行く機会があったら是非食べてみてください。

他にも、想像はしていましたが、それよりも食べ物の大きさがすべて大きく、日本の L サイズがアメリカの S サイズといったような感じでした。

このようなことから私は、風土や特色によって食べるものや料理の方法が全然違うことはおもしろいと感じたし、これからまた外国に行く機会やアメリカの別の地域に行く機会があったら食事について考えながらその国を見てみたいと思いました。



「ラボックに行ける！！」ジュニア交流団の合格通知が家に来た時は嬉しくて、家中を飛び回った記憶があります。そこから5回の研修で団員のみんなと仲良くなり、どんどんラボックに行くのが楽しみになりました。出発当日、出発式のあとバスに乗った時は少しだけ不安になったけれど、空港に着いて飛行機に乗ったあとは飛行機と一緒に不安も飛んでいきました。そしてラボックの地面を踏んだ時はもうワクワクしかありませんでした。



ラボックでの8日間は、言葉で言い表せないくらい楽しくて刺激的な毎日でした。その中でも特に思い出に残ったことを3つ紹介します。

1つ目はテキサス工科大学見学です。大学のあまりの大きさに圧倒されました。大学をまわるツアーはバスを使うくらい広くて、ひとつの街のようだと思いました。

2つ目はイーガート牧場です。馬にも乗れて池で釣りもできて、さらにプールや食べ放題のかき氷もあって天国のようでした。バナナとブルーハワイのミックスのかき氷の味が忘れられません。日本でも牧場に行ったことはあったけれど比べものにならないくらいスケールが大きくて、興奮の連続でした。カウボーイ風に馬に乗って撮ってもらった写真はテキサスらしい記念になりました。

3つ目はホームステイです。私のホームステイ先はウィズニュースキーファミリーです。5人家族でお父さんはお医者さんでした。ウィズニュースキーさんのお家に行くと、家の中には筋トレルームやプール、映画ルームがあって、庭には噴水があって車は5台あって、とにかく広くてまるでお城のようでした。ドラマに出てくる海外のお家そのまま現実になったみたいでした。私たちが泊めてもらった部屋には天蓋ベッドや大きいお風呂があって、お姫様気分を味わいました。階段には熊と鹿の剥製が13個もあって、夜通るのが怖かったです。ホームステイ中は、家のアリーナでバスケットボールをやったりプールに入ったり映画を観たり、家の中とは思えないような体験をさせていただきました。最終日の夜は、料理本を出しているくらいお料理が得意なウィズニュースキーさんが親戚を10人くらい呼んで手料理でパーティーをしてくれました。鶏肉のスパイシーなスープが特においしかったです。私は英会話がそんなに得意ではないけれど、みんなとコミュニケーションをとることができて、意外になんとかなるんだなと自信ができました。最終日、ウィズニュースキーさんが空港までお見送りに来てくれました。お別れはとても悲しかったけど、またラボックに来てウィズニュースキーファミリーに会うんだ、と楽しみもできました。絶対にまた会いに行きます。



ラボックでの8日間は人生で二度とできないような貴重な経験ばかりでした。ラボックに行けて本当によかったし、武蔵野市ジュニア交流団として派遣されたことは私の誇りです。今回の派遣に力をつくしてくださった武蔵野市役所の方々や、大塚団長、稲垣さん、小林さん、通訳のユカさんに感謝しています。私はアヤカさんとペアでした。アヤカは同い年と思えないくらいしっかりしていて、話していてとても楽しくて、彼女とペアで良かったなと思います。改めてアヤカにもお礼を言いたいです。

カウボーイとテキサス

☆はじめに

アメリカ、テキサス、と聞いてまず思い浮かぶのがカウボーイだ。とはいえ、カウボーイハットを被った男の人が馬に乗って投げ縄を振り回しているくらいのイメージしかない。まず出発前にカウボーイの歴史や特徴、文化について調べ、実際現地で今もどれくらいカウボーイが残っているのか自分の目で見て確かめたいと思った。

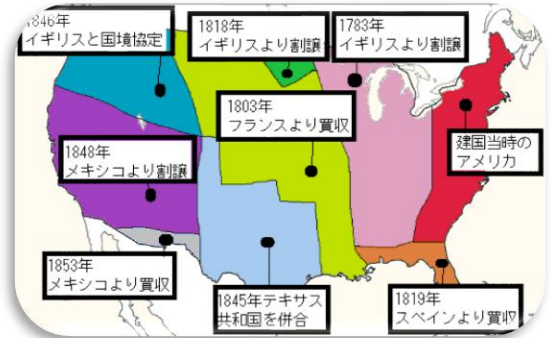


☆事前に調べたこと

①カウボーイとは

メキシコやテキサスなど北アメリカ大陸南部で野生化していた牛を狩り集め、それを群れごと都市部に運んでいった人のことを「カウ(牛)ボーイ」、女性の場合は「カウガール」と呼んだ。テキサスでは4ドルの牛も、北東の市場に持っていけば40ドルで売れたらしい。1880年代には10人前後で牛を2000~3000頭連れて1日約20マイル、合計1000マイルを走った(これを「ロングドライブ」という)。

カウボーイが最も活躍した時代が、1850~60年代だ。1776年に独立したアメリカは、建国当時は東海岸の一部のみだったが徐々に西に領土を広げていった。1850年代にカリフォルニアで金が見つかる「ゴールドラッシュ」が起き、世界中の人々が集まったため、食料が不足。ここでもカウボーイが重宝された。また、1860年代の南北戦争では、南軍の食糧配給に活躍した。



②カウボーイの文化

食事: 長旅中のカウボーイの楽しみといえば、おいしい夕食やキャンプファイヤーを囲んで歌ったり踊ったりすること。カウボーイが牛を運ぶときはだいたい料理人もついていった。料理人は、年を取って働けなくなった元カウボーイが多かった。カウボーイの頭がキャンプの場所を決定すると、料理人が穴を掘って火を起し調理をした。食料は主に小麦粉、コーヒー、豆、砂糖、缶詰、乾燥果物など。よく食卓に並んだのは、パンやコーヒー、ジャガイモ、肉料理、ビスケットやインゲン豆だった。



服装: カウボーイの服装はカッコいいだけでなく、危険から身を守る服装だった。ズボンは馬にまたがる時用にお尻の大きくできていてジーンズ等、馬に乗るのに適しているジーンズだった。帽子はカウボーイハットとして有名。夏用と冬用に分かれ、夏用が軽く涼しい麦わらで編んだストローハット、冬用が温かいウールの帽子だった。裏にある星マークは、ウールの割合を示しており10%で星が1つ。靴はウエスタンブーツと呼ばれ、材質は牛の皮が多く、冬に暖かく馬に乗るときにも優れているカウボーイには必要不可欠な靴だった。



☆現地で思ったこと

行く前は街の人が普通にカウボーイハットを被っているのかな、と思っていたが、実際にはあまりいなかった。だが、牧場や警察などにはカウボーイハットを被って銃を持った人がいたり、ホストファミリーや現地の人に「テキサスといったら何ですか」と質問したら、ほぼ全員が「カウボーイ」と答えたりと、カウボーイ文化が根付いていることがうかがえた。また、ホテルに牛柄のカーペットがあつたり、お土産ショップにはカウボーイハットやウエスタンブーツを履いた牛のキーホルダーがたくさんあつたりした。やはりテキサスの象徴はカウボーイなのかな、と思った。

思いのほか街の中はカウボーイ感がなかったが、よく考えてみたら、日本でも街中で忍者の格好をしていたり袴を履いて刀を持っていたりする人がいないのと同じで、テキサスの人でも日常生活でカウボーイ感を出している人はいないのかもしれない。



「挑戦」という言葉がどれほど難しいか、を知る一週間だった。

このラボック交流団に申し込むのは私にとって大きな挑戦だった。だからこそ合格通知が来たとき私は夢じゃないかと実感がわかなかった。しかし事前研修で英語やマナー研修、そして出し物練習を通して他の団員のみんなと関わっていくうちに「このメンバーでラボックに行きたい」という期待と団員になれたという実感がわいてきた。

出発式。武蔵野市の職員の人や保護者の方々がたくさん集まって来てくれていた。「帰ってきたときには大きく成長した姿を見せられるようにしよう。」そう誓った。

成田空港につき慣れない出国審査をして、日本を出発した。およそ10時間のフライトを終えデンバー空港についた。探しても探しても私達以外に全く日本人はいない。「本当にアメリカに来たんだ」と実感した。見慣れない英語の看板にワクワクしていたのもつかの間、やるべきことを思い出した。そう、昼食の注文である。私はマクドナルドで食べることに決めた。うまく注文できるように、メニューをよく見ながら入念に頭の中で会話のイメージをした。だがよく見るとメニューが日本とは違い、番号が書かれていた。困った。私は食べたいものがどの番号かわからず、とりあえず挑戦した。「ダブルチーズバーガー」をそのまま英語で言って注文を試みた。結果は伝わらず、結局は適当に数字を言ってしまった。奇跡的にダブチが注文できていたときは嬉しかった。頑張っただけで英語で注文するという挑戦ができたことは良かったが、帰るときまでに正確に英語で伝えられるようにしようと思った。

再び飛行機に乗り一時間が経過し、待ちに待ったラボック市についた。ラボックは飛行機からおりた瞬間から全く日本と違って雲がなく真っ赤な太陽が一つ、そしてピンク色のような不思議な色をした空があたり一面に広がっていた。改めてアメリカと日本は違うと思った。



空港を出るとサプライズでホストファミリーが待っていてくれた。紙に「Welcome to Texas! Sana」と書いてくれていて嬉しかった。出会ってから握手やハグをするのは日本にはない文化で自分からするのは少し緊張したが挑戦したら相手も喜んで応じてくれて安心した。興奮が冷めないままホテルについた。部屋はきれいで王族になった気分を味わえた。

次の日のテキサス工科大学見学では、学生の方が案内してくれて大学内を隅々まで見られた。日本の大学とは様子が全く違った。ボルダリングやバスケットボール、水泳もできる施設や芸術品、広い自習室があり勉強もできる、最高の環境が整っていた。その後はタンブラーを作り、ショッピングをした。そのショッピングでは友達へのおみやげや自分へのTシャツを買った。50ドルをホテルに忘れてきてひろきさんに借金をしたのもいい思い出だ。

二日目のバディ・ホリー・ホールでは見たことのない広いホール、風力博物館では大きな風車を見られて新鮮だった。イーガート牧場では更に知らない人と話す機会が増えた。緊張したが、赤ちゃんに話しかけたり年齢が近いブライリーやハーパーに自分から話しかけたりという小さな挑戦をしていくうちに話すことに慣れてきた。プールではボールを使って戦ったりスライダーをしたりしてもものすごく楽しかった。

三日目の表敬訪問。朝からいろいろとやらかしてしまっていたが優しく許してくれた団員のみんなには感謝しかない。市役所につくと、たくさんの人が出迎えてくれた。そして市長や市議会議員の皆さんのお話を聞き、一人一人が自己紹介をする。ラボック市の偉い方々の前でというのはもちろん、英語で話すということで私は更に緊張した。私は深呼吸をして、背筋を伸ばし、はっきり大きな声で喋った。変な英語になっていたかもしれないが頑張っただけで挑戦した。うまくできていたのかはわからないが、自分の出せる最大限のことができたと思う。それだけで私は嬉しかった。その後の警察署ではSWAT、消防署では普段使っている部屋を見せてもらって、アメリカがどう守られているのかを知った。



そしてついに始まったホームステイ。「自分から」という意識で会話するとみんなしっかりと聞いてくれて楽しく会話ができた。夕食後、テニスコートに行きピックルボールというスポーツをした。私は運動神経が悪いためできないような気がしたが、挑戦した。下手ではあったがラリーが続くと嬉しかった。次の日、教会に行き聖歌を聞いたが、想像とは全く違うものでとてもロックな曲だった。様々な人種の方がいたが一斉にお祈りをする場面では圧巻だった。まだまだ知らないことが沢山あると感じた。

長いようで短かった一週間も終わり、さよならパーティーの時間となった。トトロの合奏と書道。どちらとも沢山の人の前で発表するのは緊張したが本番では最高のパフォーマンスができたと思う。リーダーとして他のリーダーやみんなと協力して勧めてきたから成功できて嬉しかった。そして最後のソーラン節。団員全員で心を合わせ会場を躍動させた。ここまで本気でソーラン節を踊れる仲間他にいない、このメンバーは最高だな、と心の底から思った。

帰る頃にはスターバックスでの注文がスラスラ、そして楽しくできた。この一週間で確実に成長したと胸を張って帰国式で言えた。「挑戦」ということをすることに今までは特に緊張していなかった。しかし、この交流団での経験を通していかに知らない場所で挑戦することが難しいのかを思い知った。人に話しかけるのでさえ緊張してうまくいかなかった。それでも挑戦し続けられたのは、一緒にいてくれた仲間、見守ってくれる大人の皆さんが作る「挑戦の雰囲気」のおかげだと思う。「挑戦」することでしか得られない気持ち、経験があると身をもって感じた。そしてラボックにはいろいろな人種の方がいて一人一人が違う宗教や大切にしているものがあつた。社会の授業で習った「人種のサラダボウル」という言葉。まさしくその通りだ。いろいろな肌の色、いろいろな宗教、たくさんの複雑なことが絡み合っ成り立っているラボック。一つ共通して言えるのは誰もが相手を思いやる心を持っているところだ。「レディーファースト」という文化があると聞いていたが、実際には男女関係なくドアを支えて通りやすくしてあげる、という譲り合いをしていた。私はそのようなことが今までできていたのだろうか。この一週間で学んだ挑戦、そして思いやりの心。このことを今後の人生にどういかしていけるのか。しっかり考えたいと思った。



What Do You Like?

連日テレビで放送される野球選手の大谷翔平選手。世界中の人々から愛される日本の漫画。果たしてそれは本当なのだろうか？

私はよく学校の授業で「メディアとの関わり方」について学ぶ。ほとんどの授業でだ。何回も何回も「本当に信用できる情報なのか。自分に都合のいいように解釈できるような情報だけになっていないのか」というようなことを聞かれてきた。そのたびに私は「正確な情報しか見ていないから大丈夫。」と思っていた。

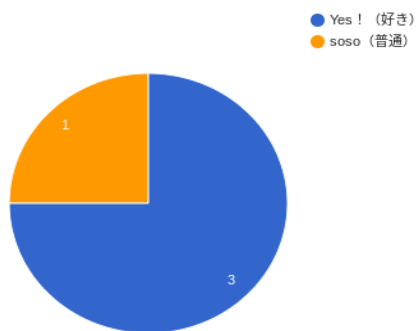
しかし、本当にそうなのだろうか。最近のニュースを見て思った。「日本の〇〇が世界で大ヒット！」「日本人の〇〇は〇〇の国で大人気！」このように日本の文化が人気だと聞くが実際にそうなのだろうか。気になったため「What do you like?」と聞いて日本の好きなものを調べてみた。

【聞く内容と予想】

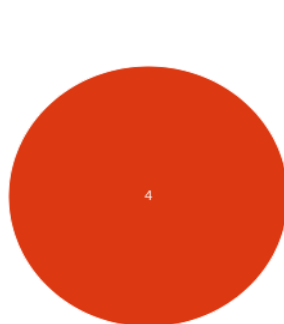
- ① Do you like baseball? → 野球はアメリカでも人気のイメージがあるから好きと答える人が多いと思う。
- ② Do you know any Japanese baseball players? → 毎日ニュースで様々な国の人が大好きと言っている「大谷翔平」選手の名前がでると思う。
- ③ Do you know Japanese anime or manga? → 鬼滅の刃、ドラゴンボール、ワンピース、ドラえもん
- ④ Do you have a favorite Japanese food? → 寿司、天ぷら、うどん、寿司
- ⑤ Do you know about Japanese culture? → 歌舞伎、桜、祭り

【結果】

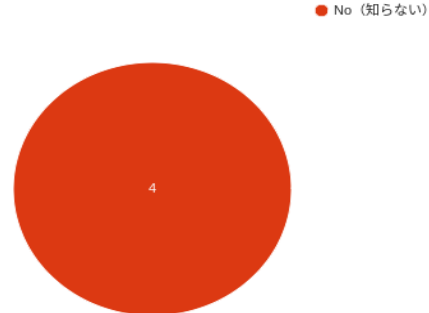
Do you like baseball?



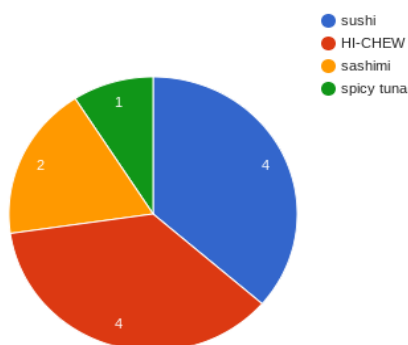
Do you know Japanese anime or manga?



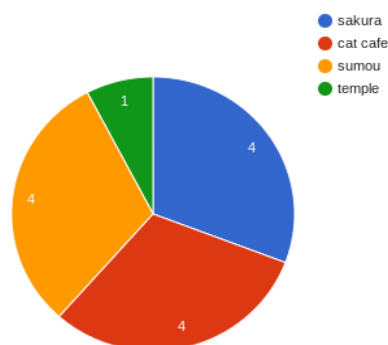
Do you know any Japanese baseball prayers?



Do you have a favorite Japanese food?



Do you know about Japanese culture?



【まとめ】

以上のことが調べた結果である。流石に一人くらいは大谷選手を知っているのでは、と予想していたがホストファミリーは知らなかった。野球が好きではないとしたら納得できるが、野球は好きと言っていたしアメリカの選手で好きな人について教えてもらったため大谷選手が有名なら知っているはずだ。

またアニメや漫画を一つも知らないというのは少し驚いた。ジブリ作品のトトロやジジのことも知らなかった。日本の作品ではサンリオのキャラクターがたまにお店の端に置いてあり、知っている人もいるのかも知れないがあまり有名ではないと思われる。

しかし、寿司や桜、着物など伝統的なものはやはり知っていたし、意外だったのは猫カフェを知っていたことだ。日本のことに興味がないわけではないと思うから、やはり野球選手や漫画、アニメは思っているよりも有名ではないのではないのだろうか。

もちろん私が聞いた人数は少ないしその人達が絶対ではない。しかし私はニュースなどを見る限り「大谷選手や漫画、アニメは外国人の誰もが知っている人気のあるもの」と思い込んでいたし、他にもそのような人は少なくはないだろう。全員が全員知っているわけではないということが身を持ってわかったし、ニュースや新聞も少し誇張しているのではないかと思った。だからこそもっと多くの人にきいて根拠のある情報にしたいと思った。

【感想】

「What do you like?」と聞くことで、アメリカの方が好きなものがわかって面白かった。

日本の漫画、アニメは有名だと思っていたし、私自身大好きだから、全く知らないといっていて残念だった。しかし日本の文化は「とてもきれいで丁寧だから好き」といってくれていたのは嬉しかった。また、日本人は礼儀正しくフレンドリーなところが好きといってくれていたことも嬉しかった。

予想とは違う結果にはなったがホストファミリーと喋るネタになったからとても楽しかった。

初めてのアメリカは出会う人々がみんなやさしく、とても良い思い出になりました。楽しかったこと、うれしかったことを時系列で書きたいと思います。

最初はアメリカに行きたいとぼんやりと思っていただけでしたが、あっと言う間にアメリカに行く日になっていました。バスに乗って成田空港に着いても、飛行機に乗ってもずっと夢見心地でアメリカに行くということが信じられませんでした。テンションが上がってしまい、あまり寝なかったので揺れで少し体調が悪くなってしまいました。職員さん、心配と迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。ホテルに着いて夕食でした。ラボック市からお土産をいただき、歓迎してもらえたことをうれしく思いました。



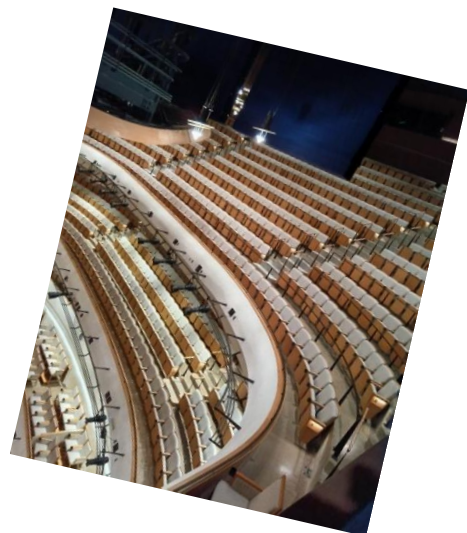
2日目はテキサス工科大を見学しました。建物のデザインがとてもきれいで、敷地は広く通ってみたいと思うほどでした。大学内のショップで水筒を買いました。かっこよくてお気に入りです。また、その後タンブラーの染色体験をしました。好きな色味で可愛いタンブラーを作れて楽しかったです。ピザ屋さんでは生地を投げるノリができ、みんなキャッチして投げ返していてすごかったです。

3日目にはバディ・ホリー・ホールを見学しました。見たことがないくらいの広いホールとデザインに凝った階段があり、吹奏楽をしている私からするととても楽しい場所でした。記念にギターピックをもらいました。かっこいいデザインで気に入りました。その後風車博物館へ行きました。多くの種類があり、ツアーの内容も面白かったです。その後、イーガート牧場に行きました。プールに入ったり、かき氷を食べたりしました。ゆったり過ごせて楽しかったです。

4日目は市役所の議場で名誉市民として表彰を受けました。自己紹介も表彰も多くの人がいて公の場ということもありとても緊張しました。ラボック警察の警察犬のデモンストレーションを見学しました。犯人にしっかり噛みつくように訓練されていて大迫力でした。また、ラボック消防レスキューを見学しました。訓練場やはしご車を見学し、放水体験もさせてもらえました。

6日目にはさよならパーティーをしました。リコーダーやソーラン節を楽しんで見てもらうことができ、書道のプレゼントも喜んでもらえました。最後にはホストファミリーと離れるのが寂しく大号泣してしまいました。また絶対ラボックに行きたいです。

風邪をひいてしまい、大変なこともありましたがとても良い思い出になりました。本当に参加してよかったです。団員のみんなとも仲良くなれて良かったです。どこへ行っても歓迎されて温かい人々と関わることができてうれしかったです。



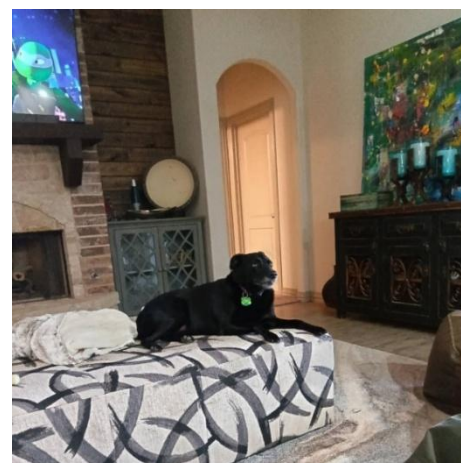
アメリカと日本の家の構造の違い

私はアメリカと日本の家の構造の違いについて調べました。日本もアメリカも一戸建てに限定していて、日本もアメリカも様々な間取りがあるのであくまで基本です。

日本		アメリカ
2階から3階	家の階数	1階の平屋
トイレと浴槽は別、個数は1つ	風呂の構造と個数	トイレの隣に浴槽がある、個数は2つ。夫婦用と子供用
リビングに1つ	テレビの個数	各部屋に1つずつ
特には無く家具のみ	リビングに飾るもの	絵などの美術品や家族の写真を飾る
1台分でカーポートがある場合もある	駐車場	2台くらい所有していて、ガレージがついている
家族の人数分ある	自転車	車社会なので無い
靴の置き場がある	玄関	ドアのみでスペースが無い
ある場合もない場合もある あっても花壇があるくらい	庭	椅子や机を置き、リラックスできるスペースになっている、またBBQができる
室内や専用のケージのなか	ペットの居場所	庭かリビング

家は1階のみで天井が高く、開放的でした。自分たちの部屋の隣が洗面所兼バスルームで私たちがシャワーを使ったあと誰も使わず、不思議に思っていたのですが、翌朝水の音がして別にシャワールームがあることに気づきました。日本は一家に1つでみんな同じところを使うので驚きました。また、私たちが泊まった部屋にもテレビがあり、リビングやホストペアレントが寝ている部屋にもテレビがあり驚きました。リビングには置物があったり、ホストファザーが描いた絵が飾られていたりして日本との違いを感じました。家に2台の車があることも衝撃でしたが、ガレージがあることも驚きでした。アメリカっぽくてかっこよかったです。庭にはソファや椅子があり、犬と戯れることができました。アメリカは空気が乾燥しているので風が吹くと涼しく心地よかったです。

アメリカと日本で家の構造に違いがあることが分かりました。車社会であることや、靴を脱がないことなどの文化の違いで起きる構造の違いもありましたが、テレビや風呂の個数や庭の広さなどなぜ異なるのかわからない違いもあり、面白かったです。



僕が今回この交流団派遣事業に参加して印象に残った2つのことを紹介します。

一つ目はレストランについてです。一日目の昼食はデンバー空港で各自食べることになっていて、男子4人で“Snooze”というレストランに入ることに決めました。しかし、案内される前に席に座るべきなのか、だれかが案内してくれるのか、支払いはどうするのか、など僕にはわからないことばかりで大変でした。結局、みんな調べてチップの支払いもできて何事もなく昼食を終えられました。僕は「英語がうまく使えずに困ることはあっても、文化の違いに困ることは少ないだろう。」と考えていたので、レストランに入る前までは入店から退店までスムーズに行けると思っていたのにスムーズに行えず、この場所で初めてアメリカと日本の文化の違いを目の当たりにして、とうとうアメリカに着いたのだと実感しました。また、文化の違いにも苦勞するのかもしれないと少し不安になりました。昼食の後ジュースを売店で買った際におつりで硬貨をもらいました。しかし、どの硬貨が何セントなのかわからず派遣事業の期間中に硬貨を使うことはないかもしれないと感じました。



二つ目は現地の人の温かさです。部活の顧問にテキサス州に行くことを話したら「差別多そうだよな。」と言われてたり、YouTubeを見ていてもアジア人はぼったくられたり、なめられたりする。などということを知っていたので、「現地の人は日本人よりも怖いのかな?」と考えたりもしましたが、実際は全く違いました。少なくとも僕があつた人達は全員がフレンドリーで優しかったです。

特に印象に残っているエピソードを3つ紹介します。一つ目はデ克蘭の誕生日パーティーの後にデ克蘭の友達と会話をしたことです。初対面であることを気にせず、僕とケンにたくさんの質問をしてくれました。質問攻めを受けたおかげで英語をたくさん聞くことができ、英語をたくさん話すこともできました。彼らと会話をする前までは「話した英語の文法が間違っていたら恥ずかしいな。」と思って英語を話す機会が少なかったのですが、質問に答えていくごとに少しずつ英語を話すことに慣れて、文法を気にしすぎることなくテンポよく会話をすることができました。二つ目はカウボーイハットを買いに行ったお店の店員さんのことです。彼は僕とケンのためにカウボーイハットのサイズや型の違い、デザインの種類を丁寧に教えてくれました。僕が気に入ったデザインで合うサイズが見つからなかった時にはスポンジを入れて調整をしてくれました。調整をしてもらっているときに彼はアニメが好きなのだと話してくれました。僕もアニメが好きなので、短い時間でしたがアニメの話で一緒に盛り上がることで楽しかったです。お店での些細な時間で趣味の話をしたことが今までなかったのも日本とアメリカの人間性の違いなのかもしれないと感じました。三つ目はホワイトファミリーのことです。僕はデ克蘭とアメリカに行く前からメールでやり取りをしていたので空港で初めて会う時も緊張せず会うことができました。緊張はしませんでした。実際に会うのは初めてだったので少し気まずい感じになってしまいました。しかし彼はほぼすべての日程で会いに来てくれたので、ホームステイを迎える日には少しの気まずさもなく、友達になれていました。



ホストマザーのリビーは僕とケンを楽しませるために予定表まで作ってくれていました。一日目から三日目まで予定はたっぷり入っていて、ひとときも暇をせずにホームステイが終わるぎりぎりまで楽しませてもらいました。ホストファザーのステーブンはお医者さんだったので忙しく、最終日と食事の時以外はあまり会えませんでした。犬と遊ばせてくれたり、一緒にゴルフの打ちっぱなしに行ったりしました。僕はゴルフを一度もしたことがなかったので最初は記録にすらならなかったのですが、アドバイスをくれたり、飛距離がでない理由を考えてくれたりして、最終的に70ヤード程飛ばせるようになりました。仕事の様子も見せてくれました。簡単に言うとMRIやX線のデータを見て癌を見つけるという仕事で放射線科医というそうです。何人かのデータも実際に見せてもらいました。内科医と外科医だけが医者ではないのだと実感しました。今まで医者という仕事に興味はなかったのですが、病院を受診するだけでは知ることのできない医者、という部分に魅了されました。三人ともとてもやさしく、僕が話していることを真剣に聞いてくれてとてもうれしかったです。



ちなみに硬貨は帰りのデンバー空港で水とスナックを買う時に勘で使ってみたところ勘が当たり使うことができました。

以上が交流団派遣事業に参加して僕の印象に残った2つのことです。不安と期待を胸にアメリカに向かいましたが、すべてが楽しくて三日目には不安はすべてなくなっていました。普通に旅行しただけでは味わえない経験や現地の人との交流ができて最高に楽しかったです。僕はこの事業を通してアメリカへの興味が今まで以上に深まったので、将来アメリカに留学してみたいと考えようになりました。

ラボックの風車と日本の水車

<序論>

動機

私がなぜこのテーマを調べようと思ったのかというと、“American Windmill Museum”で様々な風車を見たときに昔は発電ではなく、とうもろこしを挽いたり水を汲んだりしていたことを知って風車に興味が出たからだ。また先日訪れた忍野八海で水車がそばを挽いているところを見て、ラボックでは風車が使われていて日本では水車が使われているのは風土の差などの違いによるものなのだろうかと考えたからだ。今回は実際にラボックで見た風車の特徴と、製粉に用いられた動力源が日本は水でラボックが風と異なる要因について考えていく。



<本論>

風車の特徴と利用

風車は一般的に「水平軸風車」と呼ばれる種類と「垂直軸風車」と呼ばれる種類に分けることができる。水平軸風車とは皆さんが知っているような「一般的な形の風車で、風向に対して平行な回転軸を有する風車だ。*1」ここでいう回転軸とは翼の中心についていて翼を支えているパーツだ。垂直軸風車とは「風向に対して直角方向（地面に垂直なものが多い）の回転軸を有する風車だ。*1」水平軸風車と異なり、どの方向から風を受けても回転することができる。

今回は水平軸風車に焦点を当てて調べていこうと思う。水平軸風車には3つの型がある。一つ目は「プロペラ型風車*1」だ。プロペラ型は、「現在の風力発電で最も一般的に見ることができる形式だ。*1」博物館でプロペラ型の風車を見た。風車の中に入られてもらったのだが、中は暗く最上部へと続く梯子があった。聞いた説明によるとこの風車はコンクリートで支えているわけではなく杭を打って支えているのだと言っていた。実際外に出て風車の外周を見ると杭が打ってあった。外に出て風車を眺めていると案外翼の風を切る音が大きいことと、風の強さによって微妙に回るスピードが変化することに気が付いた。二つ目は「オランダ型風車*1」だ。オランダ型は「オランダをはじめとしたヨーロッパに多く見られる伝統的な風車だ。発電にはあまり利用されず、主に水をくみ上げるためや、穀物を挽くために使われた。*1」博物館で見たオランダ型の風車は風車の下に家があり、住むことができるようになっていた。日本でもオランダがモチーフになっているハウステンボスでオランダ型風車を見ることができる。三つ目は「多翼型風車*1」だ。多翼型はその名の通り「多数の翼があり風を捉えやすい構造をしている。そのため風が弱い地域でも効率よく動作することができる。農場や井戸で使用される。*1」博物館に一番多くの数が展示されていたのはこの多翼型だ。実際にラボックでも多翼型の風車が多く用いられていたようだ。写真に写っている風車はいずれも多翼型だ。写真にはさまざまな色の風車があるが、これは風車を作っている人の個性だそうで、カウボーイがどこに自分の家があるのか探すために役立っていたらしい。中には強すぎる風が吹いたときに翼が壊れないように自動で翼が動いて風を受け流せるようになるものや、女性や子供のような力が弱い人でも風車に油をさせるように工夫されたものなど

があった。これら3つの型が水平軸風車である。

オランダ型風車による製粉の仕組みについて説明していく。翼の部分に水平に取り付けられた歯車とこの歯車に垂直に取り付けられた歯車が翼の動きに連動する。翼の動きに連動することで垂直に取り付けられた歯車と軸で連結している石臼が挽かれるという仕組みだ。プロペラ型風車は発電を、多翼型風車は水を汲んだり、排水をしたりする。

水車の利用

水車にも「反動形^{※2}」の中の「フランス水車^{※2}」、「斜流水車^{※2}」、「プロペラ風車^{※2}」と「衝動系^{※2}」の「ペルトン水車^{※2}」、「クロスフロー水車^{※2}」という種類などがあるのだが、これらはいずれも「水力発電に用いられる水車の種類である。^{※2}」今回は製粉に用いられた水車に焦点を当てているので特徴の説明は省くことにする。

現在一般的にみることができている水車は車輪のように見える縦置き型の水車だ。「これはウィトルウィウス型水車と呼ばれ、ウィトルウィウスというローマの建築家が紀元前19世紀に書き記した記述によって誕生したと考えられている。^{※3}」急流地点に点在している水車を水面に水平に設置する横置き型の水車の誕生はウィトルウィウス型水車が単純化したものか、独立して誕生したものなのかなど、この辺りははっきりとしていない。後に横置き型の水車は19世紀にイギリス人の古物研究家が、ノルウェー人が考案したものだと勘違いしてノルウェー式製粉機と命名された。^{※4}これらの水車がどのように製粉をしているのか説明していく。「縦置き型の水車は水車の端に水車と平行につけられたパーツと水車の横に垂直に取り付けられた歯車が水車に連動する。水車に連動することで垂直に取り付けられた歯車の上に連結している石臼が挽かれるという仕組みだ。^{※3}」横置き型の水車は水車に平行に石臼が連結していて水車が動くとき挽かれるという仕組みだ。^{※4}

風車と水車の比較

調べて気が付いた共通点は、風車と水車の製粉の仕組みはほとんど同じであることと、使用目的が変化すると用いる型も変化するということの二つだ。相違点も原動力が風なのか水なのかということと、「誕生時期が水車のほうが風車よりも早い^{※3}」ということの二つだ。



<結論>

考察

水車と風車の製粉の仕組みに大きな違いはなく、ラボックと日本でそれぞれ風車と水車が使われているのは風土の差によるものだと考えられる。ラボックは雨が少なく、川も流れが遅いという特徴があるので水車を用いるのが難しいと考えられる。この点風車は動力源が風のため風土にあまり影響を受けずに用いることができる。しかし、博物館で聞いた説明によるとハリケーンで風車が壊れてしまうことはあるそうだ。それでもラボックで風車が用いられていたのは風車のほうが水車よりもメリットが大きいかからだろう。反対に日本は雨が多く、川の流れも速いため水車を用いたほうが、効率が良いのだと考えられる。また、日本には台風が頻繁に接近する。頻繁に接近する台風によって何度も風車が壊される危険性もあるため日本は風車ではなく水車を用いているのだと考えられる。

参考文献・引用

※1 風力発電について解説します。NTN 8月19日

https://n3.ntn.co.jp/kinds_of_windturbine/

※2 3分でわかる技術の超キホン 水力発電用「水車」の分類・種類と仕組み | アイアール技術者教育研究所 8月19日

<https://engineer-education.com/water-wheel/#i-4>

※3 #756 水車製粉の始まり①…ウィトルウィウスの発明 | 木下製粉株式会社

8月19日 <https://www.flour.co.jp/news/article/756/>

※4 #757 水車製粉の始まり②…ウィトルウィウス型とノルウェー式 | 木下製粉株式会社

8月19日 <https://www.flour.co.jp/news/article/757/>

大きなワクワクと期待を抱え、私はテキサス州ラボック市へと飛び立ちました。5回の研修ですっかり仲良くなったこの16人で海外派遣に臨める、それだけでラボック市で過ごす1週間が最高なものになるという予感がしてなりませんでした。

人生初の12時間越えのフライトを終え、着いた場所はもう簡単に生活ができる場所ではありません。それなのにアメリカでの1週間が始まる、という実感も恐怖心もなかったのは私だけだったのでしょうか。体が感じるもの1つ1つが新鮮で、生まれたばかりの赤ちゃんってこんな感じなんだろうね、なんて話しながらたくさん写真を撮りました。ラボックで一番良いホテルだというオーバートンホテルに到着し、部屋に入ると疲れ切ってすぐ夢の中…なんてわけもなく深夜まで興奮はさめきらないままでした。

次の日からはラボックのコーディネーターさんが準備して下さったスペシャルプログラムを体験しました。その中で特に興味がわいた場所、楽しかった場所、印象に残った場所の3つを伝えさせてください。

興味がわいた場所はテキサス工科大学、TTUです。みんなでおそろいの赤いTシャツを着て見学をしたTTUではアメリカのスケールの大きさを改めて感じました。生徒が作成したという美術品も大々的に展示されていたことや改修中で完成間近だというアメフト・スタジアムが印象的でした。留学生の受け入れ制度も整っていて、アメリカならではの多様性を感じました。

楽しかった場所はイーガート牧場です。イーガート牧場では自由時間が多く取られており、各自で乗馬、釣り、かき氷などを楽しむことができるようになっていました。そんな中私はほとんどをプールで過ごしました。もったいないなあと思うかもしれませんが、私的には大満足。水中バレーやドッジボール、浮き輪に乗って遊び、疲れたらプールの中で新鮮なスイカをほおぼる。そんなTHE夏！というような体験を最高な天気のもと、アメリカの空気と牧場のナチュラルな雰囲気の中ですることができました。そこで遊んだ友達とは一気に仲が深まり、とてもいい思い出になりました。

印象に残った場所は警察署です。警察署ではアメリカでしか撮れないような写真がたくさん撮れました。例えば騎馬隊。テキサス州といえばカウボーイのようなイメージがあったのでそれを実際に見ることができ、とてもうれしかったです。一番印象的だったのはアメリカの特殊武装部隊SWATです。映画でしか見たことのないような高くて迫力満点の戦闘車に乗せてもらったり、日本では禁止されているであろう大きなライフルを持たせてもらったり、防護服のようなものとヘルメットの試着をしたりして写真を撮らせてもらえました。その写真はどれも日本では撮れないもので、映画の中に入り込んだような特別なものになりました。

帰国前日はホストファミリーとのお別れパーティーの後、荷造りをしました。行きよりもパンパンになったスーツケースが、いかにこの一週間が充実したものだったかを物語っていました。

そんなこんなで乗り込んでしまった帰りの飛行機。寂しい気持ちを紛らわそうとこの一週間で収めた写真フォルダを見ていると逆に帰りたくないという気持ちが倍増してしまいました。2回目の長時間フライトを終え到着した我が母国、日本はとてもムシムシしていました。

私はこの派遣事業に応募していない一週間が想像できないです。応募していなかったら出会えなかった景色、体験、仲間は私の新しい挑戦を後押ししてくれる宝物になりました。私の体を感じたラボックのすべてのものに感謝し、次につなげていきます。ありがとう、ラボック！



日本とアメリカの人々&街並みの違い

私は転勤族で日本のいろいろな場所でいろいろな街や人と触れてきました。その中でたくさんの違いに気づき、日本と海外ではどのくらい違うのか興味を持ったのでこの研究テーマにしました。

1. 人々の違い

<予想> ノリがよくフレンドリー

- ・実際に行ったプールパーティでのダンス、このようなイベントでは…

<日本> 子供がメインで楽しむ。大人は見守っていたり、動画写真をとることが多い。

<アメリカ> 大人が子供を誘う。大人子供関係なく全員で enjoy する。

- ・やっぱりフレンドリー！

9割以上の方が握手に快く応じてくれたり、手を差し出してくれた。

お店の方が会計の時 Hello と言ってくれた。

→知らない方でも気軽に Hi! といえる雰囲気があった。



2. 街並みの違い

<予想> 高いビルが多く、車道が広い。

- ・テキサスでは高いビルはそこまで目立たず1～2階建てのお店が目立っていた。
- ・車社会というだけあって車道は広く、車通りも多かった。
- ・歩道は舗装されていない砂道のところもあった。
- ・車の信号は日本とあまり違いはなく、歩行者の信号は赤と青が左右でわかれていた。
- ・駅、電車、線路がほとんどなかった。



←消火栓のデザインがお気に入り☆
赤&青がかわいい！

～まとめ～

このテーマを設定したおかげでラボックの街や人をよく観察し、記録することができました。予想通りだったこともそうでなかったことも全てが新鮮で新しく、充実した8日間でした。

この研修は私にとって初めての海外ではありませんでした。けれど初めて親元を離れ、また自分で英語を話さなきゃいけないんだと考えた時、不安でいっぱいでした。しかし100人以上応募した人がいる中で武蔵野市の代表に選んでもらったのだから頑張ろうと気を引き締め武蔵野市役所を出発しました。

成田空港からデンバー空港までは思ったより近かったです。デンバー空港のマクドナルドでハンバーガーを注文できた時の感動は忘れられません。ラボック空港に着いたらホストファミリーが私たちを迎えてくれて疲れが一気になくなりました。それからの7日間は短く濃いものでした。この中から思い出に残ったプログラムを2つ紹介します。



1つ目は、Texas Tech University への訪問です。

私たちが泊まったホテルは TTU のすぐ隣だったけれど、大学内に入ると外から見るとよりずっと大きくてカッコいい大学でした。最初に大学入学への説明を聞き、それから学校を見学しました。大学はとっても広く校舎はお城みたいで海外の学園ドラマの中に入った様な感じで学生の皆さんもキラキラして見えました。TTU の中でも一番興奮したのは大学内のバスケスタジアムに入れたことです。なぜならテイラー・スウィフトがライブをしたと聞いたからです。スタジアムの中央にある大きなモニターには私たちへの歓迎の言葉が映されていて嬉しさと驚きに加え感謝の気持ちが込み上げてきました。その後みんなでバスケをしたのも楽しかったです。

2つ目は、待ちに待ったホームステイ。出発前から楽しみにしていたプログラムだったのでホストファミリーと合流した瞬間、爆発しちゃうくらいワクワクしました。ホストファミリーのお家はバックトゥーザ・フューチャーに出てくるお家みたいで映画好きの私はとても感動しました。大きな車庫に2台も車があって、家には靴で入る。お庭の大きさも冷蔵庫の大きさも日本の二倍以上あってアメリカン

サイズに驚かされました。まず私たちは日本からのお土産をプレゼントしました。お母さんと一緒に選んだスターバックスの「JAPAN」と「TOKYO」と書かれたマグカップをホストペアレンツはとても喜んでくれて嬉しかったです。ホストペアレンツが作ってくれたトマトパスタはとっても美味しく、ホストファミリーとの会話も弾み、とても楽しいひとときでした。その中でも一番覚えているのはホストシスターのニコルから「日本の学校のトイレは綺麗？」と聞かれたことです。あまりにも不思議な質問に戸惑ったものの「綺麗だよ」と答えるとすごく驚かれたのが印象に残っています。アメリカはサマータイムで21時でもまだ明るく、食後にホストシスターの友達のレクシーの家でダンスをしたり、近くの公園でピクニックをしました。



次の日は私が見たかったプレーリードッグを見にプレーリードッグタウンに行きました。写真で見るとより小さく、餌を食べているところは可愛かったです。帰ろうとした時に昨日お別れしたはずの団長やあやさん、ひろきさんに会えたのがちょっと嬉しかったです。プレーリードッグを見た後はカウボーイ用品が売っているお店に連れて行ってもらいました。カウボーイハットを見ていると「これが良さそうじゃない？」とホストマザーに言われ被ってみました。テキサスに来た時からカウボーイハットを買おうと決めていて、いざ買おうとしたらなんとホストファーザーが買ってくれました。日本ではあまり買えないので私の宝になりました。

次に TTU のプールに行きました。大学見学の時にみんなで「行きたいね」と言っていて、いけるなんて思ってもいませんでした。プールには色々な洋楽が流れていて歌いながらホストシスターとプールに入れたのはとってもいい思い出です。その後は私がもう一つしたかった映画に連れて行ってくれました。なんと映画館ではなく外で車の中でみました。驚きなのが日本でも人気のミニオン映画、英語名は「Despicable Me 4」ってことです。日本では英語名を聞いたことなかったけど映画自体は英語でもわかりやすく楽しかったです。3日目は朝から教会に行き買い物したらホテルへ。その後のさよならパーティーも無事終わり、2泊3日のホームステイがあつという間に終わってしまいました。



6泊8日のこの研修はこれからの私の人生においてとても重要な経験の一つになりました。結団式の時には顔も名前もわからなかったけれど、今ではなんでも話せる友達以上の大切なメンバーです。15人のメンバー、団長、あやさん、ひろきさん、ユカさん、エイプリルさん、メーガンさん、ウッドさん、ホストファミリーの Marston 家の皆さん、そして私たちがラボック市へ行くうえで支えて下さった皆さん、武蔵野市役所とラボック市役所の皆さん本当にありがとうございました。 Thank you so much !!

日本との食文化の違い

私は食べる事が好きなので、日本とアメリカの食文化の違いについて研究しようと思いました。



行く前のイメージ

基本的に洋食で、パン、お肉、スープ、パスタが多い。ランチは、ご飯、おかずなどがちゃんと分かれている。

日本のお弁当とは違いアメリカのお弁当はリングやサンドウィッチなど大胆で簡単なイメージ。

アメリカと日本の違い

① 味

日本のように繊細じゃなくて、甘い辛いのように単純だった。日本の料理は甘酸っぱいなど細かなところまで味を楽しむけど、アメリカのごはんはただただ甘かったりしょっぱかったり味が濃かった。ホストファミリーに連れて行って貰ったステーキ屋さんで最初に出てきたパンにはシナモンシュガーを付けたけどデザート級の甘さだった。rice を注文したらまさかのステーキソースのかかったお米で白米ではなかった。食べてみたら味がとても濃かったけれど美味しかった。けれどステーキとの組み合わせはあまり良くなかった。そしてステーキのサイドにスイートポテトを食べていて驚いた。日本ではデザートで食べるものだと話すもホストファミリーも驚いていた。アメリカでよく飲まれている iced tea は加糖と無糖があるが加糖が好んで飲まれている。お茶と砂糖の割合が3：1ぐらいでとっても甘かった。

② 量

日本の何倍もボリュームで脂っこいジャンクフードが多かった。行く前からアメリカのSサイズは日本のMサイズって聞いていたけれど、その通りだった。大きさの違いを特に感じたのはドリンクのサイズだ。日本の2倍ほどあってリフィルできるお店も多かった。派遣中に食べたご飯はハンバーガー、サンドイッチ、ポテトフライの日本という代表的なジャンクフードばかりで、ホームシックにはならなかったけれど、日本食シックになった。2日目の夜食べたピザは1スライスが日本の1.5倍あって2枚ほどでお腹いっぱいになった。ステーキ屋さんで食べたマッシュポテトにはグレイビーソースとチーズをトッピングしたらただでさえポテトが脂っこいのに、プラスでソースとチーズだったので想像以上の量でとてもお腹がいっぱいになった。

③ 朝ごはん、スクールランチ

	アメリカ	日本
朝ごはん	ドーナッツ、コーンフレーク、パン、オートミール、ワッフル	パン、ご飯、お味噌汁、焼き鮭のような和食
スクールランチ	サンドイッチ（中身はピーナッツバターとジャムを一緒にしたもの）、タコス、マカロニチーズ	お米、おかず、副菜などちゃんとしたもの
学食	チップス、ハンバーガー、ピザ あまり美味しくない(ホストシスター談)	ラーメン、唐揚げ定食、カレー (私の学校の学食メニュー)



その他

お菓子はピンクや水色などカラフルなものが多い。料理に豆を使うことが多く煮豆もよく食事に出てきた。

まとめ

日本は白米が主食で魚料理も多く味付けは薄めだけど、アメリカは小麦を使ったパスタやパンが主食で肉料理が多く味付けは濃かった。アメリカでは白米は食べられなかった。

ホストファーザーは「日本食は魚、野菜が多くてヘルシー。」と言っていて、私も実際アメリカに行って同じ様に感じた。アメリカの食事はとっても好きだけど、一週間も食べると日本人には重たくて、ヘルシーな日本食が恋しくなってしまった。

私はこの派遣事業で人生において初めての海外に行くことになりました。まさか親なし、しかもほぼ地球の反対側のアメリカが人生初海外旅行になるとは思いませんでした。最初は選ばれるとは思わないで行くことができたらいいなあという気持ちで応募しました。しかし、合格通知がきて、飛び上がって喜んだことを今でもはっきりと覚えています。

5回の研修で仲間と仲良くなり、ついにラボックへ出発する日になりました。家族に送り出されたときはまだ覚悟が決まっていませんでした。しかし、空港で手荷物検査を終えると次第に覚悟ができてきました。飛行機に乗るときはやる気に満ちた気持ちでした。



それから約12時間のフライトを経てラボックに到着すると、自分が生まれて初めて見る光景ばかりが目に入ってきて、今まで感じたことのないくらい的好奇心がわいてきました。この事業では、私は数えきれないほどの「初めて」を経験しました。すべての初めてをしっかりとエンジョイし、そこでいろいろなことを学びました。日本との価値観の違いや、人に接する態度の違い、人同士のつながりの違いなどいろいろなことを体感しました。

ニューヨークやサンフランシスコのような大都市ではない、普通のアメリカが見られる場所に行けた記憶は一生の宝物になるでしょう。これからの人生、いろいろな国に行ってみたいと考えています。今までは日本から出ることが少し怖かったですが、今回で恐怖心はなくなりました。いろいろな国、地域に行き、現地の文化をたくさん知って自分の人生を豊かなものにしていきたいと考えています。また、今回で自分の英語力がまだまだなこと気が付いたため、英語でのコミュニケーション能力を上げるモチベーションにもなったと思っています。もっともっと勉強して、世界中の人と交流することができるようになりたいと思いました。

まだまだ人生は続いていきます。私はいつかラボックにまた行きたいです。あの温かい「普通のアメリカ」での時間をまた過ごしたいです。そして、ホストファミリーにも会いたいです。改めて、この事業を支えてくださった皆様に深く感謝をしたいです。本当にありがとうございました。



アメリカの人の文化

私がラボックで学んだ現地の人の文化はととてもたくさんありますが、ここでは3つ紹介します。

1つ目は近所の人との強い結びつきです。ホームステイ中、車でホワイト家の家に帰るとき、近所に「デクラン 16歳の誕生日おめでとう」のような言葉が飾ってあって（デクランはホワイト家の息子さんです）近所の人とのつながりが日本人より強いなと感じました。私は日本でもこのような文化があったらなあと思いました。

2つ目は星条旗のデザインをしたものをたくさん飾っている点です。日本では日の丸の国旗を掲げることはあまりみられません、アメリカでは愛国心が強い人が多く、日常的に国旗を掲げている人も少なくないようです。私のホームステイ先は息子さんが誕生日だったため、普通より星条旗のデザインがされたものがとても多かったです。雰囲気は昔の日本のようでした。アメリカに来てすぐは星条旗を掲げている家が多いということを知って驚きましたが、しばらく過ごすうちにそのような文化もいいな、と受け入れるようになっていました。

3つ目は誕生日のお祝いの仕方の違いです。日本ではケーキを食べてプレゼントを渡してあまり盛大には祝いませんが、アメリカでは家じゅうを星条旗やリボンで飾り付けをして、友達をたくさん呼んで、神様に命を授かったことを祝福する日だそうです。アメリカの誕生日パーティーはキリスト教の考え方が強く表れていることが分かりました。

私はこの派遣事業で、アメリカのいろいろな文化を学びました。最初は驚くことが多くありましたが、そのような文化が形作られてきた背景を知るにつれて、ますますアメリカの文化に対する興味がわいてきました。この派遣事業で私の視野は広くなり、様々な知見が得られました。この派遣事業を支えてくださった人全員に深く感謝を申し上げます。



私は英会話を小学1年生から習っています。英会話教室の先輩がホームステイや留学で色々刺激を受けたという話を聞いて、私もいつかそんな経験がしてみたいと思い今回の派遣事業に応募しました。

団員に選んでいただいたので、見るもの、聞くもの全てを自分の糧にするつもりで参加しました。

ラボックへはまずデンバーまで約11時間のフライトでした。初海外ということもありこんなに長いフライトは初めてでした。最初は物珍しくて映画や機内食を楽しんだりしていましたが、あまりの長さに「アメリカは本当に遠い」と実感しました。



デンバーからラボックへも飛行機でしたが小型なせいかよく揺れて大丈夫かなと不安になりました。ラボックに着いて一面トウモロコシ畑が広がっているのを見ると「アメリカに来たなー」と感じました。空港ではホストファミリー達が歓迎してくれるというサプライズな出来事に感激しました。その後ホテルに行き、長い一日目が終わりました。

次の日からはラボックの色々な施設を見学しました。

テキサステック（テキサス工科大学）はクライミングや広い図書館、学生寮などの施設が充実していたのが印象的でした。バディ・ホリー・ホールはすごく高いところまで客席があり、音の響きもよくて素晴らしいホールでした。イーガート牧場では乗馬を体験できたり、プールに入ったりしました。プールではスイカ、苺、ブドウ、パイナップルを食べたりしながら、ウォーターライダーを滑ったりバレーボール、釣りなどをして団員、現地の人とエンジョイして交流することができました。市役所、警察署にも行きました。警察署では大型バイクにまたがったり、パトカーの中に入ったり、銃を構える

体験をしたりしてアメリカならではの経験ができました。

ホームステイでは優しいホストファミリーの家でペアのリオととても充実した時間が過ごせました。

さよならパーティーは研修で練習してきたソーラン節やカントリーロード等の合唱を披露しました。カントリーロードではピアノ伴奏を担当しました。皆で合わせる時間が少なかったのが不安でしたが、各自練習していたので、本番では感動的な演奏ができたと思います。ただホームステイのホストファミリーとの別れがとても悲しかったです。

今回の研修を通して団員の皆と仲良くなれました。全員優しくて上下関係もなくすごく良いメンバーでした。今後も交流を続けていきたいなと思っています。



ラボックでは見たことのない壮大な景色、食べきれないくらい量のごはん、シャイな私にどんどん話しかけてくれるフレンドリーな人々に出会うことができました。

私にとって一生忘れることのない大切な思い出をつくることができました。このような機会を与えてくれたラボックそして市役所の皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。



日本とアメリカとの生活の違いについて

日本とアメリカでは、建物や移動方法、生活などが全く違いました。

■家の違い

ラボックの家は一階建てで地下室があるのが一般的でした。これは竜巻の影響を考えたものらしく、この地域では竜巻が多いことが分かりました。

大きな家には広大な庭があり、芝生で思いっきり犬が走り回っていました。ドッグランが各家庭にあり犬は幸せそうでした。

日本の家はお風呂とトイレが分かれていることが多いですが、アメリカでは一つの部屋にまとめられていました。こうした部屋は各自の部屋にあるそうです。

シャワーヘッドはバスタブの上に固定されていました。実際に使ってみると背中を流したくてもシャワーヘッドが動かないので自分が動かなければなりません。

体を洗ったり、掃除をしたりするには日本のホース付きのシャワーの方が私的には使い勝手がいいと思いました。でもバスルームが各自の部屋にあり好きなタイミングで行けるので、お風呂の時間が長いとよく注意されている私からすると、とてもうらやましいと思いました。

■移動方法の違い

日本は歩きや自転車、電車という交通手段をよく使いますが、アメリカは土地自体が広く目的地までの距離が離れているので、主に車を使用して移動しているように感じました。

ラボックでは道が広いこともあり車のスピードもとても速かったです。道はまっすぐ伸びていて乗り物酔いしやすい私も酔うことはありませんでした。

■生活の違い（食べ物や、習慣、過ごし方など）

ラボックのホテルや外食での食べ物は味が濃くて美味しいけど、油っこいものが多くて日本食の方がヘルシーだと思いました。

マックなどに行くと、ハンバーガー自体の大きさにはあまり違いを感じなかったけど飲み物のサイズはアメリカの方が断然大きかったです。

ホストファミリーの家では、食前にお祈りをする習慣がありました。最初に長いお祈りの言葉をお父さんが唱えて、皆は下を向き隣の人と手をつないで最後に「アーメン」と言ってから食べ始めました。日本は「いただきます」だけなので文化の違いを感じました。

家の中での過ごし方はかなり違って、日本では靴を玄関で脱ぎ、家の中は靴下などで歩くが、アメリカでは靴のまま家に上がり、寝る時以外は靴を履いているのが当たり前でした。寝る時しか靴を脱がないので、玄関に靴を脱ぐ場所がなくていきなり廊下やリビングがあって驚きました。災害が起きた時にはいいと思いますが、慣れないので少しリラックスしづらかったです。

また、日常の中でしてもらったことに対してチップを払う文化がありました。感謝が伝わるのはいいことだけど、お金で伝えるのはなんかなあと思ってしまいました。

■コミュニケーションの違い

アメリカの人は親切でフレンドリーな人が多く、知らない人でも挨拶したり気軽に会話を交わしたりしました。日本と違い、様々な人種の人達が同じ地域に住んでいるので、積極的なコミュニケーションが必要なのかなと感じました。明るく挨拶されると温かい気持ちになるので、素敵な文化だと思いました。

■結論

日本とアメリカでは様々な生活、考え方の違いがありました。

アメリカを見て日本のよいところも沢山発見できました。また、アメリカのおおらかな文化もとてもよいと思いました。

両国の良いところ悪いところを知り、これから私達がどうすべきか、どうやってお互い理解を深めあってゆくかを考えていきたいと思います。



約13時間の長い長いフライトを終え、ついに着いた異国の地アメリカ。小さなころからの憧れの地でもあり、日本とは全く異なる文化を持つ、私にとってまさに夢の国。出発前からずっと抱えていた沢山の不安はいざアメリカに着いてみると、これからの8日間に対する期待や喜びの方が大きくなり、「出来なかったらどうしよう。」という心配な気持ちは挑戦心へと変わっていった。

アメリカで様々な体験をして過ごすことが出来た8日間は何れも新鮮でかけがえのない思い出ばかりだ。そのうちの2つを紹介したいと思う。

一つ目は3日目に訪問した警察署本部のデモンストレーション見学である。まず見せていただいたのは警察犬の訓練の様子。訓練士の警官の出す指示通りに動く様子、犯人を素早く追いかけて、力強く噛みつく様子、一つ一つに驚いたのと同時に、なぜこんなに信頼し合うことが出来るのか疑問に思った。聞いてみると、訓練士は警察犬と深い信頼関係を築くため最初の約1か月間一緒に住みながら訓練するのだという。遊びと訓練の区別をしっかりとつけて、本番しっかりと訓練の結果を出せるよう、家では遊ばないのだとも教えてもらった。



忠実に指示に従う警察犬と深く信頼し合うことが出来ている訓練士さんは目で見てわかるくらい強い結束力があつた。警察署で驚いたのはそれだけではない。パトロールする警察官の人が馬に乗っていたり、重い防護服とマイクがついているヘルメットをしていたり、小さなドローンを素早くコントロールしていたり、日本ではあまりないような風景をたくさん見ることが出来た。実際に体験したりすることもでき、初めてのことがたくさん体験出来てとても良い思い出になった。

二つ目は3日間のホームステイだ。どんな人たちが受け入れてくれるのか、ちゃんと会話できるのかドキドキしていたが、私たちがアメリカに着いた初日に空港にお出迎えに来てくれていた。そして、すぐに私たちを見つけて明るく声をかけてくれた。ホストマザーの **Rebekah** は、緊張気味な私たちに色々な質問をしてくれ、長女の **Lucy** は笑顔で「ようこそ!」「なにか日本語を教えて!」と話しかけてくれ、末っ子の **Juliette** は大好きなパンダの話を楽しそうに話してくれた。少ししか話す時間がなかったし、話している内容をすべて理解できたわけではなかったが、「楽しい!もっと話したい!」と強く思った。ホストファミリー対面式では、初めて会った日から3日ほどしかたっていなかったけれど、「やっと会えたね!この日が待ち遠しかったよ!」と言いながらハグしてくれて、嬉しかった。家へ着くと、人懐こい大きなハスキー犬、**Kitkat** (キケット) が「ようこそ!」というようにしっぽを振りながら駆け寄ってきてくれた。ホストファザーの **Jordan** と長男の **Jason** もにこやかに受け入れてくれた。一緒に過ごした中で一番印象に残っているのは、たくさん会話が出来たことだ。たくさん話す中で自分の英語力や知らない単語の多さを思い知らされた部分もあったが、英語が出来なくても話したい、と思わせてくれるほど、**Elder** 家のみんなと話すのは楽しかったし、何より私が何か話しかけた時のリアクションがとても大きくて話しかけるたびにワクワクした。言葉が伝わらないことの方が多かったけれど、自分の言葉で伝えたり、伝わるようにジェスチャーを試みたり、ゲームで犯人が誰なのかお互いに探り合って笑ったり。そこにはコミュニケーションを取る術として英語は必要だったけれど、それも必要ないくらい私たちの心は通じ合っていた気がした。**Elder** 家で過ごすことが出来た3日間は一秒一秒が楽しく、みんなのオープンな性格と豪快な笑顔にたくさんの元気と活力がもたらされた。

初めてアメリカに着いた時の喜びと感動、そして期待。ずっと心の中で思い描いていた夢の国は私が思っているよりもずっとずっと広く、自由とオープンな心を持った人々に溢れていた。たくさんの人と出会い、「初めて」をたくさん体験し、大切な仲間である団員たちと絆を深めることができたこと、本当に数えきれないほどの思い出を作ることが出来たこと。私たちをずっと支えて下さった方々に感謝の気持ちで一杯だ。アメリカで過ごせたこの8日間の思い出はこれからもずっと私の心に残り続けるだろう。



多民族国家と多様性

【事前に調べたこと】

アメリカの面積は日本の約 25 倍で、人口は約 3 億 4500 万人（日本の約 3 倍）である。

また、50 の州から構成されており、民族の割合は、白人 57.8%、ヒスパニック 18.7%、黒人 12.1%、アジア系 6%、その他 6.1%である。日本人に比べみんなオープンな性格である。

【実際に行って学べたこと、知れたこと】

ホストファミリーの家での夕食の際、TTU（テキサス工科大学）に通っているインド出身の方や、メキシコ出身の方、テキサスに住んでいる知り合い（Giraffe というあだ名の方）などが来て一緒にご飯を食べた。インド出身の方と Giraffe は日本語を話すことが出来て驚いた。「なぜ日本語を話せるの？」と聞くと、インド出身の方は「TTU で学んでいるから。」と言っていた。一方 Giraffe は「近所に日本人が住んでいて、話せるようになりたいと独学で学んできた。話せる言語が違い、コミュニケーションを取れない人がいるときは、日本語で会話したりもする。」と聞いてとても驚いた。お互い日本人ではない人たちが日本語を用いてコミュニケーションを取っているというのはとても興味深かった。

次の日ホストファミリーに連れて行ってもらった教会では、様々な服装、髪型、言語を話す人がいたが、みんな同じ聖歌などを歌ったり、キッズルームでは聖書のワンフレーズをみんなで読み上げたりと、お互いを受け入れあっている人たちがたくさん見られた。ランチの時間では、多くの人が広い食堂に集まり、いくつもある丸いテーブルを囲う形で好きな席に座っていた。私のテーブルには、前日の夜一緒に夕食を食べた、インド出身の方とメキシコ出身の方と Giraffe の他に、TTU に通う中国出身の方や親子で来ていたネパール出身の方などもいて、一緒に話すことが出来て楽しかった。TTU の話を聞いたり、それぞれの国の話をしたり、逆に私が質問されたりと、国際的な話が出来たと思う。

Giraffe に「ここでは多様性はどれくらい認められていると思う？」と聞いてみたら、「今のように出身地や民族など関係なく一緒に話をすることが出来たり、みんな対等の立場で自分の思っていることや考えを言えるような環境はとてもいい環境だと僕は思う。けど、今の状況を多様性が認められていると言っていいかどうかは僕が決められることではないと感じる。」と話してくれた。

【考えたこと】

アメリカで過ごす中で幅広い世代、異なる人種、ハンディキャップがある人など本当に様々な人たちと出会い、たくさん話をすることが出来た。アメリカには多様なルーツを持つ人々が暮らしていてそれぞれがそのルーツに誇りをもって生きているということを感じることが出来た。また、世代が違って、性別が違って、人種が違ってハンディキャップがあっても、英語さえあれば会話が出来る。英語はどんな人とでもコミュニケーションを取ることが出来る重要なツールになると実感した。教会で出会ったネパール出身の方は、つたない英語であったが、他の人種の方と積極的に交流していて、対等な姿勢で対話していた。翻訳などを用いるのも会話の術の一つではあったが、自分の言葉で伝えることの大切さを間近で感じる事が出来た。今回アメリカで感じる事が出来た多様性。すべての違いを超えて会話をすることが出来る英語。「自分に誇りをもって相手を認める。」この精神を胸に日本でも生活していきたいと思った。



団員アンケート集計

回答数：16名

回答率：100%

1. 今回のアメリカテキサス州ラボック市への武蔵野市ジュニア交流団派遣事業に参加した感想を教えてください。

- ・大変良かった（16名）

理由

■大変良かった

- ・たくさんの「初めて」を体験しながら、新しい仲間と過ごしたことは一生心に残る思い出になった。
- ・実際に現地の人と会話をしたり、話しているのを聞いたりしたことで英語力が向上したと思ったから。
- ・ホストファミリーと生活をともにしたことでアメリカの生活を実際に体験できたから。
- ・武蔵野市とラボック市のコーディネーターの皆さんの協力があり安心安全に楽しく体験できたから。
- ・テレビ越しで見ていた異国の地に行き、日本では感じられない壮大なスケールを実際に五感で感じる事ができたから。
- ・武蔵野市代表として体験できたことで自分自身に自信がついたし視野が広がったから。

2. 事前研修について

(1) 役に立った研修内容を教えてください。

- ・英語研修（入国審査や飲食店等で予想される会話の練習）
- ・マナー研修
- ・前回団員の話
- ・通貨について
- ・ソーラン節など出し物練習
- ・健康管理
- ・持ち物

理由

<英語研修>

- ・入国審査とお金の単位や支払い方法を事前研修で学ぶことが役立ったから。
- ・英語の表現を事前研修などで学んでいたことでホームステイ中に意思を伝えられたから。
- ・発音の仕方で全く別ものになってしまうというのを行く前に学べ、そこを意識することができたから。
- ・英語に対して苦手意識があったが、わかりやすいプリントにまとめて配られ、とても安心したから。
- ・自分で上手く文章を作れず会話が止まってしまった時に英語研修で習った例文を使って会話をすることができたから。

<文化・マナー研修>

- ・握手やハグについて事前研修で知っていたので事前に心構えができたから。
- ・相手に失礼になるような態度を事前に知ることができ注意できたから。
- ・文化を事前に知っておくことで観光場所に行った時により深く理解することができたから。
- ・研修で学べたことによってテキサスで文化やマナーを大切に過ごせたから。

<前回団員の話>

- ・経験談が聞けたり質問できたことで、不安だったことが解決したりと少し安心できたから。

- ・何を用意した方が良いかなどアドバイスを聞いてとても役に立ったから。

<出し物練習>

- ・出し物をみんなで一生懸命練習したことで団員とも仲良くなれたと思うから。

(2) 回数は ・適当である (11名) 少なすぎる (5名)

理由

■ 適当である

- ・研修で仲間との絆を深め、打ち解けることができたと思うから。
- ・多すぎると学校の行事などと重なってしまうが、少なすぎるとアメリカに行くのに不安になって、出し物練習もできないから。
- ・アメリカについてよく知ることが出来たし、自分の気持ちの表現の仕方やちょっとした会話のテクニックなど、細かい部分まで学ぶことが出来て良かったから。

■ 少ない

- ・全員での出し物の練習、合わせができたならさよならパーティが更に良く出来たと思うから。
- ・研修の内容が多かったのもう1回分研修を増やして分けてもよいと思ったから。
- ・英語研修をもっとやった方が、交流がより良いものになると思ったから。

3. 研修の形式 (5回のうち4回対面、1回オンライン) について

- ・このままでよい (9名) ・すべて対面式がよい (4名) ・オンラインを増やしてほしい (3名)

■ このままでよい

- ・出し物の練習や何か配布物がある時は対面、英語のレッスンや文化・マナーの研修の時はオンラインと言う形式がやりやすかったから。
- ・放課後や試験期間など忙しいときなど、オンラインの方が参加しやすいから。
- ・オンラインは、接続が悪かったりしたが、資料を画面共有してくれていたのを見やすかったし、発言者以外がマイクを off というルールだったので、対面式より説明を集中して聞くことが出来て良かったから。

■ すべて対面式が良い

- ・オンラインだと集中力が続かなかったから。
- ・対面している方「アメリカに行くんだな」という覚悟ができたから。
- ・通信が悪くて聞き取りづらいところがあったから。

■ オンラインを増やしてほしい

- ・部活などであまり時間がない時があったから。
- ・英語研修などはオンラインの方が聞きやすかったから。

4. 事前研修の日時や長さ等について自由意見

- ・平日の開始時間が部活終わりと被っている人が多く見られていた。休日開催を増やしてほしい。
- ・研修時間の長さについては短い時間に対して内容が詰まっていたし十分学べたので充実していたと思う。

5. 事前研修に組み込んだ方が良くと思う内容があれば教えてください。

- ・英語の表現や単語について向き合う時間をもう少し増やしてほしい。
- ・1回の自己紹介じゃ名前を覚えきれなかったから、2回目でもう一回簡単な自己紹介タイムがあるとよい。
- ・ホームステイに何を持っていく方がいいのか、ステイ中何をやる予定なのかを知りたかったからホストファミリーと事前に連絡取る回があると良い。
- ・なぜ自分が団員に選ばれたのか知りたかった。それを理解できると、自分に自信がつくと思ったから。

6. 旅行期間、時期について

(1) 旅行期間 (8日間) は ・ 適当である (11名) ・ 短すぎる (5名)

■ 適当である

- ・初日は長時間のフライトで疲れていたため到着してホテルで休むことができたのが良かった。
- ・8日の内、3日間はテキサス州の名所や様々なことを体験できたし、あとの3日間はホストファミリーと楽しい時間を過ごすことが出来き、全体的にバランスも良く、すべてのアクティビティをみんなで楽しんで体験できた。
- ・アメリカでしたいと思っていたことを全てやって帰ってこれた。
- ・部活動や勉強、課題のことなどを考えると8日間は適当だと思う。
- ・合計の派遣期間は適当だが、ホームステイ期間は増やしてほしい。

■ 短すぎる

- ・もっとホストファミリーと一緒にいたかった。
- ・英語での会話に慣れてきたところで、帰国になってしまった。
- ・毎日予定がびっしり詰まっていたあつという間に終わってしまい、ハードなスケジュールで睡眠時間が足りなかったと思った。

(2) 旅行時期 (夏休み序盤) は

- ・ 適当である (16名)

■ 理由

- ・派遣後に夏休みの宿題をする時間が十分にあり安心できる。
- ・部活や塾との両立がしやすかった。
- ・報告書を夏休み期間の時間があるなかで書くことができる。
- ・8月は更に暑くなるから7月の開催が妥当だと思うから。
- ・派遣事業で仲良くなった友達と夏休み中に遊びに行けるから。

6. アメリカでどのくらいおこづかいを使いましたか。また使い道について。

持参した金額 約 310 ドル 使った金額 約 170 ドル

■ 主な使途

- ・お土産 (お菓子・衣類など)
- ・現地での軽食 (お菓子、飲み物等)
- ・チップ

7. ホームステイ以外で、特に楽しかった・良かったプログラムを教えてください（最大5つ）

■得票順

- イーガート牧場 （15名）
- テキサス工科大学 （12名）
- ハワイ・フルイド・アート（タンブラー・帽子づくり） （12名）
- 警察署 （9名）
- さよならパーティ （7名）
- ラボック市役所（表敬訪問・市役所見学）（4名）
- バディ・ホリー・ホール （3名）
- 風力博物館 （3名）
- 消防署（2名）

8. おいしかった食事は何ですか（複数回答可）、その他食事に関するご意見があればお聞かせください。

- ・ピザ （8名）
- ・ホテルの朝食 （5名）
- ・市役所で食べたメキシコ料理 （4名）
- ・初日の夕食のサンドウィッチ
- ・ホストファミリーが用意してくれた食事
- ・テキサス BBQ
- ・機内食

■その他感想

- ・バイキング形式が自分で調整できて食べやすかった。
- ・ピザ屋さんの日本語表示メニューが嬉しかった。
- ・タコスなど辛い物もあった。
- ・油ものが多かった。
- ・お菓子は予想外の味がすることがあった。

9. アメリカ滞在中、文化の違いや考え方の違いを感じることはありましたか。また、それはどんな体験をしたときに感じましたか。

- ・初めて直接会った時や、別れの時男女関係なくハグをしていたのを見た時アメリカへ来と実感した。
- ・レストランに行った時や買い物をした時に“Have a good day”や“Have a nice day”と言われること。
- ・オリンピックの開会式を見ているときホストファミリーが「聖書への侮辱だ」と言っていたことが、宗教による視点の違いを感じた。
- ・男女関係なくドアは譲り合いで後の人のために通しやすく手上げていたところ。
- ・ホストファミリーにアメリカでは食べきれない分は持ち帰ると教えてもらったことが驚いた。
- ・誰でも気軽に挨拶を交わしてくれて温かい心になった。
- ・目上の人に対しても言葉はフレンドリーだけれど、敬意を姿勢や作法で表しているなど感じた。
- ・アメリカの方々は「自分をみて！」と言わんばかりにいろいろなものや写真を見せてくれた。褒めても、謙遜せずに素直に Thank you! と返してくれたのでとても気持ちが良かった。
- ・イーガート牧場に行った時お母さんが「ここを自分たちの家だと思って過ごしてね」って言ってくださり、

初対面の私たちを牧場のみなさんは最初から家族のようにしてくれたことにとても感動した。

- ・ホストマザーによく勉強はするのかと聞かれ、すると答えたらホストシスターたちに「よく聞きなさい」って言っていて、私もよく母に言われるので、お母さんの言うことは全世界共通なんだと思った。
- ・ホームステイ中の食事前にお祈りをしたこと。
- ・ミスがあっても落ち込まないところがとても印象的だった。周りも笑っていてとても素敵な雰囲気でした。

10. ホームステイ中、どこに行きましたか。また、一緒に何をして過ごしましたか [7月27日(土曜日)]

- ・飲食店 (ハンバーガー、日本料理、ドーナツ、マカロン、アイスクリーム)
- ・自宅でホストファミリーと過ごした (絵を描く、テレビ鑑賞、カラオケ・おりがみ)
- ・レジャー (プール・プラネタリウム、ボウリング、野外映画、ゲームセンター、遊園地、ドライブ)
- ・スポーツ (テニス、バレーボール、ゴルフ等)
- ・買い物 (ショッピングモール、スーパーマーケット、洋服店、ウエスタンショップ、文具店、本屋等)
- ・ゲーム (チェス、ビリヤード、テレビゲーム等)
- ・観光 (恐竜博物館、プレーリードッグタウン等)
- ・ホストファミリーの友人と食事、誕生日パーティ
- ・ホストファミリーのペットと遊んだ (犬・猫・馬・ヤギ等)
- ・ホストファミリーの職場見学
- ・教会

11. ホストファミリーとコミュニケーションをとるにあたって工夫したことがあれば教えてください。

- ・自分の英語で伝えることを意識し、伝わらなかつたら Google 翻訳を使用した。
- ・感謝や謝罪の言葉などは知っている言葉の中で最大限表現した。
- ・表情を普段よりも豊かにした。テンション感で肯定や否定、疑問を伝えた。
- ・単語でもいいからとにかく話した。
- ・ジェスチャー、写真を利用した。

(3) 特に楽しかったこと、困ったこと・失敗したことを記入してください。

■楽しかったこと

- ・英語に慣れてくるとある程度何を話しているかが分かり理解できていることにも喜びを感じた。
- ・日本語上手く喋れるか大会などを一緒にしたこと。
- ・絵を描いたこと。一緒に料理を作ったこと。
- ・プールで遊んだり、ゲームをしたこと。
- ・持参した日本のパックご飯と海苔でおにぎりを作ったこと。
- ・外で映画を見たこと。
- ・誕生日パーティをしたこと。

■困ったこと・失敗したこと

- ・理解できない英語が多く、伝わらないことがあった。
- ・ファミリー同士の会話が早くて何を話しているのか分からず、話に入れなかったこと。
- ・気遣って、色々勧めてくれた時、断りきれず困ることがあった。
- ・お風呂のシャワーの出し方がわからなかった。

12 今回のホームステイは、あなたにとっていい経験になりましたか

- ・はい (16名)

■理由

- ・自分から話しに行くことの大切さや、コミュニケーションの必要性を改めて感じた。
- ・こんなにも親切にしてくれる人が家族以外にもいることを知り、感謝の気持ちをしっかり伝えていかなくてはならないと思えた。
- ・実際に現地の人と交流することはただの旅行では経験ができないことだから。
- ・アメリカの文化を知ることによって日本を改めて見返すいい機会となったから。
- ・ホストファミリーの方の暖かさを知ることによって自分の人間性もあがったと思ったから。
- ・自分の英語がちゃんと伝わるんだと自信を持てたから。
- ・アメリカの家庭料理を沢山食べられたから。

13. 今後もホストファミリーと交流を継続していきたいと思いませんか。継続する場合、どのような交流をしたいですか

- ・メールや SNS (WhatsApp・Instagram・LINE 等) で連絡を取り合いたい。
- ・日本であったことや自分の近況などを報告したい。
- ・季節ごとにお手紙を出したい。
- ・長期休みではまた会いに行きたい。

14. 今後、今回の派遣事業の経験をどのように活かしていきたいですか。

- ・アメリカの良さや素晴らしい文化などをもっと学び、武蔵野市の代表として行ってこれたこと、そしてずっと憧れの地であったアメリカで様々な体験をして様々な人たちに会えたことを、これからの活力とし、今までもこれからも大好きな英語に関しての学びを深めていきたい。
- ・これから更に英語を学んで大学生の時に1年間位留学したい。将来的には海外で働いてみたいとも思えた。
- ・受験や就職などの際の面接での度胸がついたから、思いきり自分をだすというアメリカマインドをもって挑めるようにしたい。
- ・海外の大学を見学し、自分の進路や就職先をより考えるきっかけになった。
- ・いつか他の国にも行って、他の文化に触れてみたいと思うきっかけになった。
- ・何事にもめげずに挑戦しようとする大切さ、仲間・友だちの大切さを噛みしめた旅だったので、普段の部活などでもめげず、沢山のことを頑張り、仲間も大切にしていきたいと思った。
- ・今回の経験で更に初対面の人と話す、新しいことに挑戦することが楽しみになった。もし挑戦するか迷っても誰かが背中を押してしてくれる場面も多かったので次は誰かの挑戦したい！を応援できるようにもなりたい。
- ・英語を喋ってみて会話がちゃんとできたことで自信がついたので、街で外国の方を見つけた時は積極的に話しかけ、助けたい。
- ・この経験を活かして私も誰かに関わる時に壁を感じず、ラボックの方のようにフレンドリーに話しかけていきたい。

15. 次回以降の派遣事業の参加者に向けてぜひメッセージをお願いします！

- ・バスや飛行機でもらえる水は全部もらっておいたほうが良い！テキサスはとても乾燥しているため喉が渇くし、メキシコ料理など辛い料理なども出てくるので、水を持っていたほうが良いと思います。ただ、どこかで買おうとすると高かったりするから、ペットボトルを持ち歩くのがベストだと思います。他には、くしやみをした人に「bless you.」と声をかけてあげるととても喜ばれるし、コミュニケーションのきっかけにもなるのでおすすめです。
- ・多くの方は初めてホームステイを経験するかと思います。自分の英語は相手に伝わるのか、相手が話していることを理解できるのかなど、様々な不安を抱えながらホームステイを迎えると思いますが、必ずホストファミリーの方々があなた達を温かく迎え入れてくれるので、そこまで気を張りすぎず楽しみにしておけば良いかと思います。実際自分もすごく不安でしたが、つたない英語で頑張って話したらホストファミリーの方々は物凄く真剣に聞いて下さいましたし、相手が話していることが半分くらいしか分からなくても何とかだったので皆さんも大丈夫だと思います。ぜひ日本とはいろんなことが違うラボックを楽しんでください。あと、日本で好きな映画、俳優、飲み物、食べ物、NBAで好きなチーム、好きなアメリカの歌手など様々な質問をされたので、ある程度先に考えておくと安心かもしれません。最後に、ホストファミリーなどと連絡先を交換するために WhatsApp か Instagram のアカウントは持つておくことをお勧めします。
- ・とにかく欲しいものは買った方がいい。歩くたびに美男美女がいるから覚悟しよう。とにかく自分から話かけて挑戦することが最高の思い出をつくる第一歩！とにかく楽しんで！
- ・頑張れば言いたいことは伝わる。不安もたくさんだと思うが、楽しんで欲しい。
- ・ホストファミリーとたくさん会話しよう！日本に帰ってきてから、もっと会話したいな、もっと遊びたいなと思って寂しくなりました。
- ・一生懸命話せば、相手も一生懸命聞いてくれるので、伝わらないと諦めず、たくさんコミュニケーションをとってください！あと自分へのお土産も忘れずに！
- ・忘れられない最高の一週間になるので楽しんでください！
- ・本当に一生の思い出になります!!レポートとかは大変だけど、それ以上の学びがあるので頑張ってください!!
- ・長く思えて一瞬の旅！悔いの残らないように沢山話して、沢山気持ちを伝えてみてください。きっと一瞬の旅が一生の思い出になるはずですよ！！
- ・英語は絶対学んでった方がいいです。
- ・最初は英語が不安かもしれませんが、知っている単語を並べ、ジェスチャーなどで通じます！一緒に泊まる相手と話して、知っている単語を並べてみてください！相手もわかりやすい英語でゆっくり話してくれます。
- ・最初は緊張すると思いますが、通訳の方もついてくださるので、安心です！とにかく、思いきり楽しんでください！8日って意外と短いですよ。
- ・挨拶や握手、写真撮影を積極的にしてみてください！
- ・ラボックの方は想像以上に快く、ノリよく受け入れてくれますし、なによりとても良い経験や思い出になります。英語を話すことは勇気がいることだけど、1週間は本当にあっという間なので「自分から」を大切に向こうの方とも、もちろん団員とも絆を深めて来ててください！楽しんで！
- ・最初のころは正確な英語を喋ることに執着していました。ホームステイ中に翻訳アプリを使ってホストシスターと会話をしていて発音よく喋ったはずが全く伝わらず、自分のわかる言葉で頑張ってたらずらら伝わって会話ができました。アメリカに着いたらみんな私たちが英語を喋れないのは分かってるから、完璧な通訳の英語で喋るより、恐れず自身を持って自分の知ってる言葉で喋った方が勉強になったのでとってもオススメ

です。見て学んだこと、みんなで過ごす1分1秒を全部良い経験にして下さい！8日間って数字的にはすっごく長く感じるけど体感3日ぐらいであつという間だから楽しんで！

- ・日本では、得ることのできない様々な経験をする事が出来るので、ぜひ、楽しんでください！
- ・アメリカに行く、ましてや外国に行く事自体がはじめてという人もいるかも知れません。しかし、アメリカの人は元気いっぱいフレンドリーです。外国の人と関わるという数少ない機会を大切に沢山話しかけてみてください。きっとあなたにとって忘れられない経験になるでしょう。Let's challenge and enjoy!
- ・大変なことも本当にたくさんあると思うけど、楽しむことを第一に考えて派遣事業に参加してほしいです！皆さんにとって忘れられない経験になると思います。そして、睡眠をとることが大切なのでよく寝てください。本当に寝ないと体調を崩します！！頑張ってください！！
- ・最初は不安でも、いざやってみれば案外うまくいく。新しいことを怖がらずに何事も楽しもう。

16. その他全体的な感想や、派遣中に困ったこと、武蔵野市やラボック市の職員に伝えたいことなどがありましたらご自由にお書きください。

- ・8日間お世話になりました。初めての長いフライトや、わからないことだらけで沢山不安がある中、団長をはじめ、ひろきさんやあやさん、他にも武蔵野市で私たちを支えてくださった方々のおかげで怪我無く、最後のプログラムまで楽しみ、最高の8日間を過ごすことが出来ました。14年間生きてきた中で一番濃く多彩な思い出にすることが出来たのは、現地の方々や私たちを快く受け入れて下さるホストファミリー達の協力があつたからでもあります。アメリカへ行き、様々な体験をし、ホストファミリーと最高の思い出を作り、無事日本へ帰国したこと。正直、夢のような時間すぎて、行ってきたことも帰ってきたことも実感がまだまだわからないけれど、このような派遣事業に参加し、新しい体験ができたことに本当に感謝しています。ありがとうございました。
- ・最高で貴重な体験の場を設けていただき本当にありがとうございます。めちゃくちゃ楽しかったです。これからもこの交流が続いていくことを願っています。
- ・他の学校から来た人と仲良くなれるチャンスはいいものだと思います。
- ・この経験は一生の思い出になりました！とっても楽しかったです！！
- ・ラボック市の方々に変な英語で話しかけていても笑って対応していただき、自分でも英語が使えるという自信につながりました。国と国の距離があつてもラボックは私の第二の故郷と言えるような場所になりました。将来は自分の力でラボックに来たいと思います！
- ・このような派遣事業に参加させていただきありがとうございました。ラボック市の方へ、とても歓迎してくださり、たくさんのお土産もありがとうございました。
- ・自分の体調の心配がありながらも、無事に行つて帰ることができて、本当によかったです。新しい世界を見ることができ、人生の中でもとてもいい思い出になりました。アメリカの方々は優しく、コミュニケーション面では特に大きな心配ありませんでした。もっともっと広い世界を見たいなりました。
- ・海外留学にずっと憧れて、今回応募しました。研修から、引率までお世話になりました。この経験をいかし、将来の夢に向かっていこうと思います。
- ・全体的に雰囲気も良かったし、気づきや学びも多くて、とてもいい旅になったと思う！
- ・武蔵野のみなさん、このような素敵な事業に私を選んでくれてありがとうございました！おかげで素晴らしい体験と仲間、自信を持つことができました。ラボックのみなさん、私たちのためにスペシャルなプランを用意してくださりありがとうございます！とても充実したみんなに自慢したくなる1週間を過ごすことができました！
- ・日本はおもてなしの国と言われることがあるけれど、私は今回ラボック市に訪問して行く先行く先で沢山の

お土産をいただき、沢山食べさせてもいただき研修中ずっとお腹がいっぱいで沢山おもてなしをしていただきました。今回はコロナ明け初の武蔵野市からの研修で大変なことが多かったと思います。そんな中私達16人をラボック市に連れて行っていただいたこと心から感謝しています。また私たちが研修するうえで数えきれない人のお力があつたことにも感謝しています。団長、あやさん、ひろきさん、通訳のユカさん、エイプリルさん、メーガンさん、ホストファミリーそして裏で私たちを支えて下さった武蔵野市ラボック市双方の職員の方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

- ・アメリカでは、家の規模や周りの景色をはじめ、日本とは全く異なるものばかりでとても驚きました。また、市役所表敬訪問など普通の旅行ではできないような体験もし、かけがえのない思い出を作ることが出来ました。この派遣を支えて下さった皆様、様々なところでサポートしていただき、本当にありがとうございました。

10. 来年ラボック市からジュニア交流団が来訪する際（例年6月ごろ）に、ホストファミリーとして受け入れをしたいですか

※現時点での希望でかまいません

※この設問の回答に関わらず、来年度皆様にあらかじめ詳細をご案内しますので、ぜひご協力をお願いいたします

- ・はい（4名）
- ・いいえ（2名）
- ・わからない（10名）

《保護者アンケート》

1. 武蔵野市ジュニア交流団派遣事業への参加を通して、帰国後の団員の様子をみて、どう思われましたか。

- ・大変よい（16名）

理由

■大変よい

- ・今回一番本人に期待していた、「自分への自信」を持つ事ができたと思います。選出されたという事ももちろん、現地での特別な経験や初めてのホームステイはどれも夢の様な出来事で、新しい自分に出会えたようです。出発前にも夏休み中の部活や夏期講習のお休みを報告する際に【武蔵野市のジュニア派遣団で、、】とお話をすると、なかなかできない経験だからと快く送り出してくださいました。帰国後も、決して得意ではない英語で奮闘し、気持ちが通じ合った時の喜びを熱く語ってくれました。特にラボック市の名誉市民の証がお気に入りの様で喜んでいました。難しい思春期に、このような素直な気持ちで感動を表現してくれて、親としてもとても嬉しい瞬間でした。
- ・帰国後、積極的に自ら動くようになった様に感じます。いろいろな体験を通じて自主性を養っていただき感謝しています。
- ・帰国後すぐは、疲れと時差ボケのせいか多くを語りませんでしたが、数日すると「楽しかったからもう一度行きたい。もっとホームステイしたかった。ホストファミリーに会えないのが寂しい。」と口にしていました。そして、写真やお土産を見せてくれながらいろいろと報告をしてくれました。ラボック市やホストファミリーからプレゼントされたTシャツを嬉しそうに毎日着用して夏休みを過ごしています。
- ・現地では翻訳アプリ等も活用したようですが、やはり自分の言葉でもっとコミュニケーションをとれるようになりたいと感じたのか、英語の勉強を頑張りたいと話してくれました。この派遣事業で得た貴重な経験は、確実に身体の中に染み渡り、これからの成長にゆっくりと効いていくはずです。楽しみに見守りたいと思います。今回はこのような素晴らしい機会を頂き、本当にありがとうございました。
- ・海外の文化に関心が高まり、海外のニュースや出来事にこれまで以上に関心を持つようになった。また、親と別に海外に行くことで、自身で考え行動し、出来る事が増えて英語を含めて自信になった。学校の友達以外との交流も刺激になっている。
- ・中学生という感受性豊かな時期に、このような経験が出来たことが、本当にありがたかったです。親と離れて仲間たちや市役所の皆さんと一緒に海外に行くということ、個人の旅行では体験できないような現地の方たちとの交流やホームステイが経験できたこと、武蔵野市の交流団という立場で参加できたこと…全てが本当に貴重な素晴らしい体験だったと思います。参加できて本当によかったです！本人はたくさん不安もあったようでしたが、滞在を満喫できて、最後は「帰りたい」と言っていました。ホストファミリーの方たちが温かく接して下さり、こちらが伝えようとしていることを頑張って理解しようとしてくれたのが、とても嬉しかったようです。英語を実際に使うことができ、コミュニケーションの楽しさを感じたり、英語を使うことへの抵抗感も減ったようでした。帰国後も、チャットでホストファミリーとのやりとりを続けています。本当に、今回の経験で、本人の視野や、世界が広がったと思います。子どもにとってはもちろんですが、親にとってもとてもいい経験になりました。
- ・これまでの人生で経験したことのない大イベントを経て、帰ってきた日は話につきないほどいろいろ話してくれました。今は夏期講習にいっぱいいっぱい、表面上特に変わった様子も見られませんが、確実に一生心に残る素晴らしい体験ができたと思います。
- ・海外旅行、ホームステイ、長時間のフライト等々、初めて経験することばかりでとても楽しく貴重な時間を過ごせたようです。ホームステイ先でもとてもよくしていただいたようで、ホームステイ先の家族のことが

大好きになったと言っておりました。また一緒に行った団員とも仲良くなったようで帰ってきてから早速遊んでいました。研修開始から帰ってくるまで市の職員の方のサポートも手厚く親としても旅行中も安心して過ごせました。今回の派遣事業の関係者の方には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

- まずは、8日間にわたり大変充実した貴重な経験をさせていただきましたことに厚く御礼申し上げます。個人旅行では決して行くことも体験することもできない有意義なプログラム、市の代表として海外で交流を行う使命感と緊張感、交流団員でこそ味わえ、広がった見聞、全てが一生の思い出、糧になり、今後の人生の随所随所できっと役立ってくれることと思います。カメラ代わりに携帯電話を持っていておりましたので時折連絡がきておりましたが、日々圧倒されながら大興奮の中で過ごしている様子が伝わってきました。特にホームステイは驚きの連続で大変刺激的だったようです。行く前は会話が通じなかったらどうしようかと不安がっておりましたが、ホームステイを通じてきちんとした会話ができなくても単語や身振り手振りだけでも意思疎通はできる、なんとかなる、という度胸と術を身につけたようです。中学生にして、言葉だけでなく身体と心で世界の人たちと通じ合えるということを体感できたのは大きな収穫だと思います。少し頼りない子でしたが、すっかり逞しくなって帰ってきました。特にご帯同くださった大塚団長、稲垣様、小林様には感謝しかありません。本当にありがとうございました。
- 帰国後、何度もラボックの話をしており、とても楽しい思い出をしてきたんだな、と思いました。思春期の多感な時に貴重な経験をさせていただき、ホストファミリー・ラボック市や武蔵野市の皆様および交流団の仲間達に感謝しています。
- 経験できたことや、楽しかったこと驚いたことなど、良く話してくれています。やっと、時差ボケから復活したところで、これからどんな風に、影響していくのか楽しみです。今は、参加前より物事に積極的になったように思います。また、とても楽しかったからか、少しだけ心に余裕を感じます。
- 行く前は、不安そうな様子で出発しましたが、帰ってきたときには、「とても楽しかった。全くホームシックにならなかった」と元気に言っていました。武蔵野市の派遣事業なので、安心してアメリカに送り出すことができました。行く前は、ホームステイがもっと長くてもよいのではないかと考えていましたが、何日か団員と一緒に各地を観光して現地に慣れてからホームステイを開始する行程は、非常に良いものだと思います。最初の緊張感が和らぎ、アメリカに慣れたころにホームステイ先を訪問することで、ホームステイ先になじみやすかったのではないかと思います。普通の海外旅行では経験できない貴重な経験をさせていただいたと思います。
- 学年も学校も違う仲間と初めて行く異国の地で協力しながらスケジュールをこなしていくことは、精神面でも体力面でも大変だったと思いますが、観光では行けない現地の大学や市役所など貴重な体験をさせていただきました。どの写真を見ても笑顔で写っており、現地での充実した様子が伝わってきました。また、ホームステイ先でも素晴らしいご家庭にお世話になり、楽しく過ごすことが出来たようです。アメリカサイズの大きな家、大きな庭、大きな車、全てが新鮮だったようです。同じくらいの年齢のお嬢さん方とも英語で会話が出来たようで、とても喜んでおりました。このような体験を感受性豊かな中学生時代に経験出来たことは、今後の人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。この事業に関わってくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
- 初めて経験する海外で、見るものすること全てが新鮮だったようです。帰宅後に写真を見せながらあんな事があったこんな事をした、こんな人に出会ったと話が止まりませんでした。多感な時期に様々な経験をすることで、子どもの心に一生物の大きな宝物がもたらされたと感じています。そして何より、ただ観光として行くだけでなく武蔵野市の代表として訪問するというのも、自分たちのことを伝え、また相手のこともよく知ろうとする良いモチベーションになり、得難い体験となったと感じています。
- この様な機会を与えて下さり、大変感謝しております。子ども自ら参加したいと言い、その日を待ち構えて

いました。若い世代の子ども達が世界を見るにはとても良い機会だったと思います。

- ・大塚団長や稲垣さん小林さんをはじめ武蔵野市役所の多くの方のサポートを頂けたことはもちろん、ラボック市の皆さんから受けたウェルカムのお気持ちに子どもは大変感謝していました。どこへ行っても、「良く来たね！」と子ども達を笑顔で迎え入れて下さり、子ども達がお腹を空かせていないかと沢山のお菓子や飲み物、お土産を用意下さるラボックの方々へ感動と、感謝の連続だったと話してくれました。帰国後に、「ホームシックになった？」と聞いたら、「最高に楽しかったからそんな暇ないよ。ラボックロスで今すぐにラボックに帰りたい！」と真顔で言われました。行きたい。ではなく帰りたいって！とツッコミたくなる気持ちを抑えて、子ども達に惜しみない愛情で接して下さった全ての皆様に深い感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、「英語は通じた？」と聞いたら、「最初は翻訳アプリ使ったんだけど、イマイチ通じないんだ！心を込めて自分の知ってる簡単な単語で会話する方が通じるんだ。単語は大事だから、勉強頑張る！」と意欲を示してくれたのは嬉しかったです。中学生という少し気難しい年頃の子ども達にとって親元から離れて生活をする事で芽生える冒険心や自立心、それをサポートして下さる周りの方からの愛情は大人に成長する段階でとても大きな心の支えになる事と思います。ラボック市ジュニア大使の対象を中学生にして下さった事に大変感謝しております。そしてもう一つ。子どもにとって武蔵野市がただの行政機関ではなく、とても身近な存在になりました。知ってる職員の方が沢山いる市役所にとっても愛着がわき、何か自分にできる事があるならいつでも武蔵野市の力になりたいようです。大使として責任感を持って活動したことが、強い自信と武蔵野市愛に変わったようです。自分の住む武蔵野市を大切にしながら、広い世界に目を向けて成長する事が出来ることは本当に幸せだなあと、感じます。また今回共に過ごした16名のジュニア大使の皆さんとはとても仲が良くなり、お互い助け合いながら友情を育めたようです。子どもにとって市内にお友達が出来た事は本当に嬉しく、今後もみんなと集まるのを今からとても楽しみにしています。このような貴重な経験をさせて下さったラボック市の皆様、市役所の皆様、多感な中学生相手に根気強く接して下さった団員の皆様、本当にありがとうございました。
- ・派遣中に訪れた沢山の場所に刺激を受け、日本とのスケールの違いに多いに感動していました。観光もあつつつ、様々な体験をさせてもらい興奮続きの毎日だった様です。またホームステイ先の家族との交流が特に心に残っている様に感じます。ラボックの方々やホストファミリーと英語で話せる機会があったことも、通じたかはわかりませんが、チャレンジできて満足そうでした。参加できたことに感謝します。人数は限られますが、これからもこの派遣事業が続くことを願います。

2. 派遣期間中団員とは連絡を取っていましたか

- ・とっていた (15名) ・とっていない (1名)

主な連絡手段

SNS (LINE・Instagram)

電話

ホストファミリーからの連絡

3. 最後に、市の青少年交流事業全体に対してご意見がございましたらご自由に記入ください

- ・この度はこのような貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。一緒に参加した団員とも、帰国してからも連絡を取り合い、強い絆ができた様です。また、とても親しみやすく信頼できる引率の指導員の方々だったとも聞き、やはり個人で渡米させるのとは違う安心感もありました。
- ・昨年武蔵野市に縁があつて引っ越しさせて頂きましたが、皆が口を揃えて「子どもを教育するなら武蔵野市は間違いなし！」と太鼓判を押される理由が納得できました。我が家の次女も、遅く帰ってきた姿に影響

を受け、2年後は挑戦してみたいと話していたので今後も続けて頂けると嬉しいです。本当にお世話になりました。

- これからの子ども達を大きく成長させていただける企画だと思います。団員に選ばれることにより責任感も養われてきました。今後も引き続き長く取り組んでいただけたらと思います。
- この青少年交流事業が継続していくことを強く希望します。条件等が合えば、ホームステイ受け入れもさせていただきたいと思っています。
- お互いに相互理解を深められるとても素晴らしい取組みですので、今後も継続していただきたいです。海外に関心をもたない若い世代が増えてきていると言われてますので、この年代で深く外国の文化に触れられる機会があるのは、これからの成長と海外に関心をもつ大変貴重な機会だと思います。
- こうした交流事業がありとてもありがたいです。長く続いていることに驚きました。引率いただいた団長、小林さん、稲垣さんをはじめ、市役所のみなさんには本当にお世話になりました。皆さん、色々なところでサポートしてくださっていたのだと思います。ありがとうございます！引率いただいた皆さんは、海外引率ということで、緊張感というか、本当に色々と気苦労も多かったのではと思います。本当におつかれさまでした。ありがとうございます。おかげで、本当に素敵な体験ができました！研修期間から細やかなサポートをありがとうございました。子どもたちもとても心強かったと思います。ホストファミリーの方にもとてもよくしていただきました。お土産も本当にたくさんいただき、こちらからももっと持っていければよかったな、と思いました。
- 本当に予想以上の大歓迎を受け、濃密な時間を過ごせたようで、安全で充実した旅になるようご尽力くださった武蔵野・ラボック両市の方々に感謝しかありません。派遣が決まってから帰ってくる瞬間まで、私の方が夢を見ているようで、ずっとワクワクしていました(笑)。この事業が末永く続き、たくさんの子どもの夢や目標を見つけるきっかけになることを願ってやみません。本当にありがとうございました。
- 貴重な機会を作ってくださいありがとうございました。素晴らしい事業と思いますので今後も継続されることを願います。
- 市の事業でなければこれほどの内容のものはできないと思いますし、市民にこのような機会を与えてくださることは本当にありがたいと思います。また、交流団が中学生というのも絶妙な年頃だと思いました。家族としましても始めは不安もありましたが、事前研修の時点から団長ほか職員のお2人がついてしっかりサポートしてくださってとても安心でした。また団員の皆さんとも研修である程度打ち解けられていたので、出発を楽しみに迎えられるように思います。市長や副市長が「安心してお任せください」と言ってくださったのも心強かったです。手続きは全てやっていただけたこと、市役所からの出発解散だったことも大変助かりました。
家族皆でこれほど素晴らしい事業が行われている武蔵野市に住んでいて良かったと話しております。他の自治体にお住まいの方からはさすが武蔵野市だと言われました。3歳下の妹もぜひ応募させていただきたいですし、周りの武蔵野市民の方にもお伝えしていこうと思っています。コロナ禍を経て事業を再開していただき、ありがとうございます。今後も継続して行って欲しいと思います。
- 市の交流事業に参加させていただき、大変感謝しています。市内の公立中学校に通い、学校の勉強と部活が全て生活の中で、親元を離れてアメリカ、ラボック市に行き、ホームステイまで体験させていただいたことは、子どもの今後の人生に大きな影響を与えてくださったと思っています。話を聞いていると、自分のまわりで起きていることだけが全てではないこと、同じ時間を違う場所で、違う規模で、違う習慣で過ごしている家族がいることを実感して帰って来てくれたように思います。今後も続く交流で、たくさんの子どもたちが、たくさんに影響を受けて成長していくことを期待しています。
- 非常によい経験をさせていただきました。安全に旅行するための注意点や、渡航先での基本的マナー、ホー

ムステイで役立つ英語表現など、事前準備をしっかり行ってから出発するため、よい勉強になったと思います。普段、接する機会のない市役所の職員の方々と接したり、武蔵野市長のスピーチをごく間近で聞くことができたことも、中学生には貴重な経験だったと感じました。訪問先のラボックでは、普通の旅行ではとても経験できないような貴重な1週間を過ごせたと思います。参加した本人だけでなく、送り出した私たち家族も非常によい勉強になりました。ありがとうございました。

- ・歴史ある青少年交流事業に参加させていただきありがとうございます。このような事業を継続していくのは様々な要因もあり大変なことも多いと思いますが、今回ラボック市の方々に大変温かく迎えていただいたことを感じて、過去の積み重ねによる交流の重要性を深く感じました。ぜひこの先も継続していただき、多くの中学生を送り出していただいて、ラボック市との友情や交流を連綿と繋げて欲しいと思っております。また、ラボック市からの学生さんたちの受入についてもぜひ検討したいと思っております。受け入れにあたっては住宅事情等の懸念事項も多いことから、どのような検討事項があるかなどの情報共有をいただけると大変ありがたいと思っております。
- ・市からの配布物でこの事業を知りました。子ども自身海外への憧れや希望がありましたが、なかなか連れて行く事も出来ない中でこの様な機会を頂き、本当に感謝しております。また同じ地域の同世代の仲間と出会えた事、子どもにとって間違いなくプラスになったと思います。引率の職員の方々にもお世話になり、また親しくなれました事とても嬉しく思います。本当にありがとうございました。
- ・長い間時間をかけ、ラボック市やソウル特別市江東区との交流を大切にして下さりありがとうございます。特にコロナ禍で派遣事業が中断された期間も、両市との関係を絶やさないう交流下さった職員の皆様は大変なご苦勞だったと存じます。今回子ども達がラボック市から受けた盛大な歓迎は、青少年交流事業の皆様が両市との関係を大切に育て下さった元に成り立っている事と大変感謝しております。事前研修でもラボック市の事を知る機会があったからこそ、子ども達はラボックに興味を持ち大好きになりました。今ではニュースでテキサス州という言葉がでると耳を傾けて、心配したり得意気になったり、まるで自分の住む街のように関心を向けるようになりました。今後国際化社会を担う子ども達にとっても大きな影響を与えるこの事業はとても素晴らしいものであり、それをサポートして下さるのが自分達の住む自治体ということが親にとっても子どもにとっても大変有難いです。少し大袈裟かもしれませんが、子ども達が世界に飛び立つきっかけにもなり得るこの事業が今後も末永く続く事を切に願っております。
- ・市の青少年交流事業を、市報が届くたびに拝見しています。親は参加させたいものがありますが、年頃もあり、子どもが乗り気にならないことが多くて残念です。今回の交流事業には興味を持ってくれました。